はじめに

この冊子には、2020 年度の S セメスターに教養学部前期課程の 1・2 年生に対して開講される講義内容の概要(『科目紹介』)と、学年・科類・専門学部ごとの時間割(『時間割表』)が記載されています。

『科目紹介』では、時間割ごとに講義に関する情報を記載していますが、より詳しい情報は、UTAS (https://utas.adm.utokyo.ac.jp/campusweb/) のシラバスで公開していますので、履修を検討している講義については必ず参照してください。それぞれの講義内容をよく比較して、各自履修計画を立ててください。なお、こちらは『履修の手引き』のI-4に掲載されている、(表 2) 「前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数」の順に記されています。

『時間割表』は、「科類別時間割表」「総合科目等時間割表」「専門科目一覧表」に分かれています。受講するクラスが指定されている科目は、科類ごとに「科類別時間割表」に、受講するクラスが指定されていない総合科目、主題科目及び展開科目は、「総合科目等時間割表」に、各種情報が記載されています。

入学時に配付された『履修の手引き』を参照して、前期課程の修了要件を満たすためにはどの科目群からどの程度の単位の履修が必要か、進学志望の学部・学科等の要望科目・要求科目はどうなっているか、将来進むべき専門分野の基礎知識を十分につけ、あわせて幅広く深い教養を身につけるためにはどのような組み合わせで講義を履修するのがよいかなどを十分に考えて、バランスよく履修計画を立ててください。

教室の変更について

講義を受講する学生が、教室の収容人数を大幅に超え、多数の学生が椅子に座ることのできないケースが、近年目立ってきています。この問題を解決するために、教員からの教室変更の要望があり次第、随時教室の変更を行っています。

したがって、授業期間開始から履修科目確認・訂正期間終了時までは、特に掲示・UTAS を確認して、教室変更の情報に十分注意してください。

また、履修科目確認・訂正期間以降についても、空調の故障等の原因により、急遽教室変更が生じることがありますので、教室変更の情報は随時確認するようにしてください。

Sセメスター(S1・S2ターム)科目紹介

この電子ブックには S セメスター (S1・S2 ターム) に開講される科目の科目紹介 (シラバス) が掲載されていますので、 履修計画を立てる際の参考にしてください。シラバスは本冊子以外にも、UTAS にログインの上、画面上「シラバス」メニューから「(シラバス参照)」を選択することでも参照ができます。UTAS 上のシラバスは本冊子の科目紹介よりも多くの情報が掲載されていますので、 履修を考えている授業については、 UTAS 上のシラバスも併せて参照するようにしてください。 具体的には、「授業計画」「学習上のアドバイス」などの項目は、 UTAS 上のシラバスのみに掲載されています。

科目紹介(シラバス)例(科目ごとに掲載されている項目・情報は異なります)

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	単位	教室	対象
1	2	東大概論	駒場 太郎	3	4	(5)	6	7
講義題目								
目標概要								
評価方法		8						
教科書								
ガイダンス								

①時間割コード

それぞれの授業に割り振られている固有の番号です。UTASでシラバスを参照する際などに使用します。

②開講区分

授業が開講される期間を示します。それぞれの表示は以下の期間での開講を表します。

開講区分	正式名称	授業の開講期間
S	Sセメスター	概ね 4~7 月
S1	S1 ターム	概ね 4~5 月
S2	S2 ターム	概ね6~7月

授業日の詳細については、表紙裏の授業等日程を参照してください。

③所属

教養学部(総合文化研究科)が開講する授業は、開講元の部会名又は学科(専攻)が掲載されています。 他学部・研究科等が開講する授業は、当該学部・研究科等の名前が掲載されています。

開講所属凡例

教養学部前期課程部会					
英語					
ドイツ語					
フランス語・イタリア語					
中国語					
韓国朝鮮語					
ロシア語					
スペイン語					
古典語・地中海諸言語					
法・政治					
経済・統計					
社会・社会思想史					
国際関係					
歴史学					
国文・漢文学					
文化人類学					
哲学・科学史					
心理・教育学					
人文地理学					
物理					
化学					
生物					
情報・図形					
宇宙地球					
相関自然					
スポーツ・身体運動					
数学					
PEAK 前期					
日本語					
先進科学					

教養学部	
統合自然科学科	

総合文化研究科
言語情報科学専攻
超域文化科学専攻
表象文化論コース
超域文科化学専攻
比較文学比較文化コース
地域文化研究専攻
地域文化研究専攻
アジア・日本文化研究コース

その他(後期課程諸学部、全学センターなど)						
情報メディア科学委員会						
法学部						
医学部						
新領域創成科学研究科						
先端科学技術研究センター						
生産技術研究所						
人間の安全保障プログラム						
etc.						

④曜限

授業が行われる曜限が掲載されています。「集中講義」と記載されている授業は、特定の日程や授業期間外に行われることがありますので、授業内容を確認してください。

⑤単位

当該授業に合格した場合に得られる単位数が掲載されています。当項目の掲載がない科目については、『履修の手引き』 p.6 に掲載されている内容に従います。

6教室

授業が行われる教室が掲載されています。表記と対応する号館・建物は以下のとおりです。

建物名称
1号館
5号館
7号館
講堂
10 号館
11 号館
12 号館
13 号館

教室名称	建物名称
KALS	17 号館 2 階
E21~E49	情報教育棟
K101~K502(下 2 桁目が 0)	21KOMCEE West
K011~K214(下 2 桁目が 1)	21KOMCEE East
学際交流ホール	アド ミニストレーション棟3階
18 号館ホール	18 号館 1 階
音楽実習室, 舞台芸術実習室	コミュニケーションプ ラザ 北館

駒場キャンパスの建物配置図については教養学部前期課程 HP の建物配置図を参照してください。教室欄に「シラバス参照」と記載されている授業は、上表以外の教室や駒場キャンパス以外の場所で開講される授業のため、正しい開講場所をシラバスやガイダンス等で確認してください。

また、初回のみ通常と異なる教室で行われる授業や、授業開始後に教室変更が行われる授業がありますので、シラバスや掲示板・教養学部前期課程 HP のお知らせを随時確認し、実際に授業が行われる教室を正確に把握するようにしてください。

⑦対象

授業の対象となる科類やクラスが掲載されています。欄内の数字は組番号を表し、複数クラスが対象の場合は「6,16-18,20」のように範囲を示しています(この場合は 17 組も対象クラスに含みます)。「奇数」「偶数」と記載のある場合には、学生証番号末尾の数字の奇数・偶数で対象学生を示しています。本項目で指定されていない科類・クラス等に所属している学生は当該授業の履修登録を行うことができないので、注意してください。

⑧科目紹介の内容

具体的な科目紹介の内容が掲載されています。授業によっては、履修にあたっての注意点等が挿入されていることがあります。不明な点は教務課に必ず確認の上、履修登録を行うようにしてください。

英語の履修について

既修外国語の英語は各科目 1 単位または 2 単位で、計 5 単位の科目群であり、英語一列(教養英語)・英語二列 S (アカデミック・ディスカッション)・英語二列W(アカデミック・ライティング)に分けられる(その他に総合科目 L 系列 3 単位)。

英語一列(教養英語)は共通教科書とこれに関連する音声教材を使用する習熟度別の授業である。英語二列Sも同じく習熟度別の授業であり、文科生、理科生とも FLOW(Fluency-Oriented Workshop)のプログラムにより実施する。英語二列Wは、文科生は ALESA(Active Learning of English for Students of the Arts)、理科生は ALESS(Active Learning of English for Science Students)のプログラムにより実施する。

- ●本冊子においては、次頁以降「英語一列 | 「英語二列 S | 「英語二列W | のシラバスが掲載されている。
- ●「英語一列」「英語二列S」「英語二列W」は所属クラスに応じてあらかじめ指定された授業を履修する。「英語一列」「英語二列S」は習熟度別にクラスが分けられている。
- ●「英語一列」「英語二列S」「英語二列W」の3科目をそれぞれどのターム・セメスターに履修するかについては、所属クラスにより異なり、下表の4つのグループにあらかじめ分けられる。「(クラス指定総合科目L)」と記載されている部分については、総合科目L系列「英語中級」が所属クラスに対するクラス指定の授業として開講される。

	ターム・セメスター				
所属クラス	1S1 1S2		1A1	1A2	
M属クノヘ	1	S	1A		
文一二 (8,11,22,25-26) 文三 (5,7,11,14,19)	英語一列①	英語二列 S	(クラス指定 総合科目 L)	英語一列②	
理一 (1-4,12,17,18,20,23,31,35-36,39) 理二三 (11,13,20,23)	(クラス指定	(総合科目 L)	英語二列 W		
文一二 (5-6,13,15,16,18-19,24) 文三 (6,10,12,17)	英語一列①	(クラス指定 総合科目 L)	英語二列 S	英語一列②	
理一 (7,9,13,19,25,28,30,34,37) 理二三 (6-7,18,19,22)	英語=	二列 W	(クラス指定総合科目 L)		
文一二 (1-3,7,10,17,20-21,23,27-28) 文三 (1-3,9,15-16)	英語二列 S 英語一列①		英語一列②	(クラス指定 総合科目 L)	
理一 (8,11,16,21,24,27,29,33) 理二三 (4,8,9,14,17,21)	(クラス指定総合科目 L)		英語二列 W		
文一二 (4,9,12,14) 文三 (4,8,13,18,20)	(クラス指定 総合科目 L)	英語一列①	英語一列②	英語二列 S	
理一 (5-6,10,14-15,22,26,32,38) 理二三 (1-3,5,10,12,15-16,24)	英語二	二列 W	(クラス指定総合科目 L)		

外国語(英語一列・特別クラス)

英語一列(教養英語)・特別クラス

≪英語一列①(教養英語)≫

目標・概要

「教養英語」は、本学教養学部の英語部会教員が教養課程における英語学習のために作成した、理科生、文科生を問わず学生の知的関心に応える高度で分野横断的な内容をもつ教科書『教養英語読本』と、これに関連したリスニング教材を使用して行う授業である。リスニング教材(音声)およびスクリプトは下記「関連ホームページ」で配信する。クラスは、学生の習熟度に合わせて三段階に分かれており、それぞれのグループの学生にもっとも適した進度や授業方法を採用する。その際、全クラスで共通して学習する部分を一定量設けて試験範囲とし、これに実力問題を加えた統一定期試験を実施する。

授業の方法

- ・「教養英語」が行われる時間帯には、それぞれ複数のクラスが設けられている。各クラスの教室割当は教務課掲示板 に掲示する(他の語学クラスとは違うので注意すること)。
- ・「教養英語」では、習熟度に応じて三つのグループを設定している。

グループ1: 約300名。授業は英語で行われる。指定された共通部分以外のテキストの範囲もカバーし、テキストの内容理解に加え、作文・ディスカッションなど応用的な活動も含まれる。

グループ 2: 約900名。授業は原則として日本語で行われる。指定された共通部分以外のテキストの範囲もカバーし、テキストの正確な読解に加え、作文・ディスカッションなど各教員の個性を生かした応用的な活動も含まれる。

グループ3: 約1800名。授業は原則として日本語で行われる。指定された共通部分をカバーし、語彙・文法等を重視しながら読解力の養成を目指すが、それを元にした発展的な活動を含むこともある。

・具体的な授業スケジュール(教材の選択、利用方法、必要な準備など)は、授業開始後に各クラスで教員から伝達される。

成績評価方法

定期試験(統一試験)および平常点

教科書

次の教科書を使用する。 / Will use the following textbook

書名 教養英語読本Ⅱ

著者(訳者) 東京大学教養学部英語部会(編)

出版社 東京大学出版会

関連ホームページ http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/efas/

≪英語特別クラス≫

非英語圏からの留学生、及び入試の外国語を英語以外で受験した者で、かつ英語の履修を希望する者は、英語部会の許可を得て「英語特別クラス」の履修で「英語一列①」「英語二列」「総合科目 L 系列 英語中級」の単位に充当することができる。履修希望者は掲示を参照し、教務課前期課程の窓口で申し出ること。

授業科目名	担当教員	教室	開講	曜限	対象クラス
			S1	火 3	1年文一二 (13,24-25) 文三 (11,17) 理一 (1-4,9,18-19) 理二三 (7,13)
				火 4	1年文一二 (6,8,18) 文三 (5,7,12) 理一 (20,30-31,34-35) 理二三 (11,18,22)
				水 2	1年文一二 (5,15,19,26) 文三 (6,19) 理一 (7,12,23,28,36) 理二三 (6,23)
英語一列①	教養英語	各教室		水 3	1年文一二 (11,16,22) 文三 (10,14) 理一 (13,17,25,37,39) 理二三 (19-20)
大山 列①	担当教員		S2	火 3	1年文一二 (1-3,7,9,27) 文三 (1-3,8-9) 理一 (5-6,16,27) 理二三 (1-3,5,12,17)
				火 4	1年文一二 (4,21,23) 文三 (16,18) 理一 (21-22,32,38) 理二三 (8,14-15)
				水 2	1年文一二 (10,14,20) 文三 (4,13) 理一 (11,14-15,24) 理二三 (4,9-10)
				水 3	1年文一二 (12,17,28) 文三 (15,20) 理一 (8,10,26,29,33) 理二三 (16,21,24)

外国語 (英語二列 S)

(FLOW) Fluency-Oriented Workshop

授業の目標・概要
The course aims to build students' confidence and ability to engage fluently and critically in a classroom discussion, to be aware of their weaknesses, and to have the tools to improve autonomously. Grades are based on active participation in class activities and on related assignments.

	細・受請	するクラ	テスについては、UTAS を参照すること	1	
時間割コード	開講	曜限	担当教員	教室	対象クラス
30374	S 1	火 3	ナオミ バーマン	K114	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30375	S 1	火 3	ホールマン フランシス キャンドラー	516 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30376	S 1	火 3	ハンセン キャサリン	10-206	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30377	S 1	火 3	BORDILOVSKAYA Anna	150 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30378	S 1	火 3	TSAI Aurora Marjorie	517 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30379	S 1	火 3	BROOKS Britton	534 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30380	S 1	火 3	マニナン ジョン	515 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30381	S 1	火 3	PAZDZIORA JOHN PATRICK	119 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30382	S 1	火 3	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30383	S 1	火 3	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	157 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30384	S 1	火 3	AKINDELE Tito	K113	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30385	S 1	火 3	DIETZ Richard	518 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30386	S 1	火 3	Kartika Diana	K303	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30387	S 1	火 3	モレノ ペナランダ ラケル	10-202	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30388	S 1	火 3	テラシマ アレクサンドラ	152 教室	1年 文一二(1-3,7,27)文三(1-3,9)理一(16,27)理二三(17)
30491	S 1	火 4	テラシマ アレクサンドラ	152 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30492	S 1	火 4	BROOKS Britton	534 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30493	S 1	火 4	BUENO Alex Falcon	120 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30494	S 1	火 4	DIETZ Richard	518 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30495	S 1	火 4	ジェームズ エリンガー	K402	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30496	S 1	火 4	ホールマン フランシス キャンドラー	516 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30497	S 1	火 4	ハンセン キャサリン	10-206	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30498	S 1	火 4	Kartika Diana	K303	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30499	S 1	火 4	PAZDZIORA JOHN PATRICK	119 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30500	S 1	火 4	RUIZ TADA Elisa	114 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30501	S 1	火 4	BORDILOVSKAYA Anna	150 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30502	S 1	火 4	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30503	S 1	火 4	ナオミ バーマン	K114	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30504	S 1	火 4	TSAI Aurora Marjorie	517 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30505	S 1	火 4	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	157 教室	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
31824	S 1	火 4	AKINDELE Tito	K113	1年 文一二(21,23)文三(16)理一(21)理二三(8,14)
30630	S 1	水 2	PULIDO ARCAS Jesus Alberto	517 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30631	S 1	水 2	モレノ ペナランダ ラケル	10-202	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30632	S 1	水 2	Kartika Diana	515 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30633	S 1	水 2	ハンセン キャサリン	10-304	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30634	S 1	水 2	ジェームズ エリンガー	518 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)

外国語(英語	二列 S)				
30635	S 1	水 2	BUENO Alex Falcon	117 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30636	S 1	水 2	BROOKS Britton	115 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30637	S 1	水 2	WEITEMIER Adam	119 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30638	S 1	水 2	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	120 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30639	S 1	水 2	ROBB Nigel	K212	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30640	S 1	水 2	テラシマ アレクサンドラ	114 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30641	S 1	水 2	SEDDON Ryan John	118 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30642	S 1	水 2	TSAI Aurora Marjorie	113 教室	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30643	S 1	水 2	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(10,20)理一(11,24)理二三(4,9)
30718	S 1	水 3	木村 大輔	149 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30719	S 1	水 3	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	120 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30720	S 1	水 3	ROBB Nigel	10-102	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30721	S 1	水 3	TSAI Aurora Marjorie	113 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30722	S 1	水 3	BROOKS Britton	115 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30723	S 1	水 3	BORDILOVSKAYA Anna	516 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30724	S 1	水 3	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30725	S 1	水 3	RUIZ TADA Elisa	114 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30726	S 1	水 3	PAZDZIORA JOHN PATRICK	102 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30727	S 1	水 3	NADADUR KANNAN Rajalakshmi	116 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30728	S 1	水 3	モレノ ペナランダ ラケル	10-202	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30729	S 1	水 3	BUENO Alex Falcon	117 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30730	S 1	水 3	AKINDELE Tito	118 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30731	S 1	水 3	Kartika Diana	515 教室	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30732	S 1	水 3	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-206	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
30733	S 1	水 3	ハンセン キャサリン	10-304	1年 文一二(17,28)文三(15)理一(8,29,33)理二三(21)
40157	S 2	火 3	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	157 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40158	S 2	火 3	AKINDELE Tito	K113	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40159	S 2	火 3	テラシマ アレクサンドラ	152 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40160	S 2	火 3	ナオミ バーマン	K114	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40161	S 2	火 3	DIETZ Richard	518 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40162	S 2	火 3	TSAI Aurora Marjorie	517 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40163	S 2	火 3	モレノ ペナランダ ラケル	10-202	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40164	S 2	火 3	マニナン ジョン	515 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40165	S 2	火 3	ホールマン フランシス キャンドラー	516 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40166	S 2	火 3	Kartika Diana	K303	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40167	S 2	火 3	BORDILOVSKAYA Anna	150 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40168	S 2	火 3	ハンセン キャサリン	10-206	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40169	S 2	火 3	PAZDZIORA JOHN PATRICK	119 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40170	S 2	火 3	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40171	S 2	火 3	BROOKS Britton	534 教室	1年 文一二(25)文三(11)理一(1-4,18)理二三(13)
40181	S 2	火 4	TSAI Aurora Marjorie	517 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40182	S 2	火 4	Kartika Diana	K303	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40183	S 2	火 4	ナオミ バーマン	K114	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)

外国語(英語	二列 S)				
40184	S 2	火 4	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40185	S 2	火 4	テラシマ アレクサンドラ	152 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40186	S 2	火 4	BROOKS Britton	534 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40187	S 2	火 4	BORDILOVSKAYA Anna	150 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40188	S 2	火 4	ホールマン フランシス キャンドラー	516 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40189	S 2	火 4	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	157 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40190	S 2	火 4	ハンセン キャサリン	10-206	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40191	S 2	火 4	RUIZ TADA Elisa	114 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40192	S 2	火 4	ジェームズ エリンガー	K402	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40193	S 2	火 4	DIETZ Richard	518 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40194	S 2	火 4	BUENO Alex Falcon	120 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40195	S 2	火 4	PAZDZIORA JOHN PATRICK	119 教室	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40319	S 2	火 4	AKINDELE Tito	K113	1年 文一二(8)文三(5,7)理一(20,31,35)理二三(11)
40217	S 2	水 2	BUENO Alex Falcon	117 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40218	S 2	水 2	WEITEMIER Adam	119 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40219	S 2	水 2	BROOKS Britton	115 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40220	S 2	水 2	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	120 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40221	S 2	水 2	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40222	S 2	水 2	SEDDON Ryan John	118 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40223	S 2	水 2	教員未定	113 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40224	S 2	水 2	テラシマ アレクサンドラ	114 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40225	S 2	水 2	ROBB Nigel	K212	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40226	S 2	水 2	モレノ ペナランダ ラケル	10-202	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40227	S 2	水 2	Kartika Diana	515 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40228	S 2	水 2	ジェームズ エリンガー	518 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40229	S 2	水 2	ハンセン キャサリン	10-304	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40230	S 2	水 2	PULIDO ARCAS Jesus Alberto	517 教室	1年 文一二(26)文三(19)理一(12,23,36)理二三(23)
40232	S 2	水 3	RUIZ TADA Elisa	114 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40233	S 2	水 3	BUENO Alex Falcon	117 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40234	S 2	水 3	Kartika Diana	515 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40235	S 2	水 3	モレノ ペナランダ ラケル	10-202	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40236	S 2	水 3	木村 大輔	149 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40237	S 2	水 3	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40238	S 2	水 3	教員未定	113 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40239	S 2	水 3	ROBB Nigel	10-102	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40240	S 2	水 3	BORDILOVSKAYA Anna	516 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40241	S 2	水 3	BROOKS Britton	115 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40242	S 2	水 3	ハンセン キャサリン	10-304	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40243	S 2	水 3	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-206	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40244	S 2	水 3	NADADUR KANNAN Rajalakshmi	116 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40245	S 2	水 3	PAZDZIORA JOHN PATRICK	102 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40246	S 2	水 3	AKINDELE Tito	118 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)
40247	S 2	水 3	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	120 教室	1年 文一二(11,22)文三(14)理一(17,39)理二三(20)

(英語二列 W)ALESA 外国語

Active Learning of English for Students of the Arts (ALESA)

開講区分

S

授業の目標・概要

This course introduces students to the skill of building an effective written argument in English supported by sources and evidence and to the conventions of formal writing. By the end of the course, students will:

- be able to present a clear position which is supported by evidence and addresses alternative points of view; understand the organisation and rhetorical features of an argumentative essay;
- be familiar with basic stylistic conventions of academic writing.

授業の方法

Class activities will include reading and analyzing argumentative writing in English; developing a position on a issue on the basis of individual research; engaging in a variety of pre-writing exercises; drafting and revising an essay; and using peer feedback to improve students' own and others' work in discussion and written

The class is taught in English, and students are encouraged to speak English in class. Graduate-student teaching assistants are available in the Komaba Writers' Studio to help students with their research, writing, and discussion.

成績評価方法 関連ホームページ

Grades are based on writing assignments, discussion, and participation in class activities. http://ale.c.u-tokyo.ac.jp/

※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること

時間割コード	曜限	するクラスについては、UTAS を参照すること 担当教員	教室	対象クラス
30031	月 2	ナオミ バーマン	K301	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30032	月 2	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30033	月 2	Kartika Diana	K303	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30034	月 2	木村 大輔	116 教室	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30035	月 2	TSAI Aurora Marjorie	115 教室	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30037	月 2	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30038	月 2	BROOKS Britton	117 教室	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30039	月 2	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-206	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30040	月 2	ホールマン フランシス キャンドラー	515 教室	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30041	月 2	片山 晶子	E25 教室	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30042	月 2	モレノ ペナランダ ラケル	E35 教室	1年 文一二(6,14)文三(4,10,20)
30867	木 2	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-206	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30868	木 2	PAZDZIORA JOHN PATRICK	515 教室	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30869	木 2	片山 晶子	E39 教室	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30870	木 2	BUENO Alex Falcon	119 教室	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30871	木 2	BROOKS Britton	103 教室	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30872	木 2	ハンセン キャサリン	10-103	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30873	木 2	DIETZ Richard	518 教室	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30874	木 2	木村 大輔	114 教室	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30875	木 2	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	151 教室	1年 文一二(4,9,18)文三(17)
30931	木 3	ハンセン キャサリン	10-103	1年 文一二(13,15,24)文三(13)
30932	木 3	モレノ ペナランダ ラケル	K402	1年 文一二(13,15,24)文三(13)
30933	木 3	木村 大輔	114 教室	1年 文一二(13,15,24)文三(13)
30934	木 3	DIETZ Richard	518 教室	1年 文一二(13,15,24)文三(13)
30935	木 3	BUENO Alex Falcon	119 教室	1年 文一二(13,15,24)文三(13)
30936	木 3	BROOKS Britton	103 教室	1年 文一二(13,15,24)文三(13)
30937	木 3	PAZDZIORA JOHN PATRICK	515 教室	1年 文一二(13,15,24)文三(13)
30938	木 3	VANDEN BUSSCHE Eric Armand	158 教室	1年 文一二(13,15,24)文三(13)

外国語(英語	二列 W) A	ALESA		
30939	木 3	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-206	1年 文一二(13,15,24)文三(13)
31054	金 1	PAZDZIORA JOHN PATRICK	152 教室	1年 文一二(12,19)文三(8,12)
31055	金 1	ホールマン フランシス キャンドラー	517 教室	1年 文一二(12,19)文三(8,12)
31056	金 1	Kartika Diana	K303	1年 文一二(12,19)文三(8,12)
31057	金 1	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(12,19)文三(8,12)
31058	金 1	BUENO Alex Falcon	158 教室	1年 文一二(12,19)文三(8,12)
31059	金 1	DIETZ Richard	KALS	1年 文一二(12,19)文三(8,12)
31060	金 1	TSAI Aurora Marjorie	154 教室	1年 文一二(12,19)文三(8,12)
31061	金 1	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-206	1年 文一二(12,19)文三(8,12)
31151	金 3	Kartika Diana	K201	1年 文一二(5,16)文三(6,18)
31152	金 3	TSAI Aurora Marjorie	154 教室	1年 文一二(5,16)文三(6,18)
31153	金 3	ナオミ バーマン	K114	1年 文一二(5,16)文三(6,18)
31154	金 3	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-206	1年 文一二(5,16)文三(6,18)
31155	金 3	PAZDZIORA JOHN PATRICK	152 教室	1年 文一二(5,16)文三(6,18)
31156	金 3	DIETZ Richard	KALS	1年 文一二(5,16)文三(6,18)
31157	金 3	BUENO Alex Falcon	119 教室	1年 文一二(5,16)文三(6,18)
31158	金 3	沈 尚玉	10-204	1年 文一二(5,16)文三(6,18)

外国語(英語二列 W)ALESS

	A	ctive Learning of English for Science Students (ALES	*	開講区分	S
授業の目標が表現である。		In this course, students learn about formal scientiand rhetoric of scientific papers; and the process and revision. Grades are based on writing a research paper, gparticipation in class activities.	of writing and prepari	ng formal papers	through peer review
※講義の詳	細・受講する	るクラスについては、UTAS を参照すること			
時間割	曜限	 担当教員	教室	対象	シクラス
コード	1年12	四日秋泉		\13	
30055	月 2	NADADUR KANNAN Rajalakshmi	10-303	1年理	!(5,13,19)
30056	月 2	SEDDON Ryan John	516 教室	1年理	!(5,13,19)
30057	月 2	WEITEMIER Adam	118 教室	1年理	!(5,13,19)
30058	月 2	ジェームズ エリンガー	119 教室	1年理	!—(5,13,19)
30059	月 2	AKINDELE Tito	517 教室	1年理	!(5,13,19)
30060	月 2	神島 智子	E36 教室	1年理	!(5,13,19)
30061	月 2	マニナン ジョン	K401	1年理	!(5,13,19)
30102	月 3	NADADUR KANNAN Rajalakshmi	10-303	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30103	月 3	PULIDO ARCAS Jesus Alberto	518 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30104	月 3	ROBB Nigel	10-101	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30105	月 3	RUIZ TADA Elisa	116 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30106	月 3	SEDDON Ryan John	516 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30107	月 3	テラシマ アレクサンドラ	115 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30108	月 3	タヴァレス ヴァスケス ジエーゴ	KALS	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30109	月 3	WEITEMIER Adam	118 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30110	月 3	AKINDELE Tito	158 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30111	月 3	BORDILOVSKAYA Anna	517 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30112	月 3	ホールマン フランシス キャンドラー	515 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30114	月 3	ナオミ バーマン	K301	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30115	月 3	ジェームズ エリンガー	117 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30116	月 3	マニナン ジョン	K401	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30117	月 3	モレノ ペナランダ ラケル	E35 教室	1年 理一(9,1	4-15,25,28,30,34)
30113	月 4	神島 智子	E36 教室	1年理一(7)	理二三(1-3,10,15)
30199	月 4	マニナン ジョン	K401	1年 理一(7)	理二三(1-3,10,15)
30200	月 4	BORDILOVSKAYA Anna	517 教室	1年 理一(7)	理二三(1-3,10,15)
30201	月 4	テラシマ アレクサンドラ	115 教室	1年理一(7)	理二三(1-3,10,15)
30202	月 4	ROBB Nigel	10-101	1年 理一(7)	理二三(1-3,10,15)
30203	月 4	PULIDO ARCAS Jesus Alberto	518 教室	1年 理一(7)	理二三(1-3,10,15)
30204	月 4	RUIZ TADA Elisa	116 教室	1年 理一(7)	理二三(1-3,10,15)
30205	月 4	ジェームズ エリンガー	117 教室	1年 理一(7)	理二三(1-3,10,15)
30283	火 1	ROBB Nigel	10-102	1年 理一(1	0)理二三(12,19)
30284	火 1	マニナン ジョン	10-202	1年 理一(1	0)理二三(12,19)
30285	火 1	SEDDON Ryan John	516 教室	1年 理一(1	0)理二三(12,19)
30286	火 1	ジェームズ エリンガー	118 教室	1年 理一(1	0)理二三(12,19)
		I	1	1	

外国語(英語二	二列 W)ALES	SS		
30287	火 1	神島 智子	114 教室	1年 理一(10)理二三(12,19)
30288	火 1	タヴァレス ヴァスケス ジエーゴ	534 教室	1年 理一(10)理二三(12,19)
30289	火 1	WEITEMIER Adam	517 教室	1年 理一(10)理二三(12,19)
30577	水 1	SEDDON Ryan John	118 教室	1年 理一(6,22,32,38)
30578	水 1	タヴァレス ヴァスケス ジエーゴ	KALS	1年 理一(6,22,32,38)
30579	水 1	WEITEMIER Adam	119 教室	1年 理一(6,22,32,38)
30580	水 1	AKINDELE Tito	518 教室	1年 理一(6,22,32,38)
30581	水 1	NADADUR KANNAN Rajalakshmi	116 教室	1年 理一(6,22,32,38)
30582	水 1	PULIDO ARCAS Jesus Alberto	517 教室	1年 理一(6,22,32,38)
30583	水 1	BORDILOVSKAYA Anna	516 教室	1年 理一(6,22,32,38)
30584	水 1	ホールマン フランシス キャンドラー	515 教室	1年 理一(6,22,32,38)
30585	水 1	ナオミ バーマン	K201	1年 理一(6,22,32,38)
30902	木 2	AKINDELE Tito	158 教室	1年 理一(26)
30903	木 2	モレノ ペナランダ ラケル	K402	1年 理一(26)
30904	木 2	ジェームズ エリンガー	120 教室	1年 理一(26)
31076	金 1	テラシマ アレクサンドラ	155 教室	1年 理二三(5-6,18)
31077	金 1	SEDDON Ryan John	156 教室	1年 理二三(5-6,18)
31078	金 1	RUIZ TADA Elisa	116 教室	1年 理二三(5-6,18)
31079	金 1	PULIDO ARCAS Jesus Alberto	515 教室	1年 理二三(5-6,18)
31080	金 1	NADADUR KANNAN Rajalakshmi	10-304	1年 理二三(5-6,18)
31081	金 1	神島 智子	E36 教室	1年 理二三(5-6,18)
31192	金 3	マニナン ジョン	K402	1年 理二三(7,22)
31193	金 3	ROBB Nigel	10-101	1年 理二三(7,22)
31194	金 3	テラシマ アレクサンドラ	155 教室	1年 理二三(7,22)
31195	金 3	WEITEMIER Adam	518 教室	1年 理二三(7,22)
31196	金 3	ホールマン フランシス キャンドラー	517 教室	1年 理二三(7,22)
31241	金 4	BORDILOVSKAYA Anna	517 教室	1年 理一(37)理二三(16,24)
31242	金 4	NADADUR KANNAN Rajalakshmi	10-304	1年 理一(37)理二三(16,24)
31243	金 4	RUIZ TADA Elisa	116 教室	1年 理一(37)理二三(16,24)
31244	金 4	WEITEMIER Adam	518 教室	1年 理一(37)理二三(16,24)
31245	金 4	ROBB Nigel	10-101	1年 理一(37)理二三(16,24)
31246	金 4	SEDDON Ryan John	156 教室	1年 理一(37)理二三(16,24)
31247	金 4	PULIDO ARCAS Jesus Alberto	KALS	1年 理一(37)理二三(16,24)

基礎科目 ドイツ語

ドイツ語 開講区分 S L列では共通教材『Einblicke』(東京大学教養学部ドイ ツ語部会編)を用いて、週二回の授業によ 授業の目標・概要 の、文法と読解を中心に、会話練習を交えながら総合的にドイツ語を学習する。 履修者は必ず、同一クラスの一列と二列を履修すること。一列もしくは二列のみの履修は認められな なお、L系列の科目、特にドイツ語初級(演習)も積極的に履修することを勧める。 平常点および試験によって行う。なお、1 年生 S セメスターの一列・二列には同一の成績がつく。 成績評価方法 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook ドイツ語共通教科書『Einblicke』 東京大学教養学部ドイツ語部会編 関連ホームページ http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/ ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること 時間割 曜限 授業科目名 担当教員 教室 対象クラス コード ドイツ語一列① 122 教室 30074 月 2 大石 紀一郎 1年 理一(32) 30136 月 3 ドイツ語一列① 三宅 晶子 108 教室 1年 理一(29) -列(1) 森井 裕一 月 4 ドイツ語 1212 教室 1年 文一二(21) 30185 ドイツ語 -列(1) 火 1 高橋 亮介 105 教室 1年 文一二(1)文三(1)理一(1)理二三(1) 30270 30428 火 3 ドイツ語 -列① 斉藤 渉 1213 教室 1年 文三(16) 火 3 ドイツ語 一列① 一條 麻美子 1322 教室 1年 理一(31) 30440 30441 火 3 ドイツ語 -列(1) 森 芳樹 1311 教室 1年 理一(33) -列(1) 30663 水 2 ドイツ語 長木 誠司 102 教室 1年 文三(15) 1年 理二三(20) 30683 水 2 ドイツ語一列① 足立 信彦 109 教室 田中 純 30746 水 3 ドイツ語 一列(1) 155 教室 1年 理一(30) ドイツ語一列① 30884 稲葉 治朗 106 教室 1年 文一二(20) 木 2 30885 木 2 ドイツ語一列① 森 芳樹 107 教室 1年 文一二(22) ドイツ語一列① 石原 あえか 1年 理一(28) 30901 木 2 10-308 ドイツ語 -列(1) 一條 麻美子 117 教室 1年 理二三(17) 31200 金 3 ドイツ語一列① 梶谷 真司 31201 金 3 156 教室 1年 理二三(18) ドイツ語一列① 金 3 高橋 宗五 164 教室 31202 1年 理二三(19) 月 2 ドイツ語二列 川喜田 敦子 105 教室 1年 文三(15) 30050 30072 月 2 ドイツ語二列 有信 真美菜 121 教室 1年 理一(30) 30186 月 4 ドイツ語二列 有信 真美菜 112 教室 1年 文一二(22) 月 4 ドイツ語二列 足立 信彦 1年 理二三(20) 30219 164 教室 30421 火 3 ドイツ語二列 久保 哲司 1222 教室 1年 文一二(21) 30439 火 3 ドイツ語二列 石原 あえか 10-103 1年 理一(28) 金 志成 30490 火 4 ドイツ語二列 1221 教室 1年 文一二(20) 1年 理二三(19) 30522 火 4 ドイツ語二列 久保 哲司 1222 教室 ドイツ語二列 30552 火 5 金 志成 1221 教室 1年 理二三(18) 1年 理二三(17) ドイツ語二列 識名 章喜 1212 教室 30682 水 2 30889 木 2 ドイツ語二列 斉藤 渉 512 教室 1年 文三(16) 30905 木 2 ドイツ語二列 一條 麻美子 159 教室 1年 理一(31) ドイツ語二列 1年 理一(32) 30906 木 2 大石 紀一郎 10-303 クリスティアン 30985 木 4 ドイツ語二列 K114 1年 文一二(1)文三(1)理一(1)理二三(1)

クリンク

基礎科目 ドイツ語

31188	金 3	ドイツ語二列	新本 史斉	112 教室	1年 理一(33)
31240	金 4	ドイツ語二列	三宅 晶子	106 教室	1年 理一(29)

基礎科目 フランス語

フランス語 開講区分 S

授業の目標・概要

文科生クラス、理科生クラスとも、一列・二列を通じて文法および講読の基礎を固める。 文科生は、これに加えて演習を履修し、発音や作文、初歩的な会話の練習、文法や講読の応用練習など を行う。 理科生には、文科生の演習に相当するものとして、国際コミュニケーション「フランス語初級(演習)」が自由選択できるので、積極的に参加してほしい。

平常点(出席・授業への参加態度および小テストなど)と学期末試験で総合的に評価する。 授業中に指示をする。 / Will specify at class time

成績評価方法 教科書 関連ホームページ http://langue-fr.c.u-tokyo.ac.jp

※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること							
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	教室	対象クラス		
30048	月 2	フランス語一列①	飛嶋 隆信	166 教室	1年 文一二(24)		
30051	月 2	フランス語一列①	森元 庸介	109 教室	1年 文三(18)		
30075	月 2	フランス語一列①	大森 晋輔	107 教室	1年 理一(37)		
30138	月 3	フランス語一列①	藤岡 俊博	105 教室	1年 理一(38)		
30139	月 3	フランス語一列①	大池 惣太郎	121 教室	1年 理一(39)		
30187	月 4	フランス語一列①	郷原 佳以	122 教室	1年 文一二(23)		
30195	月 4	フランス語一列①	大池 惣太郎	121 教室	1年 文三(17)		
30196	月 4	フランス語一列①	大森 晋輔	149 教室	1年 文三(19)		
30197	月 4	フランス語一列①	佐々木 悠介	152 教室	1年 文三(20)		
30271	火 1	フランス語一列①	COUCHOT Herve	101 教室	1年 文一二(2)文三(2)理一(2)理二三(2)		
30449	火 3	フランス語一列①	桑田 光平	1226 教室	1 年 理二三(21)		
30451	火 3	フランス語一列①	関俣 賢一	1214 教室	1 年 理二三(23)		
30452	火 3	フランス語一列①	斎藤 かぐみ	1232 教室	1 年 理二三(24)		
30506	火 4	フランス語一列①	関俣 賢一	1214 教室	1年 文一二(25)		
30507	火 4	フランス語一列①	山田 広昭	1212 教室	1年 文一二(26)		
30508	火 4	フランス語一列①	斎藤 かぐみ	1232 教室	1年 文一二(27)		
30509	火 4	フランス語一列①	松村 剛	1213 教室	1年 文一二(28)		
30547	火 5	フランス語一列①	増田 一夫	105 教室	1年 理一(34)		
30548	火 5	フランス語一列①	藤岡 俊博	104 教室	1年 理一(35)		
30549	火 5	フランス語一列①	赤羽 悠	106 教室	1年 理一(36)		
30553	火 5	フランス語一列①	斎藤 かぐみ	1232 教室	1年 理二三(22)		
30675	水 2	フランス語二列	増田 一夫	K113	1年 理一(37)		
30676	水 2	フランス語二列	藤岡 俊博	153 教室	1年 理一(38)		
30677	水 2	フランス語二列	星埜 守之	K114	1年 理一(39)		
30771	水 4	フランス語二列	伊達 聖伸	10-103	1年 文三(17)		
30886	木 2	フランス語二列	松村 剛	108 教室	1年 文一二(23)		
30890	木 2	フランス語二列	渡邊 淳也	121 教室	1年 文三(19)		
30908	木 2	フランス語二列	坂本 さやか	157 教室	1年 理一(35)		
30909	木 2	フランス語二列	桑田 光平	162 教室	1年 理一(36)		
30914	木 2	フランス語二列	三浦 篤	164 教室	1年 理二三(22)		
30948	木 3	フランス語二列	篠原 学	107 教室	1年 文一二(25)		
30949	木 3	フランス語二列	関俣 賢一	109 教室	1年 文一二(26)		
			16				

基礎科目 フランス語

医硬件日 / /	ノヘ品				
30950	木 3	フランス語二列	渡邊 淳也	121 教室	1年 文一二(27)
30951	木 3	フランス語二列	松村 剛	108 教室	1年 文一二(28)
30953	木 3	フランス語二列	森元 庸介	157 教室	1年 文三(18)
30954	木 3	フランス語二列	片岡 大右	153 教室	1年 文三(20)
30986	木 4	フランス語二列	ビゼ	10-202	1年 文一二(2)文三(2)理一(2)理二三(2)
30994	木 4	フランス語二列	関俣 賢一	109 教室	1年 文一二(24)
31012	木 4	フランス語二列	篠原 学	107 教室	1年 理二三(23)
31083	金 1	フランス語二列	坂本 佳子	112 教室	1年 理二三(21)
31189	金 3	フランス語二列	鈴木 順子	1211 教室	1年 理一(34)
31203	金 3	フランス語二列	斎藤 かぐみ	157 教室	1年 理二三(24)

基礎科目 中国語

	中国語 開講区分 S								
授業の目標	授業の目標・概要 ※既習クラスは、内容が異なるので Web シラバスで確認すること 中国語の要である発音をしっかりと身につけた上で、文法の基礎を一年かけて一通り学習する。								
成績評価方法 期末試験など 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 漢語課本 著者(訳者) 小野秀樹・賈黎黎・吉川雅之 著 出版社 白帝社									
※講義の	詳細・受請	構するクラスについては、UTA	Sを参照すること		Т				
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	教室	対象	泉クラス			
30194	月 4	中国語一列①	大橋 義武	101 教室	1年	文三(14)			
30282	火 1	中国語一列①	阿古 智子	107 教室	1年 理一(3)理二三(3)(TLP)			
30518	火 4	中国語一列①	山影 統	153 教室	1年	理一(27)			
30521	火 4	中国語一列①	千葉 謙悟	532 教室	1年3	理二三(13)			
30674	火 5	中国語一列①	石村 広	113 教室	1年	理一(22)			
30588	水 1	中国語一列①	小方 伴子	102 教室	1年	理一(24)			
30589	水 1	中国語一列①	波多野 真矢	157 教室	1年	理一(26)			
30655	水 2	中国語一列①	伊藤 徳也	516 教室	1年	文一二(17)			
30656	水 2	中国語一列①	波多野 真矢	157 教室	1年	文一二(18)			
30662	水 2	中国語一列①	吉川 雅之	10-103	1年	文三(12)			
30672	水 2	中国語一列①	小野 秀樹	532 教室	1年	理一(19)			
30681	水 2	中国語一列①	中村 元哉	108 教室	1年3	理二三(16)			
30427	水 3	中国語一列①	中村 元哉	108 教室	1年	文三(13)			
30882	木 2	中国語一列①	松本 秀士	101 教室	1年	文一二(14)			
30900	木 2	中国語一列①	下出 宣子	104 教室	1年	理一(25)			
30941	木 3	中国語一列①	下出 宣子	104 教室	1年	文一二(19)			
30969	木 3	中国語一列①	河野 直恵	113 教室	1年3	理二三(15)			
30987	木 4	中国語一列①	賈 黎黎	106 教室	1年 文一二(3)文	三(3)理一(3)理二三(3)			
30991	木 4	中国語一列①	河野 直恵	113 教室	1年	文一二(15)			
30992	木 4	中国語一列①	渡辺 剛	104 教室	1年	文一二(16)			
31072	金 1	中国語一列①	王 英輝	104 教室	1年	理一(20)			
31185	金 3	中国語一列①	石井 剛	166 教室	1年	理一(23)			
31199	金 3	中国語一列①	谷垣 真理子	106 教室	1年3	理二三(14)			
31223	金 4	中国語一列①	岩月 純一	101 教室	1年	文一二(13)			
31228	金 4	中国語一列①	田原 史起	105 教室	1 年	文三(11)			
31238	金 4	中国語一列①	朝倉 友海	104 教室	1年	理一(21)			
30067	月 2	中国語二列	大橋 義武	101 教室	1年	理一(24)			
30069	月 2	中国語二列	毛 興華	159 教室	1年	理一(25)			
30130	月 3	中国語二列	張 政遠	104 教室	1年	理一(19)			
30132	月 3	中国語二列	大橋 義武	101 教室	1年	理一(20)			
30135	月 3	中国語二列	賈 黎黎	107 教室	1年	理一(26)			

基礎科目 中国	語				
30183	月 4	中国語二列	白 春花	108 教室	1年 文一二(17)
30184	月 4	中国語二列	斉 金英	159 教室	1年 文一二(19)
30193	月 4	中国語二列	李 彦銘	103 教室	1年 文三(12)
30272	火 1	中国語二列	毛 興華	152 教室	1年 文一二(3)文三(3)理一(3)理二三(3)
31224	火 1	中国語二列	山影 統	108 教室	1年 文一二(15)
30419	火 3	中国語二列	山影 統	153 教室	1年 文一二(16)
30436	火 3	中国語二列	吉川 雅之	1211 教室	1年 理一(21)
30770	火 3	中国語二列	千葉 謙悟	532 教室	1年 文三(13)
30488	火 4	中国語二列	石村 広	113 教室	1年 文一二(14)
30587	水 1	中国語二列	青木 正子	103 教室	1年 理一(23)
30680	水 2	中国語二列	青木 正子	103 教室	1年 理二三(14)
30752	水 2	中国語二列	瀬地山 角	158 教室	1年 理二三(15)
30717	水 3	中国語二列	朝倉 友海	1212 教室	1年 文一二(13)
30736	水 3	中国語二列	田原 史起	1211 教室	1年 文三(11)
30750	水 3	中国語二列	韓 燕麗	1214 教室	1年 理二三(13)
30940	木 3	中国語二列	大橋 義武	106 教室	1年 文一二(18)
30970	木 3	中国語二列	松本 秀士	101 教室	1年 理二三(16)
30999	木 4	中国語二列	松本 秀士	101 教室	1年 文三(14)
31000	木 4	中国語二列	菊池 真純	105 教室	1年 理一(3)理二三(3)(TLP)
30291	金 3	中国語二列	賈 黎黎	1212 教室	1年 理一(22)
31239	金 4	中国語二列	毛 興華	164 教室	1年 理一(27)

※TLP 履修者は、対象クラスで TLP と指定されている授業を履修すること。なお、総合科目 L 系列 英語中級、英語上級の抽選登録にあたり、一度当選した科目は履修登録を削除することができないため、抽選登録を行う際は、それぞれの開講曜限に注意すること。

基礎科目 ロシア語

ロシア語					開講区分	S	
授業の目標・概要 成績評価方法ロシア語文法の基礎の修得。 定期試験と平常点。 Sセメスターの期末テストは、「ロシア語一列」と「ロシア語二列」を1回に統一して行う。 適宜小テストを行うことがある。 次の教科書を使用する。/ Will use the following textbook 書名 ロシア語をはじめよう 著者(訳者) 西中村浩、朝妻恵理子 出版社 ISBN 978-4-255-55504-1 ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること							
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	教室	対象	やクラス	
30098	月 3	ロシア語一列①	安岡 治子	149 教室	1 年	理一(4)	
30099	月 3	ロシア語一列①	鳥山 祐介	112 教室	1年 理一(5)		
30273	火 1	ロシア語一列①	奈倉 有里	113 教室		一二(4)文三(4) 里二三(4)(TLP)	
30389	火 3	ロシア語一列①	奈倉 有里	113 教室	1年	文一二(4)	
30424	火 3	ロシア語一列①	渡邊 日日	1224 教室	1 年	文三(4)	
30519	火 4	ロシア語一列①	乗松 亨平	159 教室	1年	理二三(4)	
30690	水 3	ロシア語二列	安岡 治子	166 教室		一二(4)文三(4) 里二三(4) (TLP)	
30891	木 2	ロシア語二列	古宮 路子	122 教室	1年	理一(4)	
30892	木 2	ロシア語二列	奈倉 有里	513 教室	1 年	理一(5)	
31009	木 4	ロシア語二列	古宮 路子	155 教室	1 年	理二三(4)	
31150	金 3	ロシア語二列	渡邊 日日	149 教室	1 年	文一二(4)	
31172	金 3	ロシア語二列	乗松 亨平	151 教室	1 年	文三(4)	

※TLP 履修者は、対象クラスで TLP と指定されている授業を履修すること。なお、総合科目 L 系列 英語中級、英語上級の抽選登録にあたり、一度当選した科目は履修登録を削除することができないため、抽選登録を行う際は、それぞれの開講曜限に注意すること。

基礎科目 スペイン語

	スペイン語 開講区分 S						
授業の目標・概要						ン語でコミュニケーシ かで多彩な文化と社会 け、Aセメスターでは スキ宝の演習を履修し	
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	教室	対象	象クラス	
30064	月 2	スペイン語一列①	松尾 俊輔	162 教室	1 年	理一(9)	
30127	月 3	スペイン語一列①	岡本 年正	106 教室	1年	理一(12)	
30990	月 4	スペイン語一列①	網野 徹哉	154 教室	1年	文一二(11)	
30431	火 3	スペイン語一列①	松尾 俊輔	1321 教室	1 年	理一(10)	
30743	火 3	スペイン語一列①	半澤 忠彦	1312 教室	1年	理一(14)	
30485	火 4	スペイン語一列①	受田 宏之	1231 教室	1 年	文一二(7)	
30551	火 5	スペイン語一列①	川崎 義史	107 教室	1 年	理二三(7)	
30775	水 1	スペイン語一列①	網野 徹哉	112 教室	1年	理一(17)	
30290	水 2	スペイン語一列①	宮地 隆廣	162 教室	1年	理一(18)	
30629	水 2	スペイン語一列①	川崎 義史	166 教室	1 年	文一二(9)	
30660	水 2	スペイン語一列①	松尾 俊輔	1221 教室	1年	文三(9)	
30661	水 2	スペイン語一列①	網野 徹哉	112 教室	1 年	文三(10)	
30671	水 2	スペイン語一列①	石橋 純	1321 教室	1年	理一(13)	
30679	水 2	スペイン語一列①	高際 裕哉	1226 教室	1 年	理二三(8)	
30592	水 3	スペイン語一列①	久住 真由	157 教室	1 年	理二三(9)	
30693	水 3	スペイン語一列①	竹村 文彦	1312 教室	1年	文一二(10)	
30744	水 3	スペイン語一列①	高際 裕哉	1311 教室	1年	理一(15)	
30745	水 3	スペイン語一列①	渡辺 暁	112 教室	1 年	理一(16)	
30747	水 3	スペイン語一列①	石橋 純	1321 教室	1年3	理二三(10)	
30748	水 3	スペイン語一列①	金子 亜美	1322 教室	1年3	理二三(11)	
30749	水 3	スペイン語一列①	若林 大我	1231 教室	1年3	理二三(12)	
30769	水 4	スペイン語一列①	宮地 隆廣	162 教室	1 年	文三(8)	
30206	木 2	スペイン語一列①	上 英明	102 教室	1年	理一(11)	
30275	木 4	スペイン語一列①	松尾 俊輔	164 教室	1年	文一二(8)	
31162	金 3	スペイン語一列①	和田 佳浦	159 教室	1年	文一二(12)	
31226	金 4	スペイン語一列①	和田 佳浦	159 教室	1 年	文三(7)	
30044	月 2	スペイン語二列	栗林 ゆき絵	153 教室	1年	文一二(8)	
30065	月 2	スペイン語二列	岡本 年正	106 教室	1年	理一(16)	
30118	月 3	スペイン語二列	渡辺 暁	154 教室	1 年	理一(10)	
			21				

基礎科目 スペ	基礎科目 スペイン語							
30129	月 3	スペイン語二列	三浦 麻衣子	157 教室	1年 理一(18)			
30189	月 4	スペイン語二列	岡本 年正	106 教室	1年 文三(8)			
30190	月 4	スペイン語二列	三浦 麻衣子	157 教室	1年 文三(9)			
30208	月 4	スペイン語二列	松尾 俊輔	155 教室	1年 理一(14)			
30207	火 1	スペイン語二列	松尾 俊輔	112 教室	1年 理一(13)			
30426	火 3	スペイン語二列	受田 宏之	1231 教室	1年 文三(7)			
30486	火 4	スペイン語二列	石橋 純	102 教室	1年 文一二(9)			
31010	火 4	スペイン語二列	半澤 忠彦	1312 教室	1年 理二三(9)			
30968	火 5	スペイン語二列	上 英明	150 教室	1年 理二三(11)			
30644	水 2	スペイン語二列	金子 亜美	1211 教室	1年 文一二(11)			
30645	水 2	スペイン語二列	竹村 文彦	1312 教室	1年 文一二(12)			
30678	水 2	スペイン語二列	上 英明	1224 教室	1年 理二三(7)			
30774	水 4	スペイン語二列	久住 真由	157 教室	1年 理一(11)			
30897	木 2	スペイン語二列	倉田 量介	1311 教室	1年 理一(15)			
30898	木 2	スペイン語二列	愛場 百合子	113 教室	1年 理一(17)			
31227	木 2	スペイン語二列	松尾 俊輔	166 教室	1年 文三(10)			
30959	木 3	スペイン語二列	若林 大我	154 教室	1年 理一(12)			
30967	木 3	スペイン語二列	倉田 量介	156 教室	1年 理二三(8)			
31198	木 3	スペイン語二列	松尾 俊輔	164 教室	1年 理二三(12)			
30989	木 4	スペイン語二列	松浦 芳枝	108 教室	1年 文一二(10)			
31001	木 4	スペイン語二列	若林 大我	154 教室	1年 理一(9)			
31160	金 3	スペイン語二列	有田 美保	113 教室	1年 文一二(7)			
31197	金 3	スペイン語二列	半澤 忠彦	150 教室	1年 理二三(10)			

基礎科目 韓国朝鮮語

S 韓国朝鮮語 開講区分

授業の目標・概要

●1 年生初修クラス 文科生クラス、理科生クラスともに、一列・二列の授業では、共通教材を用いて授業を行います。はじめの数回の授業において文字と発音を完全に習得した後、引き続き、さまざまな文法事項と語彙を学ん でいきます。

でいきます。
この授業では、一年間を通じて、基礎文法を完全に習得し、辞書を引きながら新聞・雑誌記事を読める程度、また簡単な内容ならば、自分の考えや意見を表現できる程度の力を身につけることを目指します。文科生はこのほか、韓国人教員が担当する「初級(演習)①」を履修し、基礎知識の応用をはかっていきます。理科生には、文科生の「初級(演習)①」に相当する「初級(演習)」が設けられているので、積極的に参加して下さい。
定期テストと平常点(出席、小テスト、課題など)次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名
ことばの架け橋[再改訂試用版]

成績評価方法 教科書

※講義の語	※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること								
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	教室	対象クラス				
30062	月 2	韓国朝鮮語一列①	河崎 啓剛	112 教室	1年 理一(6)				
30173	月 4	韓国朝鮮語一列①	三ツ井 崇	102 教室	1年 文一二(5)文三(5)				
30520	火 4	韓国朝鮮語一列①	三ツ井 崇	166 教室	1年 理二三(5)				
30390	火 3	韓国朝鮮語二列	三ツ井 崇	166 教室	1年 文一二(5)文三(5)				
30783	水 4	韓国朝鮮語二列	齊藤 良子	104 教室	1年 理二三(5)				
31071	金 1	韓国朝鮮語二列	河崎 啓剛	150 教室	1年 理一(6)				

基礎科目 イタリア語

イタリア語 開講区分 S

授業の目標・概要

「一、二列」では、発音からはじまり、初級文法を、SセメスターからAセメスターの前半までの期間に習得することが目標です。Aセメスター後半は、比較的平易な現代文を中心としたテクストの読解と、文法知識の整理に切ます。教科書は東京大学イタリア語教場集委員会標の『イタリア語のスタート』

又法知識の整理にあてます。教科書は東京大学イダリア語教材編集委員会編の『イダリア語のスダート』 (白水社)と、中級読解用テクスト『ピアッツァ』(東京大学出版会)を使用します。 あわせて、ネイティヴスピーカの教員による、文法知識の定着と自然なイタリア語の習得のための「演習」が文科生には必修科目として開講されています。理科生は総合科目Lの「イタリア語初級(演習)」として選択できます。積極的に履修・参加して、表現力を身につけてください。 Sセメスターの基本的な学習項目は以下のようになります。 1)発音 2)イタリア語の文の基本的な成り立ち 3)名詞の性と数 4)主語人称代名詞と動詞 essere 5)形容詞 6)指示代名詞と指示形容詞 7)動詞 avere 8)規則動詞の現在活用形 9)不規則動詞 10)疑問詞 11)前置詞と冠詞の結合形 12)補助動詞 13)近過去 14)再帰動詞 15)未来 ●既修クラス

総合科目Lとして開講されている中・上級の演習・会話・作文・表現練習・読解・インテンシヴの授業を組み合わせて受講することが可能です。イタリア語の習得を通して、音楽、芸術、映画、デザインなど、文化のさまざまな分野に関して、新しいテーマを素材に用い、現代社会のさまざまな側面について もふれます

●さらに選択可能な総合科目 L の科目として、初級・中級の会話・作文・表現練習も開講されているので、積極的に受講してください。(意欲的な履修者は、A セメスター以降、選択可能な総合科目 L の科目の中級イタリア語を受講することも可能です。)特に集中的に少人数のクラスでイタリア語を身につけ定着させたい履修者のためのインテンシブコースとして、文法事項の定着練習(1コマ)とネイティブによる表現力の演習(1コマ)を初級(1年生)・中級(2年生、ただしAセメスタには意欲的な1年生も受講可)ともに開講しています。ぜひ積極的に受講してください。

Sセメスターにはイタリア語初級(第3外国語)3コマが開講されていますが、そのうち1コマ(金5) 限)は秋始まりで文法をはじめたい履修者のためのもので、S セメスターはイタリア語初級文法後半になります。詳しくはシラバスを参照のこと。 平常点と定期試験

成績評価方法 教科書

次の教科書を使用する。/Will use the following textbook

Italiano... in partenza! イタリア語のスタート 文法と練習 書名

著者(訳者) 東京大学イタリア語教材編集委員会編

出版社 白水社

ISBN ISBN978-4-560-01763-0

関連ホームページ http://langue-fr.c.u-tokyo.ac.jp

※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること

不時我の計画 文語するアクバについては、UTAS と参照すること							
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	教室	対象クラス		
30100	月 3	イタリア語一列①	山﨑 彩	162 教室	1年 理一(7)		
30101	月 3	イタリア語一列①	宮坂 真紀	153 教室	1年 理一(8)		
30217	月 4	イタリア語一列①	村松 真理子	156 教室	1年 理二三(6)		
30391	火 3	イタリア語一列①	池上 俊一	162 教室	1年 文一二(6)		
30425	火 3	イタリア語一列①	宮坂 真紀	523 教室	1年 文三(6)		
30669	水 2	イタリア語二列	宮坂 真紀	152 教室	1年 理一(8)		
30784	水 4	イタリア語二列	村松 真理子	107 教室	1年 理二三(6)		
30887	木 2	イタリア語二列	宮坂 真紀	150 教室	1年 文三(6)		
30893	木 2	イタリア語二列	山﨑 彩	156 教室	1年 理一(7)		
30929	木 3	イタリア語二列	池上 俊一	102 教室	1年 文一二(6)		

基礎科目(日本語)

日本語 開講区分 S

授業の目標・概要

[注意事項]

- ・基礎科目一列①、基礎科目二列を、一年次 S セメスターに履修すること。 ・日本語科目(基礎科目一列、二列 C、二列 P、総合科目 L 系列、選択必修科目)の履修方法やカリキュラム等に ついて、基礎科目一列①の初回授業で説明があるので、必ず出席すること。
- ・基礎科目一列①、および、基礎科目二列のクラス指定に関して、UTAS上の指示に留意し従うこと。
- ・基礎科目一列①、および、基礎科目二列の第1週初回授業に関して、UTAS上の指示に留意し従うこと。
- ・様々なガイダンス・導入活動のため、基礎科目一列、および、基礎科目二列の初回授業に必ず出席してください。 ・基礎科目二列(S1) の初回授業に必ず出席し日本語能力テストを受験すること。日本語を、前期課程外国語科目
- の既修外国語、或は、[既修・既修選択]の初修外国語相当として選択した学生は、授業開始時に日本語能力テスト を受ける必要がある。
- ・総合科目 L 系列科目(S1, S2)の希望登録について、UTAS 上の指示にも留意してください。

● 基礎科目 日本語一列① 1年生 既修外国語(および「初修扱い既修外国語」)

『テーマで考え議論する日本語 - Active Learning in Academic Japanese -』

文理横断的なテーマに関して、文献リサーチ、読解・聴解、資料収集、調査、協働タスク、ディスカッション、 レゼンテーション等、様々な能動的な協働活動を通して、日本語の諸技能の習得・上達を目指しつつ、現象・問題 や他者の意見を適格に理解する力、資料を分析しデータや論拠に基づき考え述べる力、自分の意見を構築し伝える 力、議論し合う力、能動的学習力を養う

一列授業と二列授業とは、連動しつつ相互に相補的な活動を行う。

『基礎科目 日本語―列』で扱うテーマやそのテーマでの読解・聴解・協働タスク・ディスカッション等の活動と 連動して、『基礎科目 日本語二列 C』(正確な精読、構文・語彙習得中心)、および、『基礎科目 日本語二列 P』(アクティブラーニングの発表・プレゼンテーション中心)の授業を行う。

• 基礎科目 日本語二列 C1 年生 既修外国語 (および「初修扱い既修外国語」)

『テーマで考え議論する日本語 : 正確な精読、構文・語彙習得中心』

『基礎科目日本語一列』でのテーマや読解テクスト・活動と連動して、構文・語彙増強、正確な精読や要約・ライ ティング等を行う。

• 基礎科目 日本語二列 P1 年生 既修外国語 (および「初修扱い既修外国語」)

『テーマで考え議論する日本語: アクティブラーニングの発表・プレゼンテーション中心』

『基礎科目日本語一列』でのテーマや読解テクスト・活動と連動して、アクティブラーニングのプレゼンテーショ ン・レポート執筆を行う。

○ 総合科目 L系列 「日本語中級」『滑らかに話すための日本語発音』

伝わりやすく自然な発音でコミュニケーションができるようになることを目標とする。また、大学での口頭発表等 に必要な発音の習得を目指す。

○ 総合科目 L系列 「日本語上級」『文学作品を読む・味わう・まとめる・伝える その1』(S1)

総合科目 L系列 「日本語上級」『文学作品を読む・味わう・まとめる・伝える その2』(S2)

日本の近代から現代にかけての文学に焦点をあて、作品に親しみながら、読む力、まとめる力、伝える力を養う。 ○ 総合科目 L 系列 「日本語上級」 『読解を通じ, 日本の歴史を考える』

日本の歴史について書かれた論説文・歴史小説等の読解を通じ、日本史における事象やその文化的背景についての

理解を深め、現代との関わりについて批判的に検討する。

成績評価方法

「成績評価方法」は、科目・授業列により異なるので、UTAS上のそれぞれの科目のページを参照すること。 全般的に、毎回の授業活動(および予習・復習)を重視し、出席、授業活動参加、ディスカッション、クイズ、宿題 等の課題、発表、試験、レポート等を総合して評価する。詳細については第一回目の授業で配布するシラバスで説

明する。

教科書

その他。/Other

※講義の詳細・受講するクラスについては IJTASを参昭すること

※研我の計画・文語するアクスについては、UIASを参照すること						
時間割コード	開講	曜限	授業科目名	担当教員	教室	対象クラス
30306	S	火 2	日本語一列①	藤井 聖子	10-103	1年 文科 理科
31093	S	金 2	日本語一列①	藤井 聖子	10-205	1年 文科 理科
30849	S 1	木 1	日本語二列C	奥川 育子	10-205	1年 文科 理科
31263	S 1	金 5	日本語二列C	奥川 育子	10-201	1年 文科 理科
40113	S 2	木 1	日本語二列 P	奥川 育子	10-205	1年 文科 理科
40136	S 2	金 5	日本語二列 P	奥川 育子	10-201	1年 文科 理科

情報

成績評価方法

教科書

	情報	開講区分	S		
授業の目標・概要	※「情報」初回の授業は情報教育棟大演習室[E31 または E21]で行う.				
	※ オンライン新規利用者講習を受講して ECCS の利用ができるようにしておくこと.				

現代社会においては、すべての人が多様な場と状況において、情報システムとかかわらざるをえない。 その際に正しくかつ適切な対応をするためには、情報の技術面だけでなく、その人間的および社会的な側面の正 しい理解が必要である.

これは情報社会人の基本的素養であり,"知ることによって無知から自由になることができる"という意味である リベラルアーツそのものと言うことができる.

本科目の目的は、このような素養を、講義と演習とを通じて身に付けることである.

具体的には

・情報の人間に関連する側面

表現, 認知, 伝達

・情報の社会に関連する側面

情報システム,情報関連の法,技術と社会

・情報の問題解決に関する側面

データと計算のモデル, 計算の複雑さ

のそれぞれを、独立にではなく、他の側面の理解が可能なレベルまで掘り下げて学ぶ.

この科目の目的は、いわゆる「利用・活用」の方法を習うことではない.

なお、高等学校の教科「情報」で学ぶ項目のうち、機器操作の方法、Web ブラウザ、電子メール、ディジタルの概念、著作権・知的財産権の基本、などは「既習」であることを前提とする.

- ・全クラス共通の試験問題による期末試験を実施するが、教員が独自の問題を追加で出題することがある.
- ・共通試験の出題範囲は「関連ホームページ」の「教科書の目次と必修学習項目」で指定されたものである.
- ・期末試験の採点は教員ごとに行なう.
- ・成績評価の方法は教員による

(期末試験のみ、レポートを加味、そのほか)

次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 情報 第2版(Introduction to the New Information World, 2nd Edition) 書名

著者 (訳者) 山口和紀[編]

出版社 東京大学出版会 ISBN 978-4-13-062457-2

関連ホームページ http://www.edu.c.u-tokyo.ac.jp/edu/information.html

※講義の詳細については、UTAS を参照すること

時間割	曜限	担当教員	教室	対象クラス
30045	月 2	原田 至郎	E21 教室	1年 文一二(9-11)
30063	月 2	辰己 丈夫	E31 教室	1年 理一(8,18,34)
30128	月 3	笹田 耕一	E21 教室	1年 理一(13,21-22)
30134	月 3	辰己 丈夫	E31 教室	1年 理一(24,33,35-36)
30182	月 4	福田 玄明	E21 教室	1年 文一二(14,16,20)
30210	月 4	柴山 悦哉	E31 教室	1年 理一(17)理二三(16,19)
30274	火 1	萩谷 昌己	E21 教室	1年 文一二(7)文三(5-6,17)
30281	火 1	蓮池 隆	E31 教室	1年 文三(18-20)
30418	火 3	上條 俊介	E31 教室	1年 文一二(15,18,26)文三(15)
30489	火 4	上條 俊介	E31 教室	1年 文一二(17)文三(4,9-10)
30546	火 5	道畑 正岐	E21 教室	1年 理一(25-27)
30550	火 5	福田 玄明	E31 教室	1年 理二三(4-5,13,15)
30586	水 1	池尻 良平	E21 教室	1年 理一(7,15,30)
30659	水 2	藤垣 裕子	E31 教室	1年 文三(1-3,7,11,14,16)
30668	水 2	山口 和紀	E21 教室	1年 理一(5,29)理二三(22)
30738	水 3	落合 秀也	E31 教室	1年 理一(1-3,31)理二三(1-3,14)
30766	水 4	稲葉 真理	E21 教室	1年 文一二(19,21-22)
30768	水 4	森畑 明昌	E31 教室	1年 文一二(23-25)文三(12)
30881	木 2	村上 祐子	E21 教室	1年 文一二(8,12-13)

情報

30910	木 2	羽山 博	E31 教室	1年 理一(37)理二三(11,18)
30956	木 3	飯尾 淳	E21 教室	1年 理一(6,14,19)
30966	木 3	木本 充彦	E31 教室	1年 理二三(6-7,21)
31002	木 4	田中 哲朗	E21 教室	1年 理一(10-12)
31011	木 4	木本 充彦	E31 教室	1年 理二三(10,12,24)
31069	金 1	松島 慎	E31 教室	1年 理一(4,9,16)
31074	金 1	福永 アレックス	E21 教室	1年 理一(38-39)理二三(17)
31171	金 3	植田 一博	E21 教室	1年 文一二(27-28)文三(13)
31187	金 3	蔡 東生	E31 教室	1年 理一(28)理二三(8-9,23)
31215	金 4	幸島 明男	E21 教室	1年 文一二(1-6)文三(8)
31237	金 4	蔡 東生	E31 教室	1年 理一(20,23,32)理二三(20)

情報 α	開講区分	S

授業の目標・概要

トピックについて

深層学習(ディープラーニング)は、近年発展著しい AI(人工知能)技術の中核を為す技術である。この技術は高 い性能と汎用性を持つことから、自動運転や新薬創造などの社会の多くの領域に応用され、それぞれの分野で革新 的な成果を出すことが期待されている。

また、この深層学習のメカニズムを理解するために、数学をベースにした理論も急速に発展している。AI技術を効 率的に制御・理解するためには、これらの理論の発展が必要不可欠である。

- **講義の目標**
- この講義の目的は、以下の三つである。
- 1. 基礎的な情報の技術・社会的側面について学ぶ。
- 2. データ解析の基礎を理解し、その一ツールとしての深層学習の使い方をプログラミング演習を通して学ぶ。
- 3. 深層学習の理論を、数学演習を通して学ぶ。

講義の概要

最初の数回で、基礎科目「情報」に該当する内容を速習する。加えて、各回の講義の中で随時「情報」の内容をカ バーする。

その後、機械学習の問題設定の基礎を学び、python を用いた演習で深層学習の実装を行う。後半では、数学的な理 論を学び演習を通して定着を図る。

前半での演習では python を使うスキルが必要だが、知識は授業中に身につける前提で、意欲さえあればこれまでの 経験は問わない。

システム

受講者数を 20 名程度に制限するので、ガイダンス時にプログラミング・数学などに関する基礎学力の確認と学習 意欲に関する調査を行う。その結果、一週間以内に、第二回以降の受講対象者の学生証番号を正門横掲示板に発表 する。

成績評価方法

学期中と期末に課すレポートおよび出席状況をもとに評価する。

教科書

教科書は使用しない。 / Will not use textbook 2020 年 4 月 6 日 6 限 11 号館 1106 教室(水 6 のガイダンスもこの日にまとめて行うので注意)

ガイダンス

※ 講義の計	※講義の詳細については、UIAS を参照すること							
時間割	曜限	担当教員	教室	対象クラス				
コード	唯败	担ヨ教員	教 至	刈まケノへ				
30269	月 6	今泉 允聡	E38 教室	1年 文科 理科				
30840	水 6	今泉 允聡	E31 教室	1年 文科 理科				

授業計画

身体運動・健康科学実習 |

身体運動・健康科学実習 I 開講区分 S

授業の目標・概要 週1回の授業を通じて

1.身体および身体運動に関する知識を習得する。

2.自らの身体運動を対象とする実験実習や実技実習を通じて、事物の本質的理解(肌でわかる・体感する)のため の基礎技術を習得する。

3.スポーツやトレーニングなどの文化的身体運動の実習による動きの改善・身体能力の向上を通じて、自己の身体 の管理・操作技能を習得する。

4.生涯教育としての心身の健康教育・運動習慣の基礎作りを行う。

第1回 教室で教科書を用いた授業 (教室は掲示を参照)

第2回 体力テスト

第3回 教室で教科書を用いた授業

種目選択

第4回から 選択した種目での授業

セメスター中に2度、身体運動の科学的理解を目的とした共通授業を行う。共通授業はコミュニケーションプラザ

北館3階の身体運動実習室で行う。

この他天候等により体育館種目が別の場所に移動し、外種目を体育館で行うこともあるので、9号館前の掲示板を

見ること。

第3回目の授業で、種目選択を行う。スポーツコース(テニス、サッカー等)、フィットネスコース、サイエンス 授業の方法

コースから選択する。その曜限に開設されている種目と説明は http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp/shintai/を参照のこと。

種目選択以降は、各種目に分かれて行う。

基本的には自分の身体を動かして、実習することが第一であるが、各種目により様々なアプローチがなされる。 セメスター中に2回、身体運動の科学的理解を目的とした共通授業を、通常とは別の場所で行う。教室での授業、 身体運動の科学的理解のための授業だけでなく、通常の授業でも教科書『教養としての身体運動・健康科学』を用いるので、毎回持ってくること。毎回の授業における心拍数、体力テストの結果等も教科書に記入する。

通常授業での説明、教室での授業内容、科学的理解の授業、体力テスト等によって、セメスター末にレポートを提

出する。

成績評価方法 1 出席 身体運動・健康科学実習の意義は実際に身体を動かすことで、身体運動の科学的法則を認識するとともに、

健康・体力・技能を増進し、またその方法を習得することにある。そこで出席(遅刻、早退、見学を含む)はきわ

めて重視される。

2 達成度 各自が選択履修している授業について、学習達成度の評価を行う。

3 体力テスト 4月と12月に行い、評価に含める。

4 レポート 通常授業での説明、教室での授業内容、体力テストの結果等を受けて、セメスター末にレポートを提

出する。

5 その他 授業中にどのような態度で参加し、どのように自己の役割を認識し、実行しているか、学習内容をどれ

だけ理解しているのか、等を評価する。

教科書

次の教科書を使用する。 / Will use the following textbook 書名 教養としての身体運動・健康科学 著者 (訳者) 東京大学身体運動科学研究室編

東京大学出版会 出版社

種目選択後の種目変更は、特別な事情(病気、怪我など)が無い限り認めない。 履修上の注意

学習上のアドバイス 盗難が多いので注意する。体育館は、土足、飲食禁止。

関連ホームページ http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp/shintai/

※講義の詳細・受講するクラスについては IJTASを参昭すること

然語我の計補・文語するグラスについては、UIAS を参照すること						
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	対象クラス		
30030	月 2	身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文一二(4,23)文三(16-17)理一(7,10-11,17,20,26,38)		
30429	火 3	身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文三(18)理一(22-23,29-30,32,34-37,39)		
30487	火 4	身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文一二(13)文三(8,14,19-20)理一(24-25)理二三(1-3,7,17,21)		
30692	水 3	身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文一二(8,14,27)文三(9)理一(12,18-19,27)理二三(5-6,8)		
30765	水 4	身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文一二(16)理一(8,13-15)理二三(9-12,14-15)		
30866	木 2	 身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文一二(1-3,5-6,24-25,28)文三(1-5,11)		
30800	/N 2	· 另件连到 使旅行于关目 1	天汉担当	理一(1-3,6,21)理二三(4,16)		
30930	木 3	身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文一二(9)文三(6)理一(4-5,9,16)理二三(13,18,22-24)		
31161	金 3	身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文一二(11,15,18-20,26)文三(7,10,12,15)理二三(20)		
31216	金 4	身体運動・健康科学実習 I	実技担当	1年 文一二(7,10,12,17,21-22)文三(13)理一(28,31,33)理二三(19)		

身体運動・健康科学実習 ||

		身体運動・健康科学実習Ⅱ		開講区分	S			
授業の目標	・概要	週1回の授業を通じて 1.身体および身体運動に関する知識 2.自らの身体運動を対象とする実験 の基礎技術を習得する。 3.スポーツやトレーニングなどの文化	実習や実技実習		**			
の管理・操作技能を習得する。 4.生涯教育としての心身の健康教育・運動習慣の基礎作りを行う。 授業計画 第1回月曜3限または火曜2限で開講されている総合科目D系列「スポーツ・身体運動実習」の種目選 する場所に集合し(場所は9号館前掲示板を参照)、この授業用に開講されている1種目(開講種目は未知 録手続きを行い、担当教員からガイダンスを受ける。 第2回以降 この曜限で開講されている種目での通常授業								
授業の方法		*セメスター中に2度、身体運動の基本的には自分の身体を動かして実セメスター中に2回、身体運動の科身体運動の科学的理解のための授業いるので、毎回持ってくること。	習することが第 学的理解を目的 だけでなく、通	一であるが、各種目によりを とした共通授業を、通常とは常める 常の授業でも教科書『教養と	は別の場所で行う。教室での授業、 しての身体運動・健康科学』を用			
成績評価方	法	通常授業での説明、科学的理解のための共通授業等によって、セメスター末にレポートを提出する。 1 出席 身体運動・健康科学実習の意義は実際に身体を動かすことで、身体運動の科学的法則を認識するとともに、健康・体力・技能を増進し、またその方法を習得することにある。そこで出席(遅刻、早退、見学を含む)はきわめて重視される。 2 達成度 各自が選択履修している授業について、学習達成度の評価を行う。 3 体力テスト (未定) 4 レポート 通常授業での説明、共通授業等を受けて、セメスター末にレポートを提出する。 5 その他 授業中にどのような態度で参加し、どのように自己の役割を認識し、実行しているか、学習内容をどれ						
だけ理解しているのか、等を評価する。 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 教養としての身体運動・健康科学 著者(訳者) 東京大学身体運動科学研究室編 出版社 東京大学出版会				oook				
履修上の注意 I Aセメスターでクラス指定された「身体運動・健康科学実習 II」の履修登録を削に)、および 1 Aセメスターの「身体運動・健康科学実習 II」の単位未取得者が対学習上のアドバイス 盗難が多いので注意する。体育館は、土足、飲食禁止。傷害保険に加入することが http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp/					対象となります。			
※講義の詳	※講義の詳細・受講するクラスについては、UTAS を参照すること							
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	対	象クラス			
30147	月 3	身体運動・健康科学実習Ⅱ(2S)	実技担当	2 年	文科 理科			
30307	火 2	身体運動・健康科学実習Ⅱ(2S)	実技担当	2年	文科 理科			

身体運動・健康科学実習(メディカルケア)

身体運動・健康科学実習(メディカルケア) 開講区分 S

授業の目標・概要 週1回の授業を通じて

1.身体および身体運動に関する知識を習得する。

2.自らの身体運動を対象とする実験実習や実技実習を通じて、事物の本質的理解(肌でわかる・体感する)のための

基礎技術を習得する。

3.スポーツやトレーニングなどの文化的身体運動の実習による動きの改善・身体能力の向上を通じて、自己の身体の

管理・操作技能を習得する。

4.生涯教育としての心身の健康教育・運動習慣の基礎作りを行う。

第 3 回目までの授業は、クラス指定された身体運動・健康科学実習の曜限で受講する。体力テストは見学する。第 授業計画

3回目の種目選択で、履修する曜限を決め、第4回目以降からそのメディカルケアの曜限で受講する。

各自の状態に合わせて、実習を行う。

基本的には自分の身体を動かして、実習することが第一であるが、各自の状態により様々なアプローチがなされる。 授業の方法

教科書『教養としての身体運動・健康科学』を用いるので、毎回持ってくること。セメスター末にレポートを提出

する。

1 出席 身体運動・健康科学実習の意義は実際に身体を動かすことで、身体運動の科学的法則を認識するとともに、 成績評価方法

健康・体力・技能を増進し、またその方法を習得することにある。そこで出席(遅刻、早退、見学を含む)はきわめ

て重視される。

2 達成度 各自の学習達成度について評価を行う。

3 レポート 授業での説明、実習内容、その結果等を受けて、セメスター末にレポートを提出する。 4 その他 授業中にどのような態度で参加し、どのように自己の役割を認識し、実行しているか、学習内容をどれだ

け理解しているのか、等を評価する。

次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書

教養としての身体運動・健康科学 書名

著者(訳者) 東京大学身体運動科学研究室編

東京大学出版会 出版社

履修上の注意 第1~3回目まで、クラス指定された身体運動・健康科学実習の授業に参加する。第4回目からメディカルケアコ

ースの曜限に移行する。

学習上のアドバイス 盗難が多いので注意する。体育館は、土足、飲食禁止。

関連ホームページ http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp/

※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること

小冊我のロ	※講我の評価・文語するグラスについては、UIASを参照すること							
時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	対象クラス				
30003	月 1	身体運動・健康科学実習 I (メディカルケア 3)	実技担当	1年 文科 理科				
31819	月 1	身体運動・健康科学実習Ⅱ(メディカルケア 3)	実技担当	2年 文科 理科				
30232	月 5	身体運動・健康科学実習 I (メディカルケア 1)	実技担当	1年 文科 理科				
31820	月 5	身体運動・健康科学実習Ⅱ(メディカルケア1)	実技担当	2年 文科 理科				
30292	火 1	身体運動・健康科学実習 I (メディカルケア 3)	実技担当	1年 文科 理科				
31821	火 1	身体運動・健康科学実習Ⅱ(メディカルケア 3)	実技担当	2年 文科 理科				
30597	水 1	身体運動・健康科学実習 I (メディカルケア 2)	実技担当	1年 文科 理科				
31822	水 1	身体運動・健康科学実習Ⅱ(メディカルケア 2)	実技担当	2年 文科 理科				

初年次ゼミナール文科の履修について

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法を、第2回目の合同授業で学ぶ。

初年次ゼミナール文科はクラス指定の必修科目であり、以下の共通目標が定められている。

クラスごとに指定されたグループ(各 2 曜限)に開講されている授業のうち、1 授業を選択して受講する。希望が集中した場合は抽選となる。本冊子とともに配布されたプリント「【重要】履修登録について」の該当箇所にしたがって、<u>登録期</u>間内に必ず履修希望登録を行うこと。なお、履修希望は必ず第 8 希望まで登録すること。

文科の 2 年生で初年次ゼミナール文科の単位を未取得の者は、科目登録方法が通常の他クラス聴講等の手続きとは異なるので、同じく「【重要】履修登録について」を注意して読んでおくこと。

第1回授業時には、合同のガイダンスを行う。授業教室とは別の教室で行われるので注意すること。履修希望の授業を第8希望まで登録する必要があることから、できる限り指定されたグループの授業が行われる2曜限ともに出席することを勧める。ガイダンスが行われる教室については、掲示板等で告知する。

第2回授業時には、合同で、アカデミックマナーおよびアカデミックスキルに関するレクチャーと情報検索実習を行う。 各自指定された曜限に授業を受けること。この回はカードリーダーで出欠を取るので、必ず学生証を持参し、早めに教室に 来ること。第2回授業の出席曜限の指定および教室の決定は概ね第1回授業時頃までに行い、掲示板等で通知する。

第3回目からは、少人数に分かれたクラスで授業が行われる。UTAS にて決定された履修授業と教室を確認すること。

この授業の共通教材として『読む、書く、考える - 東京大学 初年次ゼミナール文科 共通テキストー』を第2回目の 授業時に全員に配布する。授業に持参するとともに、発表準備や論文執筆の前に熟読すること。

この授業に関する授業外サポートとして、大学院生が学習相談に応じるラーニングコモンズを 21 KOMCEE West 地下のスペースで開く。開室時間や利用方法等については、授業時に告知する。

クラスごとの指定グループは下表のとおりである。

グループ名	開講曜限	対象クラス
グループ 1	月4・水4	1年 文一二(4,6-7,28)文三(4,16,18)
グループ 2	火1・木2	1年 文一二(10,19,26-27)文三(7,9,13)
グループ3	火3・木3	1年 文一二(8,12,14,17)文三(10,12,14)
グループ4	火 4・金 1	1年 文一二(1-3,5,11,15-16,22)文三(1-3,11,15)
グループ 5	水 2・金 3	1年 文一二(13,21,24-25)文三(5,8,20)
グループ 6	水 3・金 4	1年 文一二(9,18,20,23)文三(6,17,19)

初年次ゼミナール文科

グループ1 1年 文一二(4,6-7,28)文三(4,16,18)

グループ 1 1年 文一二(4,6-7,28)文三(4,16,18)						
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室	
31727	月 4	名著から考える世界史	大塚 修	教養教育高度化機構	119 教室	

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

歴史学における重要な作業の一つは、史料を正確に読解・分析し、それに基づいて論じることです。この 授業では、歴史学研究で用いられる史料がどのようなものかを実際に体感し、それをどのような手法で扱 い、分析していくのかについて学びます。具体的には、高校の世界史に登場する史料の中でも特に著名なも の(例えば池田嘉郎他編『名著で読む世界史120』山川出版社、2016年に収録されている書物)の中から各 自興味のある史料を選び、その日本語訳を一定の分量、通読します。そして、関連研究の成果を参照しなが ら、史料の性格について考察した上で、その史料を通じてどのような歴史が書けそうか、について考えま さらに、その成果について報告・討論を行い、小論文を作成する作業を通じて、自分の考えを論理的に 発信する能力を向上させることを目指します。

【学術分野】歴史学

【授業形態】ディシプリン型 文献批評型

成績評価方法

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード

世界史、東洋史、西洋史、史料、イスラーム

教科書

ガイダンス

教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

31728	月 4	現代哲学の最前線	國分 功一郎	教養教育高度化機構	516 教室
授業の目標	・概要	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集のイクスキルに触れ、それらを習得する。また、であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要止を含む)、議論と根拠の関係などといったを、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】	授業を通じて「問い」 土方、議論の根拠の導 自分が取り組む「問 要な、先行研究の理解	の立て方、「理論」についいま方、論述の組み立て方ない」が学術的・社会的に意いとオリジナリティの主張の	ての考え方、「研での考え方、「研究のアカデミッ義のある「問い」
		受験勉強を終えた今、すこし背伸びした免学の最新理論の一つ、「思弁的実在論」を学 ヤスーというフランスの哲学者の著作『有『学と科学の関係を根本から問い直すとともの問題意識を理解するために必要な近代哲	さびながら、その気持 限性の後で』をじっく に、近代哲学の全体を	ちに応えたい。具体的には りと読み解いていくことに :批判した挑戦的な書物であ	カンタン・メイ なる。これは哲 5る。メイヤスー

【学術分野】哲学・科学史 【授業形態】文献批評型

成績評価方法 授業のキーワード

教科書

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

人文学、哲学、近代哲学、現代哲学、科学、思弁的実在論次の教科書を使用する。/ Will use the following textbook

を通じて近代哲学についての理解を深めることができる。

書名 有限性の後で――偶然性の必然性についての試論

著者 (訳者) カンタン・メイヤスー(千葉雅也、大橋完太郎、星野太訳)

人文書院 出版社 **ISBN** 4409030906

教科書は第 3 回の個別授業ガイダンスの後に入手すれば問題ない。もちろんあらかじめ その他

入手して読んでおいてもよい。

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

月 4 東京の都心・副都心地域の変化と課題 松原 宏 教養教育高度化機構 31729 K201 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 東京オリンピック・パラリンピックの開催は、東京の都心・副都心地域を大きく変貌させてきています この授業では、都心・副都心地域から4地区を選び、地図作業や統計分析、現地調査を通じて、そうした地 区の歴史的変化や現状についての理解を深めるとともに、今後の課題について考えていくことにします。 【学術分野】人文地理学 【授業形態】フィールド型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード 東京、CBD、都心再開発、スマートシティ、クリエイティブ産業 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 月 4 青年期の心理社会的問題を探究する 教養教育高度化機構 120 教室 31730 石垣 琢麿 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 青年期は心理・社会的に大きな問題を抱えやすい発達段階であり、従来から「人生における疾風怒濤の季 節」だと言われてきた。青年を取り巻く心理社会的環境について自らの力で探究することは、学生諸君にと っては自己認識を深め、将来を考える手段にもなり得よう。このゼミナールでは文献調査やインタビュー等 の方法により、発達心理的・臨床心理学的側面だけでなく、教育、経済、法律などの諸側面から青年期を考 えたい。 【学術分野】心理・教育学 【授業形態】ディシプリン型 フィールド型 成績評価方法 出席、報告(口頭発表)および議論への貢献等の平常点と小論文(レポート)とで判断する。 授業のキーワード 青年期、発達心理学、臨床心理学、教育、社会 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス

政治における因果関係 鹿毛 利枝子 31731 月 4 教養教育高度化機構 118 教室 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 政治の世界において、「因果関係」とはどのように考えられるのだろうか。どのような条件の下でそれが「あ り」、どのような条件の下でそれが「なかった」と判断できるのだろうか。この授業では、教科書(下記参 照、ガイダンスの際にも説明)と受講者各自の選ぶ題材をもとに、考える。 【学術分野】法・政治 【授業形態】ディシプリン型 出席、グループや個人での発表、議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 政治学、因果関係、比較政治 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 『原因を推論する』 書名 著者 (訳者) 久米郁男 有斐閣 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 月 4 指標から社会を見る 岡田 晃枝 教養教育高度化機構 K402 31732 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 国民がどれくらい幸せなのかを示す幸福度、国内社会がどのくらい民主的なのかを示す民主化度、国民がど のくらい自分の将来を自由に選択できる社会かを示す人間開発指数等、社会の質的側面を表す指標に注目 する。それらの指標がどのような要素から構成されているかを知り、同程度の国家間の制度や社会状況を比 較するなど、学術的な議論ができるようになることを目指す。 【学術分野】国際関係 【授業形態】ディシプリン型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 質的データ、量的データ、民主化度、幸福度、人間開発指数、政治的自由 成績評価方法 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

31450 理論言語学と翻訳 渡邉 明 文学部 121 教室 水 4 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 翻訳においては正確さだけではなくわかりやすさも要求される。そうした状況で、理論言語学の知見から 領域を限定し、それに関連して翻訳上具体的に生じる問題を言語学での観点から自ら定義し考察すること で言語分析の実際を体験することを目標とする。授業では、英語で書かれた書評論文から、日本語へ翻訳す る際に注意が必要な箇所をこちらで抽出し、そこで使われている表現が日英語比較の分析上どのような具 体的問題を提起するかを考察する小論文を作成してもらう。英語から日本語への翻訳では、ともすれば英語 の文法的特徴に関心が向けられがちであるが、日本語の文法についての理解もそれに劣らず重要であるこ とを体験してもらうことになるであろう。 【学術分野】言語学 【授業形態】ディシプリン型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 言語学、英語、日本語、疑問文、感嘆文、否定 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 「偉人伝」を読む 31753 水 4 永井 久美子 教養教育高度化機構 115 教室 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 子ども向けのものを含め、これまでに偉人伝に接してきた人は多いだろう。 感動し、敬意を表する 「純粋な」 読み方も、もちろん存在する。ただしこの授業では、何が「偉業」とされ、それがどのような表現を用いて 語られているかを、客観的に分析してもらう。その分析を通して、時代や社会が求める理想の人物像とは何 かについて考察してほしい。 取り上げる伝記は各自が自由に選択するものとし、時代や地域は不問とする。評伝のほか、映画や漫画も分 析対象としてよい。また、問題を論じるうえで必要な場合は、複数の人物や書物についての比較対照を行っ てもよい。 授業では、選択したテーマの概要について各自に発表を行ってもらうほか、小論文の草稿についての意見交 換を行うことを通して、最終課題の完成度を高めてゆく。 【学術分野】国文・漢文学 【授業形態】文献批評型 成績評価方法 発表および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 草稿は期限内に提出されたもののみを評価の対象とする。 授業のキーワード 人物伝、批評、問題意識 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

35

31754 水 4	東京をフィールドワークする	田辺 明生	教養教育高度化機構	K302
授業の目標・概要	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の クスキルに触れ、それらを習得する。また、	授業を通じて「問い」 仕方、議論の根拠の導	の立て方、「理論」につい き方、論述の組み立て方な	ての考え方、「研などのアカデミッ
	であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要 止を含む)、議論と根拠の関係などといった を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】	とより基礎的な作法お	よび図書館などの研究リソ	'ースの利用方法
	この授業では、フィールドワークを通じて 的方法を学んでもらう。受講生は自らの興 び、それぞれフィールドワークを行う。まて 画を作成する。その計画に基づいて、各自、 てフィールドワークで得たデータを通じて	味に基づいて「東京の ず自らのトピックにつ 参与観察やインタビ	いま」をとらえるための研いて文献調査を行い、フィューなどのフィールドワー	f究トピックを選 ールドワーク計 -クを行う。そし
成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス	【学術分野】 文化人類学 【授業形態】 フィールド型 出席、報告および議論への貢献等の平常点 フィールドワーク、インタビュー、参与観 教科書は使用しない。/Will not use textboo 第1回授業日に行う。ガイダンス教室につ	と小論文とで判断する 察、文化人類学、東京 k	3。 克	
31755 水 4	国際関係について理論的に考える	湯川 拓	教養教育高度化機構	518 教室
授業の目標・概要	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。完方法」の設定の仕方、学術資料の収集のクスキルに触れ、それらを習得する。また、であることを主張する必要性を理解する。「問い」の「答え」を導くに当たって必要止を含む)、議論と根拠の関係などといったを、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 国際関係論(国際政治学)という学問の見には、戦争・国際機構・地域主義・人権・最初に、研究者によって研究を行い、とれ「国際関係論」の専門的知識を養うことだら適切なリサーチデザインを立てる、報告視する。 【学術分野】 国際関係 【授業形態】ディシプリン型 文献批評型	授業を通じて「問い」 出方、議論の根拠の導 自分が取り組む「問 要な、先行研究の理解 とより基礎的な作法お 地から、国家間の協調 内戦(平和構築)なー を読むことで「りサー を読むこと、 よりした。	の立て方、「理論」についき方、論述の組み立て方ない」が学術的・社会的に意い」が学術的・社会的に意いが関書館などの研究リソと対立について理論的に考ざのテーマについて理論的に考さらは何か」という点を実まペーパーとしてまとめる。作業を通して基本的なアカ	ての考え方、「研っまた」での考え方、「明っまた」である「問い」のある「問い」の方法(利用方法の利用方法を表する。 まる らった としし アミックスキル
成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス	出席、報告および議論への貢献等の平常点 国際関係、戦争と平和、国際制度 教科書は使用しない。/Will not use textboo 第1回授業日に行う。ガイダンス教室につ	ık		

31756 水 4	経済事象にお	する 「因果」	と「相関」	岡地 迪尚	教養教育高度化機構	102 教室
授業の目標・概要 成績評価方法 授業のキーワード	【共学院 大大	の では、	を探すする。 要ない ない な	にまず「問い」自体 自体 当にて「問い」 言い」問い こまず「問い」問い こまず「問い」問い こまず「問い」 の根却 の根却 の相む の相む の相む の相 な、生存的な を事と のは、 ののと ののと ののでで を事にいい ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで のので ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで のので ののでで のので ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで ののでで のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので のので	を自分で見つける必要があの立て方、「理論」についき方、論述の組み立て方ない」が学術的・社会的に意とオリジナリティの主張のよび図書館などの研究リソのか、という点を見出すのいう誤りを引き起こす可能ら学んでいく。 歴史学 国文・漢文学 文件	るという点を理 ての考え方、「可研 どのアカデミッ 養のある「問い」 方法(剽窃の防 ースの利用方法 は最あり、それ
教科書 ガイダンス	著者(訳者) 出版社 ISBN その他	「原因と結果中室牧子・清 ダイヤモント 978-4-478-039	と」の経済学 - ^は 川友介 [*] 社 947-2	ing textbook - データから真実を っては掲示板等で告知		

グループ2 1年 文一二(10.19.26-27)文三(7.9.13)

	グループ 2 1年 文一二(10,19,26-27)文三(7,9,13)							
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室			
31733	火 1	食をめぐる語り	井坂 理穂	教養教育高度化機構	K501			

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

この授業では、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて日本で出版された料理書、家事指南書、食のあり方 に関する評論などを手がかりとしながら、これらの記述の背景にある食の概念、栄養学・医学などの学問潮 流、家族・ジェンダー観、国家・国民像などを探る。文献を丁寧に読み解きながら、その内容や背景に関す る様々な問いをたて、それらの問いに答えるための方法を模索する。通時的な観点や地域横断的な観点も取 り入れながら、多角的に考察したうえで、その成果を授業のなかで報告する。

【学術分野】歴史学 【授業形態】文献批評型

成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード

食、日本、近代、ジェンダー、国民

教科書

授業中に指示をする。/Will specify at class time

ガイダンス

第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

31734 火 1 日常生活の「当たり前」を再考する 関谷 雄一 教養教育高度化機構 115 教室

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む 「問い | が学術的・社会的に意義のある 「問い | であることを主張する必要性を理解する

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

フィールドで要領よく情報収集をし、オリジナリティーにとんだ「発見」を導き出すためには、一定のア カデミックスキルに従って「問い」を組み立て、論理的に「答え」てゆく必要がある。

この授業では、文化人類学というディシプリンにおいて育まれてきた「問い」の立て方を学びながら、自 らの生活時間・空間をフィールドに見立て、情報収集を行い、オリジナルで、かつアカデミックに意味のあ る「問い」を立て、それに対する「答え」を導き出す作業を行ってゆく。

この授業で枢要な部分をなすフィールドワークは、日常生活の中で出会う場、空間、時間を援用しながら 行ってみる。毎日乗る通学電車、好きな授業、部活動やサークル、アルバイト先、隣近所、SNS、行きつけ のカフェ等が具体的には思い当たる。

こうした身近な生活時間・空間が、ちょっとしたアカデミックスキルや文化人類学的な視座を通して見つ めなおすことにより、大きく「化ける」発見こそ、この授業を通して獲得してほしい事柄である。いまのと ころ、授業時間を使って皆でフィールドに出かけたり、特別な場を設けてフィールドワークをする予定はな

自らの生活に埋め込まれている思わぬ「発見」は、地道なアカデミックスキルの獲得作業と先行研究分析 により、かなり大きな確率で導かれることを理解してもらう。加えて、フィールドワークが、単なる量的な情報収集などではなく、人々との信頼関係や自らのフィールドへの持続的な働きかけにより、質的に大きく 変わってゆくダイナミックな作業であることも理解してもらえるよう、個々の学生の継続的かつ積極的な 参加を促したい。

【学術分野】文化人類学 【授業形態】ディシプリン型 & フィールド型

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 文化人類学、フィールドワーク、相対化、学際的視点、フィールドノート、エスノグラフィー 授業のキーワード

教科書 授業中に指示をする。/Will specify at class time

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

フランスを知る 31735 火 1 谷本 道昭 教養教育高度化機構 116 教室 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 とりわけ 2015 年に起きた二回のテロ事件以降、フランス社会は大きく揺れ動き続けており、フランスに 関心を持つ者も持たない者も、フランスの現状を知りさまざまに考察を深める必要に迫られている。そうい った時流の中で、本演習では、担当教員の本来の専門であるフランスの文化芸術を直接的に取り上げること は控え、その前提となる社会そのものを学習、議論の対象としたい。 まずはフランスを論じる近年の日本語の著作、論文を精読し、「共和主義」「移民」「宗教」「教育」といっ た、今日のフランスを語るうえで欠かすことのできない用語や事象を理解していくことから始める。その後 は履修者の希望や関心に配慮しながらトピックを選び、発展的な学習を進めていく。履修者には、調査報告、グループ発表などを行ってもらう予定。授業ではフランスを中心に扱うが、日本やそのほかの国の状況 や事例と比較することでさらに理解を深め、そこから新たな問いを立てていくのも良いだろう。 【学術分野】人文社会学 【授業形態】ディシプリン型・文献批評型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 フランス 現代社会 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31736 火 1 紛争と介入をめぐる諸問題 岡田 晃枝 教養教育高度化機構 **KALS** 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 この授業の目標・概要】 現代の国際社会が直面するさまざまな問題のうち、紛争と介入をめぐる諸議論をとり上げ、文献を読み、批 判的に検討しながら、学術的な論文の書き方と議論のあり方を学ぶ。主観的・直感的に「正邪」を議論する のではなく、事実関係を整理し、既存の議論をふまえた上で、「自分の」議論を説得的に展開できるように なることがこの授業の目標である。 【学術分野】国際関係 【授業形態】ディシプリン+文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 紛争、軍事介入、人道的介入、和解、保護する責任、平和構築 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

法からみる世界と日本 北村 朋史 教養教育高度化機構 31737 火 1 K301 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】日本は、安全保障、領土問題、戦後補償、通商紛争、難民問題等、様々な国際的 課題に直面している。こうした課題について検討する視点もまた様々あるが、この授業では、法的な観点か らこれら課題について考察する。こうした作業を通じて、学問的な「問い」の立て方やそれへの取り組み方、 また報告や論文執筆の方法を学ぶ。リサーチと報告は、3~4 名程度のグループで行う。小論文は、各受講 生がさらにリサーチを進め、個人で執筆する。 【学術分野】法・政治 【授業形態】ディシプリン型、文献批評型 出席、報告および討論への貢献等の平常点、小論文で判断する。 成績評価方法 授業のキーワード 世界、日本、法、国際法 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 歴史研究の現場に立つ――東洋史で 31757 木 2 杉山 清彦 教養教育高度化機構 115 教室 学ぶアカデミックスキル 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 歴史学とは、人類の過去の営みの一面を史料に依拠して明らかにし、それに論理的説明を与える学問であ 問題の発見にはみずみずしい好奇心が、史実の復元には史料に向き合う地道な努力と語学力 る。それゆえ、 が、そして問題の解決には柔軟な発想と論理構成力が不可欠である。そしてこの知的営みは、その根拠が 「史料」であることを固有の特色とする以外、あらゆる学問的営為と共通している。このゼミナールでは、 アジアを対象とする東洋史学の分野の中から、研究が塗り替わりつつあり、また学術的論争となっているト ピックを取り上げて、研究文献を講読・検討する。それを通して、歴史学の方法を学ぶとともに、研究の現 場を体験してもらいたい。 【学術分野】歴史学 【授業形態】ディシプリン型 文献批評型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 歴史学、アジア、史料、実証、先行研究、歴史像 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

キルケゴール『不安の概念』を読む 古荘 真敬 教養教育高度化機構 118 教室 31758 木 2 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 キルケゴールによれば、不安とは「自由のめまい」である。それは、われわれ人間が、動物的な直接性を生 きることをやめ、「可能性」という得体の知れないものに唆されながら存在せざるをえない以上、不可避的 に生じる「めまい」なのだ、と分析されている。そのような人間存在の根本構造の核心を、「性愛」や「罪」や「悪魔的なもの」との関連において考察した『不安の概念』(1844)は、20世紀の実存哲学を準備した人間 存在論の古典である。この授業では、その論考の重要箇所を一緒に読解しながら、私たち人間のあり方の根 っこに潜む不安な揺らぎの正体について共に考えてみたい。 本書は、けっして分かりやすい本ではない。キリスト教思想やヘーゲル哲学等に関する知識を前提したよう な、いささか独りよがりな書きぶりが、多くの読者を「挫折」させがちであるのも事実だろう。だが、自分 たちとは異なる時代の異なる文化的伝統に属するこのような古典を苦労して読むことを通して、必ずや、受 講生の皆さんには、自分たちの人間理解と自己反省の幅を大いに広げるチャンスが与えられるに違いない と信じている。 授業は、キルケゴールのテクストの講読演習という形式をとって展開するが、目ざされているのは、単なる テクスト解釈ではなく、受講生各自が自分の問いを発見し、その問いを深く論理的に掘り下げていく修錬を 重ねてもらうことである。 【学術分野】哲学・科学史 【授業形態】ディシプリン型 文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード キルケゴール、不安、自由、デモーニッシュなもの 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 『不安の概念』 著者 (訳者) セーレン・キルケゴール 平凡社ライブラリー 出版社 **ISBN** 4582768822 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 セルバンテス作『ドン・キホーテ』 木 2 竹村 文彦 教養教育高度化機構 149 教室 31759 を精読する 【共通目標】 授業の目標・概要 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 スペインの作家セルバンテス(1547-1616)の手になる『ドン・キホーテ』(前篇 1605、後篇 1615)は、近 代小説の元祖と評価され、フロベールやドストエフスキーをはじめとする世界の名だたる作家たちに多大 な影響を与えてきた。この授業では、『ドン・キホーテ』前篇の抜粋を日本語で精読しながら、本作品のど こがそんなにすばらしいのか、古典文学を研究するとはどのような行為なのか、今日古典を読むことの意義 は何なのか、といった問題を考えてゆきたい。また、これまでになされてきたこの小説の翻訳の比較検討も 試みたい。 【学術分野】外国文学 【授業形態】文献批評型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 近代小説、書物と現実、語りの技法 授業のキーワード 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 セルバンテス 教科書 書名 セルバンテス (野谷文昭ほか) 著者(訳者) 出版社 集英社 **ISBN** 978-4-08-761046-8 集英社文庫へリテージシリーズ ポケットマスターピース 13 その他 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

福沢諭吉『学問のすゝめ』を 31760 木 2 徳盛 誠 教養教育高度化機構 116 教室 リライトする 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 『学問のすいめ』は、福沢諭吉が明治維新後の混乱期を生きる若者を念頭に、生活や行動のごく身近な事柄 から政府や法律、国際関係の見方に到る大小さまざまな問題を、一個の人間としてどう生きるかという観点 から、ていねいにまた生き生きと論じ、大きな反響を呼んだ著作である。しかしながら 150 年近い時代の変 遷は、この書物を、名は知られていても実際には読まれることの少ない「古典」にしてしまっている。この 授業では、2020年代の若い人に力ある書物として『学問のすゝめ』を再生させたい。 その目的に向けて、『学問のすゝめ』の精読を基礎としつつ、その諸々の表現や取り上げる事例、場合によ っては思想をも対象として全面的な書き換えを試みる。 【学術分野】法・政治 経済・統計 社会・社会思想史 国際関係 歴史学 国文・漢文学 文化人類学 哲学・ 科学史 心理・教育学 人文地理学 【授業形態】ディシプリン型 フィールド型 文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 福沢諭吉、『学問のすゝめ』、近代、日本思想、リライト 授業のキーワード 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 学問のすりめ 書名 著者 (訳者) 福沢諭吉 出版社 岩波書店 その他 岩波文庫 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 政治哲学を通じて論理を学ぶ 井上 彰 31761 木 2 教養教育高度化機構 117 教室 授業の目標・概要 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 政治哲学においては、自由、正義、デモクラシー(民主主義)といった概念・理念をめぐって、様々な論 争が展開されてきた。本演習では、そうした政治哲学の鍵概念を中心に、(広い意味での)政治のあるべき 姿についての根本的理解を深め、アカデミックな作法・技法、すなわち、批判的読解や自ら論証的議論を展 開するための方法について学習する。 【学術分野】社会・社会思想史 【授業形態】文献批評型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 授業のキーワード 政治哲学、批判的読解、論証的議論 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

31762	木 2	社会科学における仮説の設定と その検証	木宮 正史	教養教育高度化機構	KALS
「 授業 で で で で で で で で で で	法ワード	「特殊方、大社のでは、大きないからいからいからいからいからいからいからいが、このでは、大きないが、このでは、大きないが、ないが、ないが、ないが、のいに、大きないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、	を議論に対して、というでは、人間、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、	て、いなどする。 でのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	考ア必の別である。を、現す、を形因、業族)タに書う、必考ア必の別である。を、現す、を形因、業務)の解書なで方、デ性法一、かいの磋、識がこ、仮は関、根題具必釈方発、研ッ理剽の、そこう磨、はこが、と2や、よ関的のの示行、自然の解窃利、うとです、測っで、いつ相、くしなかか示行、自方スさを用して、る、りたき、うの関、行、資。。。資う、分方スさを用して、る、りたき、うの関、行、資。。。資う、分

グループ3 1年 文一二(8,12,14,17)文三(10,12,14)

	グループ3 1年 文一二(8,12,14,17)文三(10,12,14)							
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室			
31738	火 3	科学史の基礎	橋本 毅彦	教養教育高度化機構	118 教室			

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

科学の歴史について、その概要と問いの立て方について学ぶ。古代から現代に至るまでの科学の歴史を大きく4つの時期(テーマ)に区分して、それぞれの時期における科学の発展に関する概観、その時期の科学史に関する諸問題について学び、科学史に関する研究論文(二次史料)、その時期の科学の文献(一次史料)を読解する。

4つの時期・テーマは、古代・中世における科学、近代の科学革命、19世紀の科学の発展、そして 20世紀の科学史からは特に原爆開発を取り上げる。それぞれのテーマについて基本的な内容の説明を受けた後、受講者は科学史の研究文献(二次史料)を読解する。その後受講者は、一次史料を参考にしつつ、科学の歴史に関して自らの問いを見いだすことを目指す。

授業を通じて、科学の歴史に対する問いの立て方、科学史の問題に関するいかなる解答があるのかを学ぶ。

【学術分野】哲学・科学史 【授業形態】ディシプリン型

成績評価方法 授業のキーワード

教科書

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

科学史、科学革命、ガリレオ、進化論、原爆開発

次の教科書を使用する。/Will use the following textbook

書名 <科学の発想>をたずねて

著者(訳者) 橋本毅彦 出版社 左右社

ISBN 978-4903500423

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

31739 | 火 3 | 祭りを読む | 沖本 幸子 | 教養教育高度化機構 | 115 教室

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

祭りに関心を寄せる学問はさまざまです。文学、歴史学、民俗学、社会学、文化人類学、民族音楽学、宗教学などなど。祭りがその地域の風土、暮らし、歴史、信仰などと深く関わっているからです。日本の祭りは、その土地で生きる人たちが、身の回りの自然や死者(祖先)たちとどう向き合い、生き合うか、という中ではぐくまれて来ました。そして、そうした感性が、能などの古典芸能や文学を支えてもいます。現代の都市に生きる人々とは異なる感性や美意識がそこにはあり、そうした感性や、そこに託された思想を探求することは、今ここに生きる私たちを相対化する座標軸を育て、自分たちの立ち位置を知ることでもあります。この授業では、特に祭りや芸能などの身体化された事象に注目しながら、日本文化を多角的に見るまなざしを養っていきたいと思います。

【学術分野】法·政治 経済·統計 社会·社会思想史 国際関係 歷史学 国文·漢文学 文化人類学 哲学·科学史 心理·教育学 人文地理学

【授業形態】ディシプリン型 フィールド型 文献批評型

成績評価方法 出 授業のキーワード 祭

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード 祭り、芸能、身体、自然、共同性

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

31740	火 3	学びの心理学	椿本 弥生	教養教育高度化機構	K402
		ー学ぶ・教える・測るー	相外 70工	3人及3人日间/文记域旧	11102
授業の目標	・概要	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の位 クスキルに触れ、それらを習得する。また、	授業を通じて「問い」の 仕方、議論の根拠の導き	D立て方、「理論」について ₹方、論述の組み立て方など	の考え方、「研 ごのアカデミッ
		であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要 止を含む)、議論と根拠の関係などといった を、第2回目の合同授業で学ぶ。			
		【この授業の背景・目的】 複雑さが増すこの社会において、他者と協 学びを支援すること、よりよく教えること る行為は、さまざまな心理的・物理的要因 この授業では、学ぶこと(学習)や教える。 までも、そしてこれからも私たちの身近なる を研究する方法を習得することを目的とす 定し、「答え」を明らかにするための小規模 し、「問い」に対する「答え」を導いてほし データ分析に自信がない人も、教員や TA z	などの重要性も増していなどからうまくいかないこと(教授)に関わる国存在であり、教育心理学る。具体的には、履修得な実験や調査を考えてい。 が基本事項を講義・指導	いる。しかし一方で、学んだい場合も多いことが明らか 国内外の研究知見を参考にし の代表的な一分野でもある 首各自で興味関心を活かした 実施してもらう。得られた	ごり教えたりすになっている。 になから、これら「教授・学習」 を「問い」を設 でごりを分析
		いて学術的に考えてみたい人は積極的に履 【この授業の目標】 以上の概要をふまえて、以下の学習目標を ・教授・学習を研究するための問いを設定 ・問いを明らかにするための研究方法を設 ・得られたデータを適切に分析できる ・分析の結果を正しく読み取り、妥当な解 ・討論や報告によって他者の学習に貢献で ・学術語型	設定する。 できる 定できる 釈ができる きる		
【学術分野】心理・教育学 【授業形態】ディシプリン型 フィールド型 成績評価方法 研究報告および議論への貢献等の平常点 および小論文の合計点数で評価する。 a) 平常点 (授業中の活動への参加・グループへの貢献):40 点満点 b) 小論文:60 点満点 注 1) 単位取得のためには、i)a,b ともに 60%以上得点していること、ii) 講義に 2/3 以上出席と、の両方を満たす必要がある。 注 2) 特別な理由なく 30 分以上の遅刻・早退があった場合は、出席とみなさない。 注 3) 平常点と小論文の評価基準は、授業内で示す。適切な基準を作成するために、小論文の仮					
授業のキー	ワード	データ分析		受効果の測定、高次認知過	程、メタ認知、
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。/Will not use textboo 第1回授業日に行う。ガイダンス教室につ		する。	
31741	火 3	国際法の視点から現代の国際的課題 を分析する	キハラハント 愛	教養教育高度化機構	KALS
授業の目標 成績評価方	法	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の代クスキルに触れ、それらを習得する。また、であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たといったであるとを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たといったを含む)、議論と根拠の関係などといった。第2回目の合同授業でといるといる。第2回目の合同授業でといる。 「問い」の立て方、「問い」への発見について、の名で持続でいる。これらの課題について、なると問的な「問い」の立て方、「問い」への名の過程・結果の報告や論文執筆の方法を学【学術分野】法・政治 【授業形態】ディシプリン型、文献批評型出席、報告および議論への貢献等の平常点 国際法、国際的課題、紛争、難民、人権	授業を通じて「問い」の 出方、議論の根拠の導き 自分が取り組む「問い 要な、先行研究の理解と とより基礎的な作法およ 、増える難民、安全保障 的な観点から考察し、 等えの追求の仕方、批判 ぶ。 と小論文とで判断する。	の立て方、「理論」について 方、論述の組み立て方なと が学術的・社会的に意義 オリジナリティの主張の方 び図書館などの研究リソー 意制度の変化、気候変動など その作業を通じて、文献の 同的かつ建設的なディスカッ	の考え方、「研 でのある「問い」 可法(剽窃の防 ・スの利用方法 ・、様々な課題 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。/Will not use textboo 第1回授業日に行う。ガイダンス教室につ	k いては掲示板等で告知 [、]	する。	

31742	火 3	「グローバル化」における「不平等」と 「貧困」を考える	中西 徹	教養教育高度化機構	117 教室
授業の目標	・概要	【共通目標】			
成績評価方 授業のキー 教科書 ガイダンス	ワード	大学では「問い」の「答え」を探求する前にま解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分であることを主張する必要性を理解する。「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、止を含む)、議論と根拠の関係などといったよりを、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 「グロバール化」が進む中、ピケティやハラリが題が深刻化しつつある。この授業では、この問題【学術分野】経済・統計【授業形態】ディシプリン型出席、報告および議論への貢献等の平常点と小語グローバル化、不平等、貧困次の教科書を使用する。/Will use the following は書名 第1世紀の人類のための21の第2日に行う。グローバル・ノア(柴田田社会の大類のための21の第3日に発生の大類のための21の第3日に発生の大類のための21の第3日に発生の大類のための21の第4日に発生の大類のための21の第4日に行う。ガイダンス教室については	全通じて「問い」 議論の組む「問い」 が取り組む「問の組む」 先行的の組むの理なの 基礎的な作よる は指様々なもい。 自文とで判断する extbook の思考』 日裕之訳)	の立て方、「理論」につい き方、論述の組み立て方ない」が学術的・社会的に意思 とオリジナリティの主張のよび図書館などの研究リソ よび図書館などの研究リソ に、地球規模での「不平等」 から考察したい。	ての考え方、「研さいのである」、「研えどのアカデミッ義のある「問い」の方法(剽窃の防・スの利用方法
31763	木 3	日本と東アジアの歴史 --前近代の国際関係	渡辺 美季	教養教育高度化機構	117 教室
授業の目標の最終である。 「では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	法・ワード	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にま解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分であることを主張する必要性を理解する。「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、止を含む)、議論と根拠の関係などといったよりを、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】史料および関連する文を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】史料および関連する文を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】史料および関連する文を、初歩的なレベルで身に付ける。具体的に波書店)に収録された、前近代東アジアの国際関中から、各自が興味・関心を持つものを選び、そ告および小論文の形でまとめ、発信する手法を受して、各自が野】歴史学 【授業形態】ディシブリン型、文献批評型出席、報告および議論への貢献等の平常点と小語を学、史料、国際関係、日本、東アジア、前に教科書は使用しない。/Will not use textbook第1回授業日に行う。ガイダンス教室については	全通じて「問い」 議論の相む「問い」 表行の相む「明の相な」 先行的の程を 本で 大で 大で は、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	の立て方、「理論」についまき方、論述の組み立て方ない」が学術的・社会的に意思なる。 とオリジナリティの主張のよび図書館などの研究リソの分析に基づいて立論するの技粋に解説を付した『世界のである。 は、日本に関わるものを多くで研究を読みつつ興味・関心	ての考え方、「研えどの考え方、「研えどのある「問い」 か方法(剽窃の防法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

三島由紀夫と戦後日本 田尻 芳樹 教養教育高度化機構 115 教室 31764 木 3 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 2020年は日本の戦後文学を代表する作家三島由紀夫が衝撃的な割腹自殺を遂げてちょうど50周年に 当たります。 文壇のスターとして戦後脚光を浴び続けた三島でしたが、 復興し経済発展を続ける日本の姿に 強い違和感を感じていました。それは自らの存在に関する「ニヒリズム」ともつながっていました。この授 業では彼の代表作『鏡子の家』(昭和34年)を読むことで、彼が見据えていた戦後社会の問題、さらには より哲学的な、「世界の存在」の問題を考える糸口にしたいと思います。というのも彼が抱えていた問題は現代の問題に通じるところが非常に多いからです。三島由紀夫というと『金閣寺』が真っ先に思い浮かぶ人 が多いかもしれませんが、あの作品は実はきわめて難解です。それに比べ、三島自身も最も評価していた 『鏡子の家』は構造が単純で読みやすく、かつ彼自身の思想がよりストレートに表現されている面がありま す。授業の前半はこの作品を読み、後半はこの作品へのさまざまな批評、研究を読みます。そして最終的に 文学作品をアカデミックに研究する方法も会得していただきたいと思います。 【学術分野】国文・漢文学 【授業形態】文献批評型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 戦後日本、文学、三島由紀夫 授業のキーワード 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 鏡子の家 書名 著者 (訳者) 三島由紀夫 新潮文庫(改版) 出版社 **ISBN** 978-4101050065 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 芥川龍之介を読む 31765 木 3 出口 智之 教養教育高度化機構 116 教室 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 高校の国語科でも多く扱われる教材「羅生門」を書いた芥川龍之介の短篇小説を取上げ、小説テクスト分析 の基本的な考え方および文学研究の基礎を実践的に学ぶ。扱う作品については、学生から希望があればそれ を生かしつつ、教員からも候補を提示し、最終的には授業の中で決定する。著名作からマイナーな作品ま で、様々な芥川の作品を読んで作家への理解を深めつつ、これまでの国語とは異なる、創造的な読解の面白 さを体感してほしい。 【学術分野】国文・漢文学 【授業形態】文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 日本近代文学、芥川龍之介、テクスト分析、文芸批評 教科書は使用しない。/Will not use textbook 授業のキーワード 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

映画と諸芸術 31766 木 3 谷本 道昭 教養教育高度化機構 K301 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 古くから第七芸術-建築、彫刻、絵画、音楽、詩、舞踊に次ぐ芸術-と称されてきた映画は、実際、その 誕生直後から先行する諸芸術と緊密に結びついてきただけでなく、新興芸術として、既存の技芸や新たな技 術を貪欲に丸呑みしていくことで発展してきたといえる。今日の映画・映像表現を見れば、そこにいかに豊 かで雑多な情報・記号が含み込まれているかを誰もが直感的に体感することができるだろうが、画面上です べてを人工的に生成することのできる時代であればこそ、映画・映像がどのように構成されているのかを論 理的、理知的に捉える能力を養う必要があるように思える。そのためには一度すべてを忘れ去り、原点に立 ち返るほかない。 本演習では、まず、1895 年のリュミエール兄弟による映画発明の時点、さらには映画発明以前の映画前史 の時代にまで遡り、映画と諸芸術の関係をその起源から捉え、理解していく。その後は、メリエスによる初 期 SF、エミール・コールによる初期アニメーションから、無声映画の古典までを取り上げ、映画と諸芸術 の関係の発展を追う。履修者がある程度の映画史的常識を身につけることができたら、現代まで視野を広 げ、グループワーク、ディスカッションなどを行いつつ、映画と諸芸術の関係について、教室全体でより自由に議論を深めていくこととしたい。 【学術分野】映画・映像文化論 比較芸術論 【授業形態】ディシプリン型・フィールド型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード 映画 映像文化論 比較芸術論 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 『映画とは何か』上巻 書名 著者 (訳者) アンドレ・バザン 岩波書店・岩波文庫 出版社 ISBN-10: 4003357817 ISBN ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31767 木 3 ディレンマとつきあう平和構築 中村 長史 教養教育高度化機構 **KALS** 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 武力のせいで平和がこわれることもある一方で、武力によって平和がつくられることもある。このすっき りとは割り切れないディレンマこそ、戦争と平和の学問として出発した国際政治学が抱え続けてきた最も 大きな難問の一つといってよい。そして、このようなディレンマは、国際政治の至るところにみつけること ができる。 この授業では、国際政治学の一分野である広義の「平和構築」に焦点を当て、そこにみられるディレンマ の分析を通して、国際政治の構造自体を理解することを目指す。具体的には、平和な状態の回復を目指す政 策(人道的介入、対テロ武力行使、人道支援、仲介など)、維持を目指す政策(平和維持活動など)、定着を 目指す政策(狭義の平和構築活動=国家建設、国際刑事裁判、和解など)を扱う。 履修者が学期末に到達することを期待される目標は、以下の6点である。 ①平和構築に関する専門的な文献の意義や問題点を指摘することができる(課題文献の輪読で訓練⇒小論 文に活かす) ②平和構築に関する資料や文献を自ら適切に収集することができる(紛争ケースブック作成で訓練⇒小論 文に活かす) ③懐疑的な読者の存在を常に意識して、 予想される反論にあらかじめ応答することができる (ディベートで 訓練⇒小論文に活かす) ④平和構築のあらゆる段階に存在するディレンマについて、何が問題かを事例を挙げて説明することがで きる(すべての回で訓練⇒小論文に活かす)。 ⑤平和構築のあらゆる段階に存在するディレンマについて、それが生じる原因を事例を挙げて説明するこ とができる(すべての回で訓練⇒小論文に活かす)。 ⑥平和構築のあらゆる段階に存在するディレンマについて、それを管理したり解決したりする方法を事例 を挙げて説明することができる(すべての回で訓練⇒小論文に活かす)。 【学術分野】国際関係 【授業形態】ディシプリン型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 平和構築、国際政治、ディレンマ、紛争ケースブック 、ディベート 、実証 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

グループ4 1年 文一二(1-3,5,11,15-16,22)文三(1-3,11,15)

	グループ 4 1年 文一二(1-3,5,11,15-16,22)文三(1-3,11,15)								
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室				
31743	火 4	史料を通じて知る 1950 年	外村 大	教養教育高度化機構	115 教室				

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

現代史の史料に接し、わからないことがあった場合にはどのように調べるか、そこから何が読み取れるかなどの歴史史料の扱い方の基礎を習得する。今回の授業では、1950年に書かれた、ないし 1950年を回想して書かれた、日本社会に関する史料を読んでいく。それを通じて、歴史のなかでのこの時期の位置、この時代の人びとがどのようなことを経験し、それについてどのように考えていたのか、今日それがどのような意味を持つのかを、考え、議論していく。

【学術分野】歴史学

【授業形態】ディシプリン型

成績評価方法出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード 史料、冷戦、戦後、民主化、経済復興 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

31744	火 4	哲学の古典を読む	山本 芳久	教養教育高度化機構	116 教室
		,		47 17 477 11 475 41 - 17 111 4	

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

哲学の古典を原典に即しながら丁寧に読み解いていく力を身につけていくことを目標とします。具体的には、西洋を代表する哲学書の一つであるトマス・アクィナス(1225-1274)の『神学大全』を、日本語訳で講読します。テーマは「感情について」です。一人では読み解きにくい哲学書を読み解くための技法を、みなさんが毎日抱く具体的な「感情」という身近なテーマに即しながら説明していきます。

【学術分野】 哲学・科学史 【授業形態】 文献批評型

成績評価方法 出

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード 教科書 西洋哲学、倫理学、キリスト教、、トマス・アクィナス、『神学大全』、感情次の教科書を使用する。/ Will use the following textbook

書名 『トマス・アクィナス 肯定の哲学』

著者(訳者) 山本芳久

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

聖火リレーと江戸名所 田村 隆 教養教育高度化機構 31745 火 4 **KALS** 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 来る東京オリンピックの聖火リレーは 3 月 26 日に福島県からスタートし、7 月 10 日から 24 日にかけて東 京都内を走る予定であるという。この授業では聖火リレーの東京ルートの各区間に選ばれた「江戸名所」を 取り上げ、『江戸名所図会』などの古文献を繙きながら古典から現代までの「名所」の今昔を追ってみたい。 江戸時代には江戸や京都などの「名所」を解説する「名所図会」のシリーズが編まれた。そこでは『源氏 物語』や『伊勢物語』などの古典も引用される。たとえば「隅田川」を例にとれば、本郷から隅田川へ続く 「言問 (こととい) 通り」は『伊勢物語』の「いざ言問はん都鳥」に由来するし、お台場を走る「ゆりかもめ」の命名も元をたどれば「都鳥」に行き着く。「名所」の歴史をたどることを通じて、今の街の姿を再考 し、あわせて古典に対する理解を深めるきっかけにしてほしい。 【学術分野】国文・漢文学 【授業形態】ディシプリン型 フィールド型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード オリンピック、聖火リレー、名所図会、古典、都市、地図 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 火 4 現代民主主義の思想的問題 森 政稔 教養教育高度化機構 117 教室 31746 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法 | の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】民主主義とは何か、については高校の公民科教科書などで触れられ、一応は勉強 したことになっている。しかし、現代世界の政治で実際に民主主義がどのように作用しているのかを考える と、教科書的理解とはまるで異なることが生じているようである。このところ欧州での難民問題、排外主義 的ポピュリズムの台頭など、民主主義をめぐる困難な問題が相次ぎ、さらに日本と韓国、中国など東アジア の国々における対立が深まっており、民主主義がこれらの問題に対処できるかどうかが深刻に問われるよ うになった。本年はそれらと関係の深い現代民主主義の関わるテーマを3つ設定する。 1.近年のポピュリズムを中心とした民主主義の諸問題の検討。民主主義は危機が言われるなかで生き残れる かを考える。 2.ポスト資本主義:資本主義はこれまでどのように変質してきて、これからどのように変化するのかを、社 会の多様な側面(労働、地域、エコロジーなど)から考える。 【学術分野】社会・社会思想史 【授業形態】文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する 成績評価方法 授業のキーワード 成熟社会、資本主義、ポピュリズム、民主主義、多文化社会、経済発展と民主化 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス

UTAS を参照 河合 玲一郎 教養教育高度化機構 E42 教室 31848 火 4 【共通目標】 授業の目標・概要 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 UTAS を参照 【学術分野】UTAS を参照 【授業形態】UTAS を参照 成績評価方法 UTAS を参照 授業のキーワード UTAS を参照 教科書 UTAS を参照 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

31448 金 1 歴史としての東大紛争

鈴木 淳

文学部

119 教室

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

何が史料でどのように用いるべきなのか、背景や因果関係をどうとらえるかなどの歴史研究の手法と大学 とは何かという問題を意識しながら、実証的に報告し、建設的に批判し、レポートを書く手法を学ぶ。具体 的には1968~69年の東大紛争(主体的に参加した者にとっては「東大闘争」)を取り上げる。

東大紛争の発端は、医学部卒業生の無給インターン制度廃止を求める医学部生の運動である。 制度に代わるものとして厚生省が提案した登録医制度に対しても反対運動 が起こり、これをめぐって行わ れた学生処分に抗議する 医学部生の一部と他大学の活動家学生が 1968 年 6 月に第一次安田講堂占拠を行 う。大学当局は機動隊に出動を要請して講堂の封鎖を解除した。この機動隊導入に対して全学的な学生の怒 りが巻き起こり、7月には第二次安田講堂占拠に至る。安田講堂を「解放講堂」として自主管理し始めた学 生たちは自らを全学共闘会議(全共闘)と称した。10月にはすべての学部が無期限ストライキに入る。 場では第八本館(現八号館)等が全共闘によって封鎖された。社会における東京大学という存在および東大 生である自分自身に根本的な疑問を抱いた全共闘の学生は、大学当局との妥協を拒否し、1969年1月 18・ 19 日機動隊との安田講堂攻防戦に至った。同年の東大入試は中止される。一方で、日本共産党影響下の日本民主青年同盟(民青)を中心とする、「大学民主化」を目指す学生たちは、大学当局と交渉の末 1969 年 1 月10日に「確認書」を交わす。その後東大全共闘は全国の学園闘争との連携を強めたが、東大各学部では 順次ストライキが解除された。

以上の過程は、ベトナム戦争、中国の文化大革命、1960年・1970年の日米安保条約改定・延長といった国 際情勢を背景とする。そして、学内外の諸勢力、治安当局や管轄官庁、大学当局など様々な主体の意向が交 錯して、東大紛争は進行する。 諸主体の対立はしばしば暴力に発展し、 暴力的な状況は男女学生の性別役割 分担を強化することもあった。こうした事情から、東大紛争・闘争の過程に関して書かれる/語られる内容 は、書く/語る主体や目的・時期によって大きく異なる。本演習では、東大紛争に関する様々なビラ・当局 文書・新聞記事・回顧録等について、史料としての性格を意識しながら内容を読み比べ、何らかの論点(「問 い」)を見出し、根拠に基づいて既存の歴史叙述を批判し、自らの発見を実証的に叙述することを目指す。 歴史は客観的に描くことが求められるが、担当教員の専門である日本史、特に近現代史を、日本で暮らしてきた人が客観的に描くことは困難である。しかし、それを実証的に描くことで解釈を異にする人々との具体的な対話の意義を高めることは可能であり、それが学問の力である。諸君に身近となる東大を舞台とし、 大学のありかたや存在意義を争点として繰り広げられた紛争の歴史も第三者的に眺めることは困難かもし れない。しかし、そうであるが故に史料に基づいて実証的に論じることの意義が理解しやすく、また本学で 学ぶことの意味を考える手がかりも得られるのではないかと期待する。

【学術分野】歴史学

【授業形態】ディシプリン型

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード

史料、東大紛争、東大闘争、学生運動、新左翼(ニューレフト)、安田講堂

教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書

第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

51

31452 史料/資料から読む歴史 河野 正 社会科学研究所 115 教室 金 1 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 歴史学における重要な 2 本の柱は、①先行研究の整理と②史料読解である。本ゼミナールでは双方を通じ て歴史学の研究手法を初歩的に理解することを目指す。 ①については諸分野の近年の研究成果について検討をおこなう。ここでは、参加者自身が自分の問題関心の もとに文献を自ら探してくることも想定している。②については歴史学研究会編『世界史史料』(岩波書店、 2006~2013) 所収の史料や教員自身が翻訳した史料など、日本語で読む事ができる史料について読解をおこ 参加者に対しては①か②について発表を義務付ける。そのため本授業は上で挙げた目標のほか、レジュメ作 成や発表方法を身につけることも目標とする。 【学術分野】歴史学 【授業形態】ディシプリン型・文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード 史料読解、文献購読、一次史料 授業中に指示をする。/Will specify at class time 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 古典をいかに読むのか―井筒俊彦の 31768 金 1 三村 太郎 教養教育高度化機構 120 教室 読み方を手がかりに 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 大学での学習では、文献を批判的に読み解いたうえで問いを立てることがたえず求められる。とはいえ、文 献の批判的な読解はみなさんにとってなじみのないものかもしれない。そこで本授業では、様々な文明圏に おいて残されてきた古典を精密に読み解いてきた先人たちの読み方を学ぶことで、文献の批判的な読解の 手がかりを得ることを目指す。具体的には、稀代の古典の読み手である井筒俊彦がイスラームの聖典『クル アーン』を精密に読み解いた『コーランを読む』および『クルアーンにおける神と人間』を読みたい。 【学術分野】哲学・科学史 【授業形態】文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 井筒俊彦、イスラーム、古典読解 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

社会史の世界 土屋 和代 教養教育高度化機構 117 教室 31769 金 1 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 授業の前半では、アメリカ近現代史・西洋史を中心に、社会史が登場した背景、その射程、限界と可能性 について基本文献を読みながら学ぶ。後半では、自らが設定した研究課題に関する文献を読み、批評する 力、先行研究の整理の仕方、論の組み立て方、史料収集・解析の方法、注や参考文献の書き方を学ぶことで、 論文を書くための方法を修得する。 【学術分野】歴史学 【授業形態】文献批評型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 歴史学、人種・エスニシティ、階級、ジェンダー、史料、問いの設定 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 自由の境界と国家~歴史と社会科学 伊藤 武 教養教育高度化機構 31770 金 1 118 教室 からの探究 【共通目標】 授業の目標・概要 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む 「問い | が学術的・社会的に意義のある 「問い | であることを主張する必要性を理解する 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 現代の世界は、ポピュリズムの伸長、民主主義の後退(backsliding)、移民難民問題をめぐる亀裂の高まりなど、さまざまな危機に見舞われていると言われます。その背景には、経済的社会的に反映した先進国では当たり前に確立されているとされた「自由」をめぐるパラドクスが存在します。自由の前提となる安全(security)を達成するには、強力な国家(「リヴァイアサン」)が不可欠です。しかし、国家が強くなり政治 権力の専横や独裁国家が生じても、国家が弱くなり無政府状態(アナーキー)に陥っても、自由と安全は実 現しません。自由の確立には、国家と社会、個人の微妙な対抗関係とバランスが必要なのです。 この授業では、最近刊行された定評ある国家形成と統治の質に関する本を手がかりに、そのようなパラド クスの問題と原因を「読み」解き、課題や解決策を「論じ」合い、考え抜いた議論と分析を「書く」ことを 目指します。最終的には、皆さん自身が選んだテーマについて、しっかりとした書評(論文)を書くことを 目標とします。 -見敷居の高い専門書の理解は難しいですが、クラスでの議論に加えて、TA や担当教員が事前の面談や 事後の添削・コメントなどを通じて丁寧に指導します。 歴史から政治学・経済学など社会科学など多様な学問分野、ヨーロッパからアジア、アフリカ、アメリカ など多様な地域を横断する、重要な意義のあるテーマを扱います。科類に囚われず、幅広い関心を持つ方を 歓迎します 【学術分野】法・政治 (歴史・社会・経済とも関連する境界領域を扱います。 文理や科類を問わず関心のある方を歓迎します) 【授業形態】ディシプリン型 文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード 自由、自由主義、国家、社会、セキュリティー、集合行為 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 書名 『自由の命運――国家、社会、そして狭い回廊』上・下 著者 (訳者) ダロン・アセモグル、ジェイムズ・A・ロビンソン(櫻井祐子・訳) 出版社 早川書房 9784152099105、9784152099112 ISBN 各自大学生協などで購入して持参してください。 その他 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

グループ5 1年 文一二(13,21,24-25)文三(5,8,20)

グループ 5 1年 文一二(13,21,24-25)文三(5,8,20)							
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室		
31748	水 2	駒場の歴史を歩く	田中 創	教養教育高度化機構	534 教室		

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

駒場キャンパス内外にある歴史的モニュメントや遺構をきっかけとして、東京大学駒場キャンパスとその前身である旧制第一高等学校の歴史および渋谷・目黒・世田谷といった周辺地域の歴史を調べる。最終レポ ートでは、単に細かな地域史の調査で終わるのではなく、日本や世界の歴史のなかに駒場および周辺地域の 歴史を位置づけることを目指す。

授業内の報告発表の準備を通じて、過去の研究文献を探し出し、自分なりの関心・問題を設定するための 基礎的な方法を身につける。 また、 レジュメとパワーポイントを使った口頭発表を通じて、 自分の意見の伝 え方を訓練するほか、参考文献・脚注を伴う最終レポートの作成を通じて、学術論文の基本的な要素・作法 を学ぶことを目指す。

【学術分野】歴史学

【授業形態】ディシプリン型、文献批評型

出席、報告および議論への貢献等の平常点と最終レポートで判断する。 成績評価方法

授業のキーワード 歷史、日本史、第一高等学校(一高)、駒場、東京大学、教育史

教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

31750	水 2	東京の産業地区の変化と課題	鎌倉 夏来	教養教育高度化機構	K302
授業の目標	・概要	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前	前にまず「問い」自体	を自分で見つける必要があ	るという点を理
		解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の	授業を通じて「問い」	の立て方、「理論」につい	ての考え方、「研
		九月伝」の設定の江月、子州貢料の収集の			

里 开 クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

東京の産業地区の中から、調査対象地区(4班で4地区を想定)を選定する。調査方法や既存研究につい ての講義、地図の分析、統計分析、フィールドワークについての各班の報告・討論、それらをふまえた夏休 みの調査、小論文の作成を行う。

【学術分野】人文地理学

【授業形態】フィールド型

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法

授業のキーワード 人文地理学、産業集積

教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書

第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

初年次ゼミナール文科 哲学対話 石原 孝二 31749 水 2 教養教育高度化機構 K201 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標】 哲学はソクラテスの対話実践とともに始まったものであり、哲学とは対話そのものだと考えることができ る。この授業では、哲学対話の特徴を学び、様々なテーマに関して哲学対話の実践を行うことにより、哲学 的な思考の基礎を身に着けることを目標としている。 哲学対話は「ディベート」ではない。相手を議論によって打ち負かすことを目的とするものではない。 た何らかの合意を得ることを目的とするものでもない。対話そのものが目的であり、そこから何が得られる のかは、対話に参加する参加者一人一人に委ねられている。共有できる前提があればそこから出発し、何を 言うことができるのかを共に探っていく。また前提が共有できなくても良い。前提が異なることを明確化す るとともに、互いに受け入れられない前提からどのような帰結が導かれるのかを確認することこそが対話 の重要なプロセスである。対話の空間を共有する参加者が、自分たちがもっている前提を出し合い、その前 提からどのようなことが言えるのかを探っていくことになる。 この授業では、哲学対話を次のような特徴を持つものとして考えている。 1. 自分の意見と他者の意見の共通点と違いを明確化する。 2. 多様な意見を尊重し、合意を目指さない。 3. その時々の対話において、利用可能な情報は何か、その情報をもとに何を議論することができるのかを 確認する。 4. 権威や根拠のない前提に頼らない 5. 前提を明確化し、論理的に可能な帰結を導き出す。 6. 論理的に導出することが不可能な帰結を放棄することが難しい場合には、なぜそれを放棄することがで きないのかを明確化する。

哲学対話のテーマとしては、抽象的なものと具体的なもの両方を扱う。参加者の希望を聞きながら考えて いくが、例えば以下のようなテーマが考えられる。

(抽象的なテーマ) 生きているとはどのような状態なのか/言葉とは何か/意識とは何か/意思決定とは 何か

(具体的なテーマ)人工知能は知性を再現していると言えるのか/麻薬はなぜ規制されるべきなのだろう か/民主主義は良い政治制度なのだろうか/地球温暖化とはどのような事態なのか/グローバリズムとは 何か/人間が動物を利用することは正当化されるか/人はなぜ人を助けるのか

授業では、小グループに分かれて各テーマについてディスカッションを行う

適宜、対話の参考になるような哲学者の議論や関連する分野の資料・情報を紹介する。

【学術分野】哲学·科学史

【授業形態】ディシプリン型 文献批評型

成績評価方法 授業のキーワード 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 哲学対話

教科書

教科書は使用しない。/Will not use textbook

第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

思想としての東京 2020 31751 水 2 桑田 光平 教養教育高度化機構 K301 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研

究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防

止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

この授業では、オリンピックの開催される 2020 年現在の東京という都市をめぐるさまざまな表象 (representation) をリサーチし、私たちが生きる現在の東京がどのような都市であるのか、そして、東京は どのような思想的ポテンシャルを持っているのかを考える。そのために導きとして、磯田光一『思想として の東京』を講読し、その後、磯田の手法を参考にしつつ、グループに分かれて、各グループが東京に関する さまざまな表象(映画、文学、サブカルチャー、音楽、漫画等)をリサーチし、分析を行う。調査・分析の 結果を討論しつつ、各自が小論文の形でリサーチの結果をまとめる。

【学術分野】表象文化論

【授業形態】フィールド型 文献批評型

成績評価方法 授業のキーワード 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

東京、都市表象、カルチュラル・スタディーズ

授業中に指示をする。/Will specify at class time

教科書

第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

31752	水 2	人工社会を作ろう:マルチエージェ ント・シミュレーション入門	阪本 拓人	教養教育高度化機構	E25 教室
授業の目標	・概要	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集のイクスキルに触れ、それらを習得する。また、 であることを主張する必要性を理解する。	授業を通じて「問い」 壮方、議論の根拠の導	の立て方、「理論」につい き方、論述の組み立て方な	ての考え方、「研 :どのアカデミッ
		「問い」の「答え」を導くに当たって必要止を含む)、議論と根拠の関係などといったを、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】			
		マルチエージェント・シミュレーション (M て、社会現象の理解を目指す授業である。 の人工的な「生き物」を配置して相互作用で 観察するシミュレーション手法である。個いは国家間の戦争や平和といった様々な現 にする。	MAS は、コンピュー をさせることで、いか 人や集団の間のネット	タの中に「エージェント」 なる集合的な秩序や動態が ワークの形成、市場での競	と呼ばれる多数 生成されるかを 急争や独占、ある
		この授業では、まず、既製のソフトウェア その上で、各々の学生が関心を持つ社会現 化する作業を行ってもらう。そして、コン て、当該の社会現象に対し、理解を深めた なお、本授業は文科系の初学者を想定して 前提にしていない。	象を、関連する先行研 ピュータの中に作られ り新たな知見を得たり	ff究も踏まえながら、MAS ↓た各自の「人工社会」の観)してもらう。	を使ってモデル 見察・分析を通じ
成績評価方		【学術分野】社会科学全般 【授業形態】実習型 出席、実習への取り組み等の平常点と小論 学期末の小論文には、各自が作成した MAS マルチエージェント・シミュレーション、	Sモデルも添付しても		
教科書がイダンス		次の教科書を使用する。/Will use the follor書名 人工社会構築指南著者(訳者) 山影進 出版社 書籍工房早山 ISBN 978-4904701034 第1回授業日に行う。ガイダンス教室につ	wing textbook		
31449	金 3	宗教文化研究の多様なアプローチと 書評セッション	西村 明	文学部	114 教室
授業の目標	・概要	【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集のイクスキルに触れ、それらを習得する。また、であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要止を含む)、議論と根拠の関係などといったを、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】	授業を通じて「問い」 仕方、議論の根拠の導 自分が取り組む「問 要な、先行研究の理解 とより基礎的な作法お	の立て方、「理論」につい き方、論述の組み立て方ない」が学術的・社会的に意 とオリジナリティの主張の よび図書館などの研究リソ	ての考え方、「研さのアカデミッとのアカデミッ義のある「問い」の方法(剽窃の防ニスの利用方法
成績評価方 授業のキー 教科書 ガイダンス	ワード	宗教文化を研究する際、哲学や思想研究、 分野からの複合的なアプローチが駆使され うしたアプローチの多様性に触れ、各自書 【学術分野】哲学・科学史 【授業形態】文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点 宗教学、宗教研究、宗教文化、文献講読、 授業中に指示をする。/ Will specify at class 第1回授業日に行う。ガイダンス教室につ	ている。この演習では評という形式で小論なと小論文とで判断する書評、論文執筆 time	、受講生と最新の研究論文 文を作成することを目指す。 る。	を読みながらそ

現代中国政治 法学部 31453 金 3 高原 明生 115 教室 ――如何に真実に迫るか―― 【共通目標】 授業の目標・概要 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】真実を知りたい。しかし、わからない。それは情報が不足しているからか。それ とも、そもそも真実が一つではないからなのか。世の中はわからないことだらけだ。その中で、どうすれば 真実に迫り、様々な社会事象を説明し、人を納得させることができるのか。学者たちは、どのように説明し てきたのか。批判的に検討してみよう。そして、自分で説明してみよう。何を説明すればよいのか? それを考える力を養わねば。頭を絞ろう。面白くかつ大事な問いを考え出すこと。そしてさらに頭を絞って、明快な議論を展開し、読者を答えに導くこと。それがこの授業の目標だ。テーマは、現代中国政治。 【学術分野】政治、国際関係 【授業形態】ディシプリン型 フィールド型 文献批評型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 授業のキーワード 政治学、地域研究、現代中国、先行研究 授業中に指示をする。/Will specify at class time 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 近世東アジア思想入門 金 3 高山 大毅 教養教育高度化機構 116 教室 31771 ―朱熹「大学章句序」を読む―

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

朱熹「大学章句序」を室鳩巣『大学章句新疏』に従い、熟読玩味することで、朱子学の思考の型を理解することを目指します(漢文テクストを漢文の注で読みます)。高校の教科書などの朱子学の説明からは、古めかしい抑圧的な思想といった印象しか持てないかもしれません。しかし、朱熹らの著作を実際に読んでみると、朱子学が、数百年にわたって東アジアの多くの知識人を魅了するだけの力を持った強靭な思想であることが見えてきます。朱子学の議論は、現代日本社会の一般的な思考とかけ離れていることも少なくないので、この授業を通じて、未知の秩序を有する不思議な異世界に迷い込むような経験ができるのではないかと思います。

返り点・送り仮名のついた江戸時代の版本を用いて、中国語による直読ではなく、訓読で読んでいきます。 漢文で書かれた注釈にしたがい、漢文を訳読してもらい、各回の報告担当者の解釈の是非を議論します。注 釈者の問題関心を内在的に把握できているかが問われます。

朱子学は、近世東アジアの知識人の共通の教養となっているので、思想だけでなく、文学や歴史に関心のある人にとっても得る所は大きいでしょう。

【学術分野】国文・漢文学

【授業形態】文献批評型

成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード 思想史、朱子学、日本思想、中国思想

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

移民社会を考える 伊東 直美 教養教育高度化機構 31772 金 3 K303 授業の目標・概要 【この授業の目標・概要】 グローバル化が進む一方で、世界各地で移民・難民排斥運動、外国人嫌いの風潮が高まり、極右政党が台頭 しつつある。もはや我々の社会を考える際に、移民の存在を無視することは出来ない。 移民と受け入れ社会での関係構築は古く、そして新しい問題である。その歴史的な連関性を検証すること で、現代における我々の移民との共生の可能性を考察することを授業の目標とする。その際、国籍、シティ ズンシップの基本的な枠組みを理解し、これまでなされた研究を踏まえ、批判する方法を学ぶ中で、自身の テーマと「問い」を見出し、小論文を作成する。 【学術分野】法·政治 社会·社会思想史 国際関係 歷史学 【授業形態】ディシプリン型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 国籍、シティズンシップ、ナショナリズム、右翼、難民 授業中に指示をする。 / Will specify at class time 授業のキーワード 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

 31773
 金 3
 因果関係を明確にする
 鍾 非
 教養教育高度化機構
 118 教室

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミックスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法を、第2回目の合同授業で学ぶ。

数学的因果関係(関数 or 函数)かはともかく、「因果関係こそ、あらゆる学問の出発点」という認識には誰しも同意せざるを得まい。歴史家でさえ、見た目は混沌とした史実を理路整然とした手法で分類・再分類する必要がある。その際、信憑性の高い、具体的な因果関係が動かぬ決め手。本講義は「因果関係を明確にする」というキャッチフレーズをかかげて、基礎練習を体に叩き込ませる。初年次ゼミナールを「料理教室」に喩えてみよう。フレンチ・イタリアン・中華・トルコのような具体的な「教室名」は決めず、「フライパンの振り方」「包丁の握り方」「野菜掃除の仕方」といった料理教室での ABC と一脈通じる学問の基礎の基礎に注目したい。一例を挙げよう。「因果関係の強さ」「相関係数の大きさ」「最小二乗法」の求め方がちんぷんがと、将来、論文は書けそうもない。そこで、表計算ソフト Excel での「関数」という機能(統計を含む)に着目し、データを示す散布図の作成を皮切りに、回帰線の切片と傾き(最小二乗法)の求め方を明示。「政治」「社会」「経済」「法律」「哲学」(社会科学)の全貌やその一部を鮮やかに浮き彫りするための「プロの料理人」としての技の基本の基本(サッカーで言えば、lifting)を、しっかり身に付けさせたい。なお、「Lifting の回数」(いわば、小論文の技術的要求)は下記の通り。小論文(テーマは自由)には、「回帰線つきの散布図」(しかも、散布図のなかで、最小二乗法による計算結果である y=a+bx や決定係数などを明記すること)が必須。

★ITC-LMS(Information Technology Center - Learning Management System)を頻繁に check(文章特別講座アリ)。

○新聞を熟読玩味(小論文のネタ作りに最適)。

【この授業の目標・概要】

【学術分野】法·政治 経済·統計 社会·社会思想史 国際関係 歷史学 国文·漢文学 文化人類学 哲学·科学史 心理·教育学 人文地理学

【授業形態】ディシプリン型 フィールド型 文献批評型

成績評価方法

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード

基本の基本=プロの技

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

グループ6 1年 文一二(9,18,20,23)文三(6,17,19)

	グループ 6 1年 文一二(9,18,20,23)文三(6,17,19)						
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室		
31778	水 3	デジタル版『渋沢栄一伝記資料』で 歴史学の扉を開いてみる	山口 輝臣	教養教育高度化機構	K303		

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

2024年から1万円札の顔となる渋沢栄一は、その生涯に関わる史料の重要部分がデジタル化されていると いう点で、希有な存在である。この授業の目標は、そのデジタル版『渋沢栄一伝記資料』を活用することにより、歴史学の作法を体験することにある。それにより、本を読んでお勉強する歴史から、史料を読んで考 える歴史学の扉を開こうという試みである

具体的には、デジタル版『渋沢栄一伝記資料』に触れることからはじめ、ほかの史料なども照合していく ことで、受講生がそれぞれの研究課題を導く。次いで先行研究を探索して参考にしながら自らの議論を構築 し、報告する。さらにその際に受けた批評に応えつつ、小論文へとまとめる。

渋沢栄一は実業家として知られるが、慈善活動などを通じて、経済以外のさまざまな領域にも関わった。 官僚の経験もあり、論語に一家言あるなど、多彩な人物である。あなたの関心事が渋沢栄一を介してどう歴 史研究と切り結ぶのか、この授業で実践してみようではありませんか。

【学術分野】歴史学

【授業形態】ディシプリン型

成績評価方法

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード 歴史学、史料、先行研究、渋沢栄-

教科書 ガイダンス

教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

31779	水 3	北輝次郎『国体論及び純正社会	岡本 拓司	教養教育高度化機構	517 教室
		主義』を読んで議論して書く	岡本 知刊		

授業の目標・概要

【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む 「問い | が学術的・社会的に意義のある 「問い | であることを主張する必要性を理解する

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

【学術分野】法・政治 経済・統計 社会・社会思想史 国際関係 歴史学 国文・漢文学 文化人類学 哲学・ 科学史 心理・教育学 人文地理学

【授業形態】ディシプリン型 フィールド型 文献批評型

成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

第3回にこのシラバスを印刷して持参すること。持参しない場合には成績評価に一定の考慮を加える。

授業のキーワード 教科書

北一輝、天皇制、進化論、天皇機関説

プリントを配布する。/Will distribute handouts 書名 『北一輝思想集成』

著者 (訳者) 北一輝

書肆心水 出版社

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

もう受けることのない高校の漢文の 教養教育高度化機構 31780 水 3 谷口 洋 158 教室 授業を、もう一度だけ思い出してみよう 【共通目標】 授業の目標・概要 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】入学おめでとう。新たな学びに胸ふくらませているときに、もうおさらばしたは ずの高校の授業、それも漢文のを思い出してみようだなんて、なんと無粋なと思うだろうが、それは大学で 学ぶ姿勢と技法を身につけるこの授業の、一つの出発点を示したにすぎない。別に漢文の授業をするわけで はないので、安心して選択してもらいたい。 高校には国語という教科があり、大学には文学部というところがある。両者はなんとなく似ているようであ り、文学部(あるいは教養学部の関連領域)には、高校で国語が好きだったという理由で進学する人も多い ようだ。結構である。ただ、大学まで来て高校と同じことをするのも芸のない話だし、一方で進学してから 「思ってたのと違う」というようなことは、できれば避けたい。 まずは、高校でほとんど誰もが習ったであろう『史記』の「四面楚歌」の話を思い出してみよう。それにつ いて文学研究者が書いた論文を読みながら、研究という行為を追体験することが第一の目標である。そし て、そこから得た問題について自ら資料を集めて考え―それは既に研究に一歩足を踏み入れたことになる ―文章にまとめることが、第二の目標になる。さらに、それを受講者相互で批評することを行いたい。教員 に教えられるのでなく、自ら学ぶこと、相互に学び合うことを、態度として身につけてほしいと願うから それが第三の、究極の目標である。 【学術分野】国文・漢文学 【授業形態】ディシプリン型と文献批評型の折衷。学生各自のテーマの立て方によって、がっつり漢文に取 り組むことも、ひろく文学、言語、漢文教育などの諸問題に重点を置いて考えることも可能である。 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード 漢文、文学、言語、教育、中国、日本 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 授業ではじめに使う資料はこちらで用意するので、高校の教科書を処分してしまった人も その他 履修には全く問題ない。 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 文学テクスト分析 谷本 道昭 水 3 教養教育高度化機構 31781 K301 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 小説や詩などの文学テクストを対象とする文章はつまるところ感想文にすぎない、と揶揄されることがし ばしばある。そういった声に対して、感想文で何が悪い、と開き直ることもできるだろうが、大学生たるも の、自身の感想を大切にしながら、文学テクストを学術的に論じる能力を養い、揶揄、批判、無理解をはね 返す強さを身につけて欲しいとも思う。 さて、文学テクストを学術的に論じる(書く)ためには、テクストを学術的に分析する(読む)ことがで きなくてはならない。そこで本演習では、文学テクストを分析し論じるための基本的な技法やアプローチ方 法を学び、感想文を脱却した文学論を執筆する力を実践的に習得していくことを目標としたい。テクストと しては日本近代文学、担当教員が専門とするフランス近現代文学、そのほか世界の文学から、だれもが知る ような有名作品、重要作品を取り上げる予定。履修者には、課題となるテクストを読むだけでなく、グルー プワーク、調査、報告、発表などを通じて、積極的に授業に参加する姿勢を期待したい。 【学術分野】文学 【授業形態】ディシプリン型・文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 文学 テクスト分析 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

社会科学入門 西村 弓 教養教育高度化機構 31782 水 3 518 教室 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 社会科学分野における、課題設定、プレゼンテーション、討論、論文執筆といった学問の基本的な技法の基 礎を修得すること。 【学術分野】法・政治 【授業形態】ディシプリン型 文献批評型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 社会科学入門、法学入門、論文作成、国際法 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 持続可能な開発について考える 31783 水 3 岡田 晃枝 教養教育高度化機構 **KALS** 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 この授業では、国際社会が直面している地球規模問題群のうち、国連の「我々の世界を変革する:持続可能 な開発のための 2030 アジェンダ」に指定されたものについて、現状やこれまで(SDGs 制定以前含む)の 国際的取組、その思想的背景など多角的に検討し、各自がこれらの問題に対するさまざまなアクターの取組 について「問題」を設定して「検証」を行い、それを論文にまとめる。国際関係論や国際機構論、開発に関 する学術論文だけでなく、国際機関の文書や報告書、資料の探し方や使い方についても学ぶことになる。ま た、文献から学ぶだけでなく、実務家を交えての議論も予定している。 【学術分野】国際関係 【授業形態】ディシプリン+ケーススタディ型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 授業のキーワード グローバル・ゴールズ、持続可能な開発のための 2030 アジェンダ、地球規模問題群、SDGs、MDGs、国際 機関 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

31451	金 4	片想い? 相思相愛? それとも?: 「日本」と「イスラーム世界」の 相互認識の歴史	森本 一夫	東洋文化研究所	114 教室
授業の目標・概要 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研					

究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

日本人とイスラーム世界の人びとは歴史を通じて互いをどのように認識してきたのだろう。それぞれの 「場」(時代、地域、...) における認識のあり方の背景にはどのような状況・文脈の違いを見通すことがで きるのだろう(多分、受講生諸君の関心を最も惹くのは、ともに「西洋」と対峙しないといけなかった近代 以降の状況か?)。さらに、そもそもの問題として、「日本人」や「イスラーム世界の人びと」などと一口に 言っても、それは一体誰を指しているのだろう。この講義では、「いかにも人文学的な」こうした問題系の 中から自分が関心をもったテーマに関して小論文を書く過程で、高校までの「習う」勉強から、大学での成 長のためにまずは覚えたい「考え、組み立てる」勉強への脱皮を目指す。

【学術分野】歴史学

【授業形態】ディシプリン型・文献批評型

成績評価方法

出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

授業のキーワード

日本、イスラーム世界、他者認識、歴史、アジア 授業中に指示をする。/Will specify at class time

教科書 ガイダンス

第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

		様々な社会問題を考えるにあたり,			
31774	金 4	その問題を解決するためには何を	竹野 太三	教養教育高度化機構	K402
		考えるべきか「考える」.			

授業の目標・概要 【共通目標】

大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する

「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。

【この授業の目標・概要】

高校までの学びの大きな目的の一つは,正しい知識を身につけるということであったと思います.大学で は、そうして得た知識をどのように活用するか、という視点も踏まえて学ぶことになると思います.様々な 科目がある中で、初年次ゼミは、大学での学びを実戦するために必要なことを経験することを目的としてい ると思います. この目的のために、当初年次ゼミでは、履修者の皆さんに、関心を持つトピックを選んでい ただき、学期を通じてこの調査を行い、成果をお互いに発表し合う中で、学問的な交流を実践していただく ことを予定しています. なお, 初年次ゼミのクラスの中には, 担当教員の専門に近い分野といったトピックを限定するものもありますが, 当ゼミではそうではありませんので, ご注意ください. また, トピックを限 定しませんので、文 I、文 II 文 III のどなたにも履修いただけます. 小論文の執筆に加えて、幾つかの課題 もあります

【学術分野】法・政治 経済・統計 社会・社会思想史 国際関係 歴史学 国文・漢文学 文化人類学 哲学・ 科学史 心理・教育学 人文地理学

【授業形態】ディシプリン型

成績評価方法 授業のキーワード 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。

教科書

論文の書き方、発表の仕方、議論の仕方

教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス

第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

祖父母の体験に学ぶ昭和史 長谷川 まゆ帆 31775 教養教育高度化機構 117 教室 金 4 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法」の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 祖父母または曾祖父など、少し前の世代あるいはそれに準ずる人から体験を聞きながら、自分の知らない 過去(昭和史)について学ぶ。彼(女)らの人生に昭和の時代や社会がいかなる影を落としているか、どの ように影響しているかを探ってみる。時代背景をよく理解するとともに、2011年の震災や原発問題を祖父 母がどのように感じ考え受け止めていたかを戦争体験とも比較しながら聞いてみるのもよし。こうした聞 き取り調査を通じて、履修者自身が自分の知りえなかった過去に出逢い、疑問や謎、違和感や驚きをそこか ら見つけ出していくとともに、それについてさらに文献を使って調べ、自分なりの答えを導きだしていく。 またその自分の考えたことを他者に伝え、それについての討論を経て自身の認識を広げていく。他の人に自 分の考えを過不足なく伝えたり、対話していく技法を学ぶこともねらいの一つである。 【学術分野】歴史学 【授業形態】フィールド型+ディシプリン型 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 成績評価方法 授業のキーワード 昭和史、聞き取り、戦争、記憶、体験、過去 授業中に指示をする。 / Will specify at class time 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス ジェンダーと科学 教養教育高度化機構 E25 教室 金 4 四本 裕子 31776 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法 | の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 性には、生物学的に定義されるもの(sex)と、社会的・心理的に定義されるもの(gender)がある。この演習では、sex と gender を科学的に理解する。ヒト脳や身体の機能や構造に性差があるのかを検証し、現代社 会におけるバイアスを、社会学的・心理学的視点から議論する。「文系」「理系」の枠を超えた「社会と人間 の科学的理解」を目指す。 【学術分野】心理・教育学 【授業形態】ディシプリン型 成績評価方法 出席、報告および議論への貢献等の平常点と小論文とで判断する。 sex と gender、性的マイノリティ、心理学、脳科学、バイアス 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 金 4 Excel によるデータ分析入門 倉田 博史 教養教育高度化機構 E35 教室 31777 授業の目標・概要 【共通目標】 大学では「問い」の「答え」を探求する前にまず「問い」自体を自分で見つける必要があるという点を理 解し、学ぶ姿勢の根本的な転換を目指す。授業を通じて「問い」の立て方、「理論」についての考え方、「研 究方法 | の設定の仕方、学術資料の収集の仕方、議論の根拠の導き方、論述の組み立て方などのアカデミッ クスキルに触れ、それらを習得する。また、自分が取り組む「問い」が学術的・社会的に意義のある「問い」 であることを主張する必要性を理解する。 「問い」の「答え」を導くに当たって必要な、先行研究の理解とオリジナリティの主張の方法(剽窃の防 止を含む)、議論と根拠の関係などといったより基礎的な作法および図書館などの研究リソースの利用方法 を、第2回目の合同授業で学ぶ。 【この授業の目標・概要】 教科書の輪読、Excel によるデータ分析の実習、教員による講義、各人の個人研究を通して、データ分析の 基礎事項を学び、統計資料からより効率的に情報を抽出するための知識と技能を身に着けることを目指す。 【学術分野】 経済・統計 【授業形態】ディシプリン型 出席、輪読、実習の成果、期末の小論文とで判断する。 期末の小論文は、自分の興味のあるデータの分析 成績評価方法 や、ある特定の統計的な概念について勉強した成果をまとめたもの、あるいは教員の側で用意したデータを 分析した結果をまとめたものなどとなる。 授業のキーワード Excel、平均・分散・標準偏差、共分散・相関係数、回帰分析、最小2乗法、推定・検定 教科書 授業中に指示をする。/Will specify at class time 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

初年次ゼミナール理科の履修について

初年次ゼミナール理科はクラス指定の必修科目である。クラスごとに指定されたグループ(各 2 曜限)に開講されている授業のうち、1 授業を希望選択して受講する。希望が集中した場合は抽選となる。本冊子とともに配布されたプリント「【重要】履修登録について」の該当箇所にしたがって、登録期間内に必ず履修希望登録を行うこと。

第 1 回授業時には合同のガイダンスを行う。個別授業の教室とは別の教室で行われるので注意すること。<u>各授業の開講される曜限で授業担当教員が授業紹介を行う。</u>指定されたグループに割り当てられた 2 曜限のうち、履修を検討している授業の曜限のガイダンスに出席すること。

第 2 回授業時には、合同でサイエンティフィック・スキルに関する導入の共通講義を行う。教室は第 1 回のガイダンスと同様である。指定されたグループに割り当てられた 2 曜限のうちのどちらかで授業を受けること。

第3回目からは、少人数に分かれたクラスで授業が行われる。UTASにて決定された履修授業と教室を確認すること。

この授業の教科書として『科学の技法―東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト―』がある。必要に応じて購入し、 プレゼンテーション準備やレポート・論文執筆の際に参照すること。

また、初年次ゼミナール理科のウェブサイト FYS portal (http://fye.c.u-tokyo.ac.jp/) にてオンライン教材や教務情報、機材使用法等の情報を提供するので活用してほしい。また、ITC-LMS の初年次ゼミナール理科共通エリアで教材やお知らせを掲載することもある。

この授業に関する授業外サポートとして、21 KOMCEE West 地下のスペースでラーニングコモンズを開室し、アカデミックスキルに関する講習会や TA よる学習相談、自習機材の貸し出しを行う。開室時間等は FYS portal や UTAS 上で告知する。

グループ名	開講曜限	対象クラス
グループ1	月4.水4	1年 理一(1-6,10,16,18-19)理二三(4,7)
グループ 2	火1・木2	1年 理一(9,12,14,20,39)理二三(6,8,15,20)
グループ3	火3・木3	1年 理一(7-8,11,13,15,17)理二三(9-10,14,19)
グループ 4	火 4・金 1	1年 理一(23,26,28-29,33,36-37)理二三(12,16,24)
グループ 5	水 2・金 3	1年 理一(21,25,27,30-32)理二三(1-3,5,11,13,21)
グループ 6	水 3・金 4	1年 理一(22,24,34-35,38)理二三(17-18,22-23)

第1回・第2回合同授業教室: UTAS, FYS portal で告知します

初年次ゼミナール理科

グループ1	グループ1 1年 理一(1-6,10,16,18-19)理二三(4,7)						
	グループ 1 1年 理一(1-6,10,16,18-19)理二三(4,7)						
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室		
31460	月 4	翼・空気の流れ・数値シミュレーション	今村 太郎	工学部	E25 教室		
成績評価方 授業のキー 教科書	授業の目標・概要 本講義の目標は以下の3点です。 ①航空機の翼型周りの流体解析を通じて、流体力学について学ぶと共に、航空機の空力設計を体験してもらいます。 ②最先端の数値流体力学コード(拙研究室にて現在進行形で開発中!)を利用方法を学びます。計算機/ソフトウエアの利用方法やデータ可視化/データ分析方法についても学びます。 ③ 2つの課題に対して、個人/グループでのアプローチを行ってもらいます。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 教科書 授業のタイプ(「問題発見・解決型」)、総合工学、流体力学、航空機設計、授業のキーワード3、授業のキーワード4次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト著者(訳者)東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。						
31461	月 4	バーチャルリアリティ入門	檜山 敦	工学部	515 教室		
授業の目標成績に対している。 対している おいまい がいい がいい がいい がいい がいい がいい がいい がいい がいい	法	インタラクティブなバーチャルリアリティ体験を初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価しワークショップ、情報工学、バーチャルリアリラ教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室についてに	ンます。 ティ、3D モデル、音声の加				
31462	月 4	化学工学を理解して、地球温暖化に挑む	脇原 徹	工学部	E35 教室		
授業の目標	· 概要	「持続可能な社会」を実現するためには地球温暖既に地球温暖化による影響は各所に見られるよう排出量は増え続けているのが現状である。危機的特にサイエンス&テクノロジーの役割は大きい。らう。 化学システム工学とは、化学を基盤に、地球、社学問である。現実を踏まえた幅広い視野から対象題解決への具体的なビジョンを示す可能性をもっての授業を通じて、地球温暖化は食い止めるこ1年生の少人数クラスでの議論を通して、正解がある学生を歓迎したい。	5 になってきたが、依然とり状況にあるといっても過時に、"化学システム工学生会、環境、安全など幅広いなをシステマチックに深くすっている。 とが可能である、というこ	して CO2 をはじめとする言ではない。この問題にごがキーであり、本授業で い視野からシステマチック で求する。このアプローデ	取り組むためには、ではこれを学んでも クに対象をとらえる チこそが、現実の問		
成績評価方 授業のキー 教科書 ガイダンス	ワード	初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価し地球温暖化、問題発見・解決型、エネルギー・教科書は使用しない。/Will not use textbook第1回授業日に行う。ガイダンス教室については	環境、持続可能な社会、化学	学工学			
31510	月 4	植物の多様性とその利用	伊藤 純一	農学部	K501		
授業の目標成績評価方の表別である。	法	私達の身の回りには多様な形や性質、成長様式をについて深く考える機会は少ない。本講義では見用されているのかを理解することによって、植物性が生み出されるメカニズムについての文献調査際に植物を栽培することによって環境との相互作要になるかを、バイオテクノロジーの基本技術を出席、授業態度、レポート等生物多様性、遺伝資源、植物遺伝学、植物生理等教科書は使用しない。/Will not use textbook第1回授業日に行う。ガイダンス教室については	引近にある植物(作物)の 別の遺伝的多様性と遺伝資源 を、考察、討論によって、利 作用についても考察する。 見 学びつつ、自由に討論す 学、環境応答、バイオテク	多様性を発見し、人間の4 原の重要性を実感しても 科学的な思考や発表スキル 更に、今後の地球環境にあ る。	生活にどのように利 らう。またその多様 ルを養う。また、実		

ワンヘルスと感染症を考える 松本 安喜 農学部 31511 月 4 K302 ワンヘルス (One Health) は、人、動物、環境は相互に密接な関係があり、それらを総合的に良い状態にすることが真の健康である、という概念です。グローバル化が加速し、世界的な人口増加の中、環境・食糧・感染症といった、人類共 授業の目標・概要 通の課題がクローズアップされてきます。このような課題の克服には、世界は一つ、健康も一つ "One World, One Health" の観点から、地球規模で、分野横断的なアプローチが求められます。 この講義では、獣医学と農学国際の専門家が担当します。前半は日本の事情を中心に、後半は途上国の事情を中心に、 ワンヘルスと感染症という観点から、動物や人類との関わりをトピックごとに考えます。講義の中では、現状を調査し て課題についてグループディスカッションを行い、多様な意見を交換することで課題解決への糸口を探ります。 講義の折り返し時点で、文京区弥生にある農学部キャンパスを見学する機会を設けています。ここでは、東大農学部の 教授であった上野博士の忠犬ハチ公の臓器を教材に、犬の健康を侵すフィラリアを学んだり、農学部キャンパスにある 世界動物保健機構(OIE)のアジア太平洋事務所の協力を得て国際機関の役割を紹介し、テーマについての理解を深め 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 「問題発見・解決型」、農学/獣医学・公衆衛生学、感染症、健康、食料、環境 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス Quantum technologies and their future HOLMES MARK 生產技術研究所 シラバス参照 月 4 31543 impact (英語) **JAMES** 授業の目標・概要 The overall aim of this course is not to gain a knowledge of quantum technologies per se, but to gain a knowledge of the scientific transferable skills required in a modern international research environment: Communication skills, scientific writing skills, group work skills, presentation skills. The course will proceed via the timeline of preparing for a "conference" that will be held in the final weeks, to which the students will submit their work, and give presentations. 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 Problem finding, Quantum technology, English, Communication, Writing, Presentation 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 海を知ろう 大気海洋研究所 月 4 新里 宙也 31550 K301 本授業は、大気海洋研究所所属の教員 2 名のリードのもと、「海」について様々な側面から掘り下げて考える機会を提供します。「能動的」な学びの過程を通じて皆さんに「研究」の初歩を体験してもらうことを目指します。海に関する予 授業の目標・概要 備知識は必要ありません。むしろ、海について学んだことのない方の履修を歓迎します。 本授業で主に行うのは、調べる、まとめる、発表する、議論する、といった作業です。この中でも、特に「議論」に重点を置きます。教員の発表を学生が聞く時間は必要最小限にし、学生が主体的に参加し進めてゆく授業となります。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 議論・調査・発表、海洋・物理・地学・化学・生物 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31553 スピンの量子科学 三輪 真嗣 物性研究所 月 4 K303 本講義では物性研究所所属の教員と一緒にナノサイエンス、特にスピントロニクスと呼ばれる研究舞台を題材にして 授業の目標・概要 「自分で調べること」「自分で考えること」「他人に説明 (プレゼンテーション) すること」「他人と議論すること」を覚 え、研究引いては社会で生きていくために必要な力を培うことを目標とします。 電子には電荷とスピン(磁石としての性質)の2自由度があります。スピンの性質がナノの世界で顕著に現れることに着目し、高度なレベルでエレクトロニクスを実現する研究分野をスピントロニクスと呼びます。しかし、スピントロニ クスは本講義では題材にすぎず、スピントロニクスに詳しくなることは本講義の目的ではありません。従って、物理学 を深く学ぼうとしている学生のみならず、化学・生物学を主に学ぶ学生の参加も歓迎します。 初年次ゼミナール理科の評価方法により行います。 成績評価方法 スピントロニクス、ナノサイエンス、物理 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

代謝性疾患入門 山内 敏正、岩部 美紀 医学部 31454 水 4 **KALS** 授業の目標・概要 (授業の概要と目的) 代謝性疾患とは、代謝に異常が起こっている疾患です。代表的な代謝性疾患には、糖尿病、肥満症、メタボリックシン ドロームなどがあります。代謝とは何か、代謝性疾患とは何かについて知識を深めたり、グループごとに課題を設定し て調べたり、議論しながら、代謝研究、生命科学研究、疾患・創薬研究の実際に迫ります。その過程において、理系・ 医学系の研究者とはどのような職業なのか、研究者になるためにはどのようなプロセスを踏むのか、研究生活に関する 疑問に答えながら、議論を重ね、医学研究の魅力について理解を深めることを目的とします。 (授業の目標) ・グループワークを通して、協力しながら、課題を設定したり、自由に議論や質問することの楽しさに触れることがで きる。 ・代謝性疾患について、知識を深めることができる。 ・理系/医学系の研究者や医学/生命科学研究のイメージをつかむことができる。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 問題発見・解決型、医学/代謝学、生命科学、糖尿病、肥満、生活習慣病 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 鈴木 雄二 未来のエネルギーを考える 工学部 31463 水 4 K401 エネルギー問題の解決には、技術的な側面だけではなく、環境への配慮、経済性、地域特性といった多方面からの検討が必要です。本ゼミナールでは、現実の社会問題にはこういった複雑な背景があることを理解しながら、エネルギー問 授業の目標・概要 題の解決策や未来予測を行うことを通じて、問題解決能力の向上を図ることを目的とします. まず、日本と世界のエネルギー事情を概観した後、(1)ガスタービン、エンジンなどのエネルギー変換の基盤技術、(2) 日本の CO2 排出量削減に必要な水素燃料, (3) 自動車をめぐるエネルギー技術、の3つのテーマについて学習し、関連の学内研究施設の見学を行います。これら基本的な仕組みや原理に関する学習の後、グループに別れ、研究段階の技術 から実用化された技術までの調査を行い,調査結果のプレゼンテーションを行います.現状のエネルギーに関する状況 を把握した上で今後の課題を抽出し、将来展望を参加者全員で議論します. 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します. 成績評価方法 授業のキーワード 問題発見・解決型、機械工学、エネルギー変換/エネルギーシステム、地球温暖化、電気自動車/ハイブリッド自動車、水 素燃料 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 モーションコントロール入門 古関 隆章 工学部 31464 水 4 K201 ---ロボットや車両を上手に動かす科学 授業の目標・概要 形をとり、ものをうまく動かすために、その微分方程式に基づく「動的な性質」を理解し 取り扱うことが重要になる。 ものの「動的な性質」に着目して対象をモデル化し、状態を計測し、リアルタイムに情報を処理して、入力をうまく決 め、「思った ように物を動かす」一連の手法を制御という。ここでは、倒立振子という、そのままでは倒れてしまうも のを例題に、上手にものを動かすモーションコントロー ル=運動制御について、グループでの議論、数値計算、実験を 通じて学び、数式に基づいて論理的に考えることの大切さを体験することを目的とする。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のタイプ 実験データ解析型、学術分野 工学/ 電気電子工学、ロボット、車両、動的システム、運動制御 授業のキーワード 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 著者 (訳者) 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

エネルギーと環境:人類社会の持続性 小林 肇 工学部 1109 教室 31465 水 4 のための工学技術を考える 授業の目標・概要 (授業の概要) 地球温暖化の進行を緩和しつつ、社会の発展を維持するために十分なエネルギーの供給を続ける事は、一つの領域の技 術や対策だけでは成し遂げることは出来ません。新たな技術オプションを創出して行くと共に、多様な技術群を結びつ け総体として最適に機能させるシステム思考的アプローチが必要となります。本ゼミでは、エネルギーと環境に関わる 現行から最先端の多様な技術の小実験を行い、それら技術の基礎学理を学習するとともに、実験・データ解析・考察手 法を習得します。さらに、そこで学習した知見と最新の技術動向を基に未来の新技術システムを自分たちでデザインし、 持続可能性へ寄与する新たな方法論を提案・議論します。 小実験では、具体的には火力発電、太陽光発電、風力発電、燃料電池、水素エネルギー、ヒートポンプ、二酸化炭素地 中貯留、温度差発電、バイオエネルギー変換に関するそれぞれ基礎的な実験を行います。単に技術の原理を学習するだ けでは無く、当該技術の現状を学んだり、課題を考察したりします。 また、エネルギー・環境に関わる最新の動向を調査・学習し、課題を正しく把握する事を通した上で、それらを解決す る為の未来の技術システムをデザインします。システムとは、一つの技術をより良く機能させる方法論、または複数の 技術を組み合わせたもの、あるいはある技術を中心としたビジネスモデルも含みます。このデザインを小グループで独 自に考案する事で、グローバルな問題に対するシステム思考的アプローチを身につけます。 (授業の目的) ・ エネルギー・環境に関わる多様な技術を深く掘り下げて研究する事により、工学的な方法論や考え方を学ぶ。 ・ エネルギー・環境に関わる最新の動向、課題を正しく把握する事を通し、これからの学習・研究の基盤知識とすると 共に、グローバルな問題に対するシステム思考的アプローチを身につける。 実際に動作する装置を組み立て、実験する事により、問題解決能力を養う。小グループで独自に調査、立案、検証、議論し、創造する楽しさを体験する。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 問題発見・解決・データ解析型、工学、エネルギー、環境、データ測定と解析、小実験 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 著者 (訳者) 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ロボットオペレーティングシステム 理学部 水 4 加藤 真平 E25 教室 31498 自律移動ロボットや自動運転システムの開発に欠かせなくなっているロボットオペレーティングシステム(ROS)を用 授業の目標・概要 いたプログラミング演習を行います。講義の中で提供されるセンサーのデータを利用して、仮想空間上でロボットや自 動運転車を動かしてみることにより、自律移動ロボットや自動運転システムに必要とされる要素技術を学びます。 作成したプログラムの提出とレポート評価。 成績評価方法 自律移動ロボット、自動運転システム 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 世の中を変えた物理、変える物理 理学部 31499 水 4 長谷川 修司 K303 授業の目標・概要 本ゼミでは、調査研究やグループ討論、プレゼン、相互批評などを通して、一つのテーマについて、自分自身で調査の やり方や方向性を決め、能動的に情報を集め、体系化して論文(レポート)にまとめあげるという体験をする。テー としては、物理学(とその周辺分野)における歴史的な発見や発明、あるいは将来大きな影響力を持つと考えられる物 理学に関するトピックスを一つ選び、その内容を調べるだけでなく、それがその後どう展開され、現代社会や未来社会 にどう繋がっているのか、われわれの認識や考え方、生活のしかたをどう変えた(る)のか、などを深堀する。テーマ の設定や調査研究の進め方などは、グループディスカッションを通して自立的に設定する。最終的には、各個人のそれ ぞれのテーマに関して論文形式のレポートにまとめる。その作業過程で、プレゼンテーションや相互批評(ピアレビュー)などを行い、コミュニケーションスキルを高めるとともに最終レポートのブラッシュアップに役立てる。 議論のとっかかりとして、最初に、すべてのノーベル物理学賞と関連するノーベル賞の一覧表を提供するが、それに とらわれず、自由にテーマを選んでよい。また、発明や発見の内容を学術的に正確に記述することにとらわれず、その 発明や発見の意義を広く理解してもらえる表現や議論を重視して進める。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 ゼミ形式、物理学、ノーベル賞、科学史、科学と社会 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 授業のキーワード 教科書 ガイダンス

ゲノムで何ができるか? 杉浦 幸二 農学部 31512 水 4 K501 授業の目標・概要 【授業の概要】 生物の持つすべての遺伝情報をまとめて「ゲノム(genome)」と呼びます。我々は、このゲノムを解読し、利用するこ とで多くの恩恵を受けてきました。実際、最新のニューストピックにも、ゲノム編集、メタゲノム解析、ゲノム医療、ゲノム育種など、「ゲノム」をキーワードとしたものが多く並んでいます。しかし、具体的なイメージがわかないのが現 状だと思います。本ゼミナールでは、最新のニューストピックを、その学術基盤(原著論文)にまで掘り下げて理解し ていきます。さらに、最新のゲノム研究成果の社会実装の可能性を議論します。 【授業の目標】 ・グループワークを通して、コミニュケーションスキルを身につける。 ・学術論文を検索する手法を身につける。 ・プレゼンテーション技術の基礎を身につける。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、生命科学、ゲノム、プレゼンテーション、論文検索、グループ討論 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス プラスチックと人類の共存を考える 農学部 31513 水 4 岩田 忠久 K301 プラスチックは石油から合成され、熱により様々な形に成形加工でき、軽くて、丈夫で長持ちし、人類の生活を劇的に 快適にした 20 世紀の最大の産物であるといっても過言ではありません。しかし現在、プラスチックの焼却に伴う二酸 授業の目標・概要 化炭素排出による地球温暖化問題、石油資源の枯渇、海洋マイクロプラスチックなどの環境破壊および生態系への影響 などが世界規模の解決すべき課題となっています。本初年次ゼミでは、前半部分で、プラスチックの環境への影響とそ の解決について、「生分解性プラスチック」と「バイオマスプラスチック」の観点から一緒に考えます。 後半では、プラスチックと同様に、石油から製造され、製品の利用には欠かせない接着剤を取り上げ、接着剤と環境を 主要テーマとして、低炭素社会とバイオマス利用の観点から一緒に考えます。接着の技術は紀元前のエジプトから利用 されています。しかし、その現象は未だに科学的に解明されていません。接着することはわかっても、接着のメカニズ ムはわかっていないのです。 地球上で植物によって固定される炭素は、エネルギー化して CO2 として排出されても問題はないはずです。しかし、その炭素をより長く固定化することで、二酸化炭素の増加は食い止めることができると考 えることもできます。粘接着現象を解明することにより、炭素の固定化にいかに貢献できるかを一緒に考えます。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 授業のタイプ「問題発見・解決型」、ポリマー(高分子)、生分解性プラスチック、バイオマスプラスチック、接着剤、 環境保全 教科書 プリントを配布する。 / Will distribute handouts ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 世界の海底物理・地質情報から 水 4 清水 久芳 地震研究所 E39 教室 31552 プレートテクトニクスを"視る" 授業の目標・概要 (概要) 今から約 100 年前, Alfred Wegener は,世界地図の上で大西洋を挟んだアフリカ・南アメリカ大陸両海岸線の類似した 形を見て、大陸移動のアイデアを思いつきました。このアイデアは、当初、大陸を移動させる駆動力について明確な説 明ができず、地球科学界では忘れ去られてしまいます。しかし、1950年代以降、地球科学上の新しい証拠によって再評 価され、プレートテクトニクス理論へと確立されました。その間にも、地形や地震・火山の分布の特徴や規則性から、 地球のダイナミクスや歴史について様々な発見がされています. 現在、私たちは、Wegener の時代とは比較にならない膨大な地球情報や、それを視たり手を加える便利なツールを手に しています. 人工衛星や調査船による地形・3次元地下構造探査, 掘削による地下物質・状態の直接観察, 海底ケーブ ルによる地震・地殻変動モニタリング,等により,地球の表面や内部が「どのようになっているか」は,ずいぶんと詳 しく分かってきました. 一方で、「なぜそのようになっているか」については、多くの問題が残されています。例えば、 海溝型地震・津波が超巨大になる要素は何か、地球磁場ななぜ逆転するのか、生物大量絶滅はなぜ起きたのか、などの 根源的な問題はまだ理解されていません。 深海底は大半のプレート境界がある活動的な場所であり、また、新しいタイプの極小海底火山などの「発見」や、地殻 とマントルの境界面がどこにあるのか、といった探索の要素が未だ残されています。残された秘境といっていいでしょ 本ゼミナールでは,最新のデジタル地球データを駆使して,皆さんにあまりなじみのない世界の海底の姿を観察し,そ の特徴が語る地球の歴史や未来の姿を描き出します. 新しい規則性の発見や, 斬新な仮説がこのゼミナールから生まれ ることを期待します. (目標) 「どのようになっているか」を知るため、情報を収集・分析するスキルを身につける. 「なぜそのようになっているか」という問題意識を持ち、解決に向けて取り組む姿勢を身につける. ○ グループで問題設定、情報共有、議論を行い、考えをまとめるグループワークを経験する. 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、地球惑星科学/地球惑星科学、デジタル地球データ、プレートテクトニクス、地震・火山、地球・惑 星の進化 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

グループ2		里一(9,12,14,20,39)理二三(6,8,15,20)				
グループ2 1年 理一(9,12,14,20,39)理二三(6,8,15,20)						
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室	
31455	火 1	病気と遺伝の関係を探索する	藤本 明洋、馬淵 昭彦	医学部	E39 教室	
授業の目標	・概要	古くは 1900 年のメンデルの法則の再発見、19 の完遂によるヒトゲノム配列の解読の完了なとれを支える遺伝子工学技術を含む技術開発によ析による単一遺伝子疾患の原因遺伝子の同定や関連する感受性遺伝子の同定、更にはここ 10 い遺伝子導入技術の開発などにより、遺伝学と医学の分野での応用も始まりつつある。本授業シリーズでは、遺伝学分野を下支えしてシークエンサー技術を紹介するとともに、そのデータを使用した解析を行うとともに、(実際	、数多くのエポックメイキン の遺伝学は大きな進展を遂し 2000年以降のゲノムワイ 年の次世代シークエンサー打 りわけ人類遺伝学の学問領域 いる基礎的解析手法および記 技術から実際どのような知り	ノグな発見を含め様々な外げてきた。とりわけ、1990 ド関連解析(GWAS)による 支術による大規模塩基配列 ずでは急速な進歩が見られ 近年急速に進展したゲノス 見が得られたかを確かめ、	田見の積み重ねとそ0年代以降の連鎖解3非メンデル疾患に利解読の実現、新しれており、生命科学・ムワイド関連解析と、実際に取得された	
成績評価方 授業のキー 教科書 ガイダンス	ワード	初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価参加型授業、人類遺伝学、ゲノム、原因遺伝子教科書は使用しない。/Will not use textbook第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	一、感受性遺伝子			
31466	火 1	体験で学ぶ電磁気学	関野 正樹	工学部	K303	
成績評価方授業のキー教科書	授業の目標・概要					
31467 授業の目標	火 1	システムダイナミクス入門 システムダイナミクスは、多数の変数とその框 ンピュータシミュレーションによってシステム を予測したローマクラブレポート「成長の限界 手法として用いられている。本ゼミでは、主に よるシステムモデリングの基礎を修得するとと テム思考力を養う。	、の動的挙動を解明する手法 りで有名になり、以来、生態 力学系、生態系、経済社会理	である。この手法は 197(態系や経済社会系などの複 見象などを題材に、システ) 年代に人類の未来 复雑システムの解析 テムダイナミクスに	
	猿行評価方法 出席、発表、発表会での質疑への参加、レポートに基づいて行う 業のキーワード システムダイナミクス、システムモデリング、一般システム理論、シミュレーション、未来予測 校科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook					

31468 火 1	材料科学の課題と先端的応用 (問題発見・解決型)	坂田 利弥	工学部	K201
授業の目標・概要		まとめプレゼンテーションで 達展させるための研究方法など 身近な材料」 見される原理的限界に到達して のでででででででである。 はながででである。 はながででである。 はなをにないますででである。 はなをはないでである。 はなをはないでである。 はなをはないでである。 はなをはないでである。 はなをはないである。 はなをはないでである。 はなをはないでである。 はなをが使われ、金属、半導体、 といるではないではないではないではないである。 はなをが使われ、金属、半導体、	を行う。教員から設定され どグループに分かれ調査 どグループに分かれ調査 つつあります。半導体デッ るのが、等を通して、それ その分子生物学迎えかまり をも新展見れるりまりが考えられるりまりでは はる必要がありまりのと はるの子といった特徴ある であることに できることに は、この子といった特徴ある。 で行う。教員があるといった特徴ある。 で行う。 で行う。 で行う。 では、このでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	れた以下の3の終 ・討議し、 ・討議し、 ・対した ・対した ・対した ・を持った ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では
成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス	初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価問題発見・解決型、材料科学、ナノテクノロシプリントを配布する。/Will distribute handouts第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	·一、バイオマテリアル		
31500 火 1	解析学の基礎	松本 久義	理学部	K302
授業の目標・概要 が看響の がイダンス	「数」といいい。 するとないでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	ので授業時に大きない。 で授業時に人には、 で受業時に人には、 でで授業時に人には、 でで授業的にしたでは、 でで授業のののでででででででででででででででででででででででででででででででで	・教員には、 ・教」には、 ・教」には、 ・教」には、 ・大力 ・大力 ・大力 ・大力 ・大力 ・大力 ・大力 ・大力	は、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力で

生物の多様性と機能を考える 宮下 直 農学部 31514 火 1 515 教室 地球上には記録されているだけで 200 万種近い生物がいます。私たち人類はただ 1 種の生物に過ぎないことを考えれば、驚くべきことです。私たちの暮らしは、一見こうした生物たちとは無縁のように感じられるかもしれませんが、決 授業の目標・概要 してそうではありません。衣食住に代表される日常は、実は生物の多様性に支えられているのです。ところが、ここ50 年位の間で生物の多様性は著しく減じています。このままのペースで進むと将来は大量絶滅の時代を迎えることになり ます。そうならないために、私たちは、生物多様性が維持されている仕組みを解き明かし、生物がもたらす恩恵を様々 な観点から理解する必要があります。こうした理解が進めば、生態系や生物多様性を保全し、持続的に利用しようというモチベーションが高まるはずです。このゼミでは、生態学を専門とする教員と、生物工学を専門とする教員がコラボ し、生物多様性のしくみや機能を皆さんと考えていきます。 全体構成は2つのユニットからなります。ユニット1では生物多様性の一般書を題材に、各グループで課題を設定し、 文献調査などを通して本の内容を発展させたプレゼンテーションを行います。ユニット2では、教員との対話的なレク チャーを通して、生物の機能を工学的に考察し、最終日に生物の機能を参考にした機械を提案していただきます。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 とくに出席と積極性などを重視します。 「問題発見・解決型」「論文読解型」、生物学、農学、生態系、保全生物、生物機械工学、バイオミメティックス 授業のキーワード 教科書 次の教科書を使用する。 / Will use the following textbook 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト 書名 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 著者 (訳者) 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31529 火 1 有機溶媒の科学 小島 達央 化学部会 E35 教室 授業の目標・概要 「溶液」という言葉を聞いた時に、「溶媒」としては水を真っ先に思い浮かべる人が多いかもしれません。しかし、少し 視野を広げると日常生活でも水以外の溶媒、特に有機溶媒が使われていることに気づきます。また、産業界では目的に 応じて多種多様な有機溶媒が使用されています。溶媒の選択は、目的を達成するための化学的な効率に基づくはずです。 しかし、化学的な効率を理解するためには、どのような分子間相互作用が重要なのか、どのような分子構造がどういう 化学的性質につながるのか、化学的性質を評価する適切なパラメータがないか、など化学的な理解を深める必要があり ます。また溶媒の選択には、化学的な効率のみならず、毒性や経済性など、さまざまな要因も影響しているはずです。 この授業では、さまざまな有機溶媒について、どのような用途に用いられるのか、どのような性質があるのか、なぜそ のような性質を示すのか、などについて化学的観点を中心に、少人数のグループに分かれて調査・討論し、まとめた内容 をプレゼンテーションします。この過程を通して、分子の構造と性質の関係といった化学の理解を深めるとともに、効 果的なコミュニケーションやプレゼンテーションの方法を学ぶことを目的とします。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 議論•調查•発表、化学、分子、物性、分子間相互作用 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 素粒子物理国際 ヒッグス粒子のみつけかた 石野 雅也 31549 火 1 K402 研究センター 授業の目標・概要 古代ギリシャの哲学者たちが 「万物の根源・原初的要素は何者か?」と問い,「土・水・空気・火」と答えた数千年前 から,素粒子物理学は人類共通の興味の対象であり続けている.その深遠な問いに対する答えをみつけるために,研究 者たちは実験的に検証をするための道具(加速器,検出器,計算機)の性能を向上させ続け,実験的データとして記録・ 解析し、新しい人類共通の知として成果をまとめ、再解釈してきた. この繰り返しにより,特に過去 40 年間,素粒子物理学の研究は急速な進歩を遂げ,素粒子の相互作用についての理解, 初期宇宙に関する知見(科学的な推論を含む)を得てきた.「ヒッグス粒子の発見」は、2012 年夏に成し遂げられた歴 史的なイベントで、翌年、ノーベル賞が授与された。これをきっかけに、素粒子物理学は次の大きな問いに挑戦するスタートラインに立ったところである。 これまでの素粒子物理学が理解してきた世界、そこで使われる道具の原理、今後 どのような問いがあって どのような アプローチをかけていくのか? 授業中のやりとりを通じて、これらの事を理解し、また、それらのことが 意外と少数の 基本原理から理解できることを実感できる様にしたいと思う. 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のタイプ (「対話型」)、学術分野 (物理/素粒子物理)、(1) 科学的で論理的な問い 推測 検証、(2) 素粒子物理・初 授業のキーワード 期宇宙の疑問、(3) 素粒子物理実験の原理 教科書 授業中に指示をする。/Will specify at class time ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 社会インフラ構造物の計画と維持管理 工学部 31469 木 2 長山 智則 K301 ~橋梁と風力発電設備を例に 授業の目標・概要 橋梁と風力発電設備を例として、社会インフラシステムの計画と維持管理について、学習する。 橋梁は、国土/都市計画等から構造形式、コスト、環境影響、維持管理まで多様な観点から計画・架設され長期間にわた り供用される.多面的な検討に基づく橋梁の計画と維持管理を疑似体験し,考える. 風力発電は再生可能エネルギーの中で最も注目されており、現在多くの計画が進められている。実際の計画において不可欠となる賦存量とコストの算定について、現実的なプロジェクトの計画を体験することにより学習する。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題解決型、橋梁工学、風力発電工学、橋梁モニタリング・維持管理、風力発電賦存量・コスト評価 プリントを配布する。 / Will distribute handouts 教科書 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

住宅エネルギーの歴史と未来 前 真之 工学部 31470 木 2 K201 エネルギーは日々の快適で健康な生活に不可欠であるが、通常は意識することが少ない。一方でエネルギーは現代文明の基本であり、その収奪は今日にもつながる数々の戦争や紛争の原因となり、さらに地球温暖化問題は化石エネルギー 授業の目標・概要 への過度の依存を不可能としている。CO2 排出が少なくエネルギー自給に有効とされた原子力は東日本大震災以降世界 で停滞し、再生可能エネルギーは世界的に普及しつつあるが課題も多い。 本授業では、エネルギーの歴史を調査した上で 2030 年・2050 年のエネルギーを見通し、それにふさわしい住宅の形を 提案する。住宅は快適で健康な生活の大基本であるが、日本においては設備の高効率化は進んだものの、断熱気密はお ざなりにされたため、今後の省エネや健康確保にむけては更なる改善が不可欠である。住宅に求められる性能は気候に よって大きく異なることから、グループごとに寒冷地・温暖地・蒸暑地の異なる地域を担当する。 最終プレゼンテーションおよび出席 成績評価方法 授業のキーワード 住宅 生活 エネルギー 化石エネルギー、原子力エネルギー 再生可能エネルギー、設備 効率 暖房 冷房 給湯 照明 家 電、地球温暖化 自然災害、ゼロエネルギー住宅 ZEH、快適 健康 温熱環境 空気質 授業中に指示をする。/Will specify at class time 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 物理のための数学ゼミ 工学部 31471 木 2 吉川 純一 E35 教室 物理学では、様々な現象の中に法則性を見いだして、それを数学的に記述します。また、その数学から予想される現象 授業の目標・概要 は、実験的に確かめられます。こうした過程の中で、それまで思いもしなかった応用が見つかることがあります。例え ば、量子力学の応用としての量子コンピュータなどです。 この授業では、基礎となる数学を学び、物理の記述にどう生かされるのかを調べ、受講者同士の議論を通して理解を深 めます。文献の検索、発表資料の作成、科学的な内容でのコミュニケーションの経験を積みます。最終的には、4名程 度のグループに分かれて、興味のあるテーマを自ら設定し、他の受講者の前で発表してもらいます。物理に関連してい れば基本的にどんなテーマでもよいので、面白い発表を期待しています。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 問題発見・解決型、物理学/量子力学、相互学習、サイエンスコミュニケーション、グループワーク 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 木 2 量子情報技術を「正しく」理解する 村尾 美緒 理学部 E25 教室 31501 授業の目標・概要 従来型の情報処理や情報通信の限界を超えるブレークスルーの候補として、量子コンピュータや量子暗号、量子テレポ - テーションなどの量子情報技術が最近注目を集めている。これらの量子情報技術は、量子エンタングルメントや量子 測定など、日常の直感に反する量子力学の特性を情報処理や情報通信に利用したものであり、量子情報技術を「正しく」 理解するためには、情報処理の観点を取り入れた量子力学の正しい理解が必要である。しかし、量子力学は一般にはな じみの薄い概念であり、報道などにおいても不適切な解説をたびたび見かける。本講義では、量子情報技術を「正しく」 理解し、量子力学を習ったことのない人々にもわかりやすく正しく説明できるようになることを目標とする。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のタイプ(講義・演習・調査・発表)、物理学、量子力学、量子情報技術、量子計算、量子情報 授業のキーワード 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 書名 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 東日本大震災・原発事故における環境 木 2 濱本 昌一郎 農学部 31515 K302 汚染を考える 授業の目標・概要 2011年に起きた東日本大震災で、東北から関東地方の太平洋沿岸は地震と津波による大きな被害を受けた、津波によ る海底のヘドロ等の陸域への拡散、被災した工場等からの有害物質の大気・公共用水域・地下水・土壌への漏出、津波 による廃棄物の海洋への流出や油汚染等、国民の健康への悪影響や生活環境の悪化が懸念された。また、福島第一原子 力発電所事故により放出され福島県西部を中心に広く降下沈着した放射性物質は、9年経った現在でも様々な農林産物 の生産・流通を妨げ、当該地域の農業復興を妨げる大きな要因となっている. 本ゼミナールでは、東日本大震災・原発事故の問題に関わる学術論文や報告書を収集・整理し、震災および原発事故に よる環境汚染の状況と復旧の現状、農林水産業への影響について学びます。この問題の重要性と、社会経済、政策制度 との関わりも含めて今後求められる環境汚染対策について考えを進めていきます. 本ゼミナールを通して, 自然科学研 究の思考や方法論についても理解してもらいます。 震災・原発事故以降、当該地域での調査と放射性物質に関する研究室内での実験に携わってきた農学生命科学研究科の 教員2人と大学院生が授業を担当します。 授業の目標:東日本大震災・原発事故における環境汚染問題を通して, ・解決すべき問題に対して主体的に情報を収取し自ら課題を設定する力を身に着ける. ・グループによる課題設定、進捗状況の共有、プレゼンテーションの実施、質疑応答といった共同作業のスキル、また グループワークにおける主体的な関わり方を身に付ける. ・自然科学の研究技法を通じた論理的思考法・批判的思考法、建設的な議論の組み立て方を身に付ける. 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 文献検索、グループワーク、農林業、土壌学、水圏環境化学、環境科学 教科書 授業中に指示をする。/Will specify at class time 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

100年後の日本の国土を考える 堀田 紀文 農学部 31516 木 2 K303 日本は陸地面積の約3分の2が森林に覆われた自然の豊かな国である。しかしながら、100年前には荒廃山地が広がっていた。明治政府による施策と、先人たちの努力によって山に緑が回復したのである。今後は、気候変動や人口減少、技術革新等に対応した新たなグランドデザインが必要である。本ゼミナールでは、100年後の国土をデザインするため、 授業の目標・概要 区間中利等に刈心した利になりノントフサインが必要である。本セミアールでは、100 年後の国土をデザインするためにこれから必要となる研究や技術開発について考えたい。まず、空中写真や衛星画像などを用いて、森林や国土の変遷や多様性を実際に確認する。併せて、写真測量の原理や、その発展形である最新の画像解析技術についても学ぶ。次に、森林の多面的機能に基づきグループごとにテーマを設定して論文のレビューを行い、森林に関わる今後の重要な研究課題や研究の方向性について討議し、発表する。そのうえで、100 年後の国土のあり方について総合的に討論を行い、ゼ ミナールのまとめとする. (授業の目標) ・研究課題における問題点を文献に基づき把握する. ・異なる学問分野を融合することの意義を知る. ・成果をとりまとめて発表し、コメントに応じて修正するというプロセスを経験する. 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します. 成績評価方法 森林科学、森林の多面的機能、国土の変遷、論文講読+問題発見、プレゼンテーション 授業のキーワード 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 書名 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 著者 (訳者) 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31530 木 2 液体としての水の特異性について考える 平岡 秀一 化学部会 K501 授業の目標・概要 水 = H2O は我々にとっても最も身近でかつ不可欠な物質です。水はその極めて単純な分子構造にもかかわらず、様々 な特異な性質が知られています。これらの水の特異な性質な何に由来しているのでしょうか?また、水は我々生命にと って必須の物質だと考えられていますが、なぜなのでしょうか?水がないとどのようなことが起こり、水の代わりとな る別の物質はないのでしょうか。溶媒としての水の特異性の一つに疎水効果と呼ばれる現象がありますが、なぜそのよ うなことが起こるのでしょうか。また、疎水効果に相当する現象は、水以外の溶媒では起こらないのでしょうか。この ように、水を取り巻く様々な現象を考えてみたいと思います。特に本講義では水中で自発的に集合化する立方体形の分 子集合体である「ナノキューブ」という分子を題材に、これらの問題について考えます。また、講義の後半では「ナノ キューブ」の形成の原理に基づいて、受講生が新しい分子のデザインにも挑戦します。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 水、化学、疎水効果、分子自己集合、ファンデルワールス力 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 書名 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 著者 (訳者) 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31533 木 2 ホルモンからヒトの行動を考える 坪井 貴司 生物部会 K401 授業の目標・概要 (授業の概要) わたしたちの複雑な生命活動は、多種多様なホルモンが、環境変化に応じて、適切に血液中へ分泌されることによっ て調節されています。この多種多様なホルモンは、ごく微量で驚くべき作用をします。例えば、「恋」や「食欲」、そし て「睡眠」もこのホルモンによって調節されます。 本ゼミナールでは、ホルモンの生理作用やその生理作用を利用した先端医療への応用の可能性、そして生命倫理に関 する課題について、各グループ内で討議を行い、その中で、仮説を設定し、そして結論を導き出し、その内容をゼミナール時間中にプレゼンテーションします。これらを通して、仮説から結論に至るまでの科学的な思考における基礎的な 能力の習得を目指します。 (授業の目標) 研究課題における目的や問題点を認識し、その解決のための手段を考えるという活動を行います。仮説をたて、結論に至るまでに必要な科学的プロセスを考え、行動します。 ・自分の考えを、分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで新たなアイデアや知見を得るための、コミュニケー ション能力の基礎を身につけます。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、生物/生理学・神経科学、ホルモン、神経、内分泌、グループワーク 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 書名 知識ゼロからの東大講義 そうだったのか!ヒトの生物学 著者 (訳者) 坪井貴司 出版社 丸善出版 ISRN 9784621304518 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

初年次ゼミナール理科 グループ3 1 年 理一(7-8 11 13 15 17)理一=(9-10 14 19)

グループ3	1年 理	里一(7-8,11,13,15,17)理二三(9-10,14,19)				
		グループ3 1年 理一(7-8	,11,13,15,17)理二三(9-10,	14,19)		
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室	
31457	火 3	医学の考え方を身につける〜Precision medicine 時代の循環器学の基礎から 応用まで〜	瀧本 英樹	医学部	シラバス参照	
授業の目標・概要 <概要>病気とは何か?疾患はどうやって発症するか?本授業では、医学において最も重要なこの課題について、循 器疾患(心臓や血管の病気)を題材に取り組みます。生命をシステムとして捉える医学・分子生物学・システム生物学 データサイエンスの概念を自分のものにして、Precision medicine(精密医療)における問題を自ら発見してそれを解 する授業を行います。<目標>医学の原理を理解し、そこに潜む問題点を自ら見出し、それを解決する手段を考え、 ループで議論して自らの考えをわかりやすくプレゼンテーションできるようになることを目指します。これは将来の 学研究の土台となるでしょう。 成績評価方法 授業のキーワード 教科書						
31472	火 3	建物振動の計測と制御	伊山 潤	工学部	E25 教室	
成績評価方 授業のキー 教科書 ガイダンス 31473	書名 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。					
成績評価方 授業科書 ガイダンス	法 ワード	この授業では、知能ロボットを構成する基本要を利用して実際にロボットを作ってもらいますのロボット研究の成果にも触れてもらい、知能議論してもらいます。また、グループワークをすく伝える技術の学習も狙いです。授業の目標: ・ロボットや知能といった未定義で学際的なじることができるようになる・工学の観点から問題を発見し、実際の製作・自分の考えを整理し、適切に他人と分担してのける初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価問題発見・解決型、工学/知能機械・ロボティ教科書は使用しない。/Will not use textbook第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	こ。ただし、LEGO はあくまで とはなにか、現代社会で必要 通じた、工学的な思考方法の ことがらに対して、グループ を通じてそれを解決するプロ こ、複雑なシステムであって します。 クス、グループワーク、もの	で入門の道具であって、技要とされるロボット・シアとされるロボット・シアとで、問題解決のアクタンでは、では、では、では、では、では、では、では、では、できない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入門の道具であって、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 で入り、これには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、大きない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、たまない。 でいるには、 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるないるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるないない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるないるない。 でいるない。 でいるない。 でいるないるない。 でいるないるない。 でいるない。 でいるないるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるないるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるないるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるない。 でいるないるないない。 でいるないないないないないないないないないないないないないないないないな	受業の中では、最新ステムとは何かを、イディアをわかりや	
31474	火 3	機械学習の数理と実践	鈴木 大慈	工学部	K301	
投業の目標・概要 機械学習の数理と実践 鈴木 大怒 工字部 K301 接機学習は現在の人工知能を支える基礎技術である。本講義では、機械学習の各種手法を学習することで、その理論と使い方を理解する。特に、理論を通してどのような数学が用いられているかを体感する。また、グループに分かれて各グループごとに機械学習手法の解説資料に目を通し、その実装と応用を行う。機械学習の理論と実践を学ぶことでその原理を体感し理解することが目標である。講義のの前半では各種手法の理論を学び後半ではその実践を行う。前半と後半の間に各グループごと前半の内容をまとめたプレゼンテーションを行い、講義最終回には後半の実践編における達成物に関するプレゼンテーションを行う。初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。ガイダンス・初回授業で説明次の教科書を使用する。/ Will use the following textbook書名 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編出版社東京大学出版会第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。						

化学のブレークスルーに学ぶ(1) 31475 火 3 齊藤 圭亮 工学部 E35 教室 (無機化学・物理化学編) 化学のブレークスルーに学ぶ(1)(無機化学・物理化学編)では、工学部応用化学科で現在 精力的に研究が行われている無機化学・物理化学系の世界最先端のトピックをとりあげ、その研究がもたらした各分野のブレークスルーを学びます。 授業の目標・概要 本講義では、無機化学・物理化学をベースにした材料開発について、基本原理から実際の研究の様子、応用展開に至る までを論文輪読、文献調査およびそれらに携わった研究者達の話の中でより身近に感じ、学ぶことができます。主に、 触媒、電池、機能性ナノ材料、蛋白質などを題材にして、これらの研究がどのように生まれ、どのようなブレークスル ーがあったか、また、これらの研究やその応用展開が現在どのように社会の役に立っているのかを、ゼミナール形式の 授業で、分かりやすく学ぶことができます。また、実際の研究現場を見学することで、最先端の研究がどのように生まれるか、どのように行われているかを体験していただけます。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 応用化学、無機化学、物理化学 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 多様化する食と安全性について 火 3 関澤 信一 農学部 31517 K302 考えてみよう 人類は有史以来、食料を効率的に生産することに多大な努力を払い、様々な植物、畜産物、そして水産物の domestication 授業の目標・概要 を成し遂げてきました。世界規模での人口増加が予想される現在、効率的食料生産技術開発の重要性はますます増加し ていくと予想されます。 一方で、このような効率性食料生産技術に起因する様々な問題も顕在化しています。例えば、高密度環境での生産は病 原体の伝搬が起こりやすく、また生産対象生物の移動に伴う病原体の移動は、感染症の拡大をもたらします。人工飼育 条件下で与えられる人為的な餌が、生産対象種の健康に影響を及ぼす例も知られています。 『食』は人類が生きていくためには必須な存在です。そのため、人類社会の持続的発展には、食料生産技術に関連する 課題への解決も求められることになります。 本講義では、農学と獣医学の専門家が担当します。穀物等の食料や畜産物を中心に、"健康"に関連するトピックごとに 考えていきます。講義の中では、関連する資料に基づいてグループディスカッションを行い、討議を通じて問題の理解 と課題解決への道筋を探っていきます。 講義の一部で、実際の食料生産・供給現場を訪問することで、食料を安全に提供することに対してどのような取り組み を実施しているか、また、それが限りなく完全に実施されるためには、どのような仕組みを取り入れているか、また、 規制当局の関与についても学んでいきます。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 問題発見・解決型、農学、食料生産、健康、科学プレゼンテーション、ディスカッション 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 書名 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 疾患克服を目指した医科学研究の実際 ―疾患の分子病態から予防、診断、 石井 健、小沢 学 31542 火 3 医科学研究所 K401 治療法を考える― がん・免疫疾患・感染症・神経疾患などの疾病を克服し、健康で長生きできる社会を実現するためには、疾病の原因となる感染源や遺伝子変異を同定するとともに、動物モデルなどを駆使しながらその異常と病態発症・進展における分子 授業の目標・概要 メカニズムを解明することが極めて重要です。そして、得られたデータを新しい予防・診断・治療法の開発へと発展さ せていく必要があります。私達の医科学研究所では、最先端のゲノム編集技術を用いた動物モデル開発や膨大な患者サ ンプル等を使用した実験的基礎医学研究から、基礎実験データを臨床に活かすためのトランスレーショナルリサーチ、さらには AI やスパコンを駆使した高度な数学的手法によるデータ解析、そして様々な疾患を予防するためのワクチン 開発など、基礎から応用までを包括的に統合する体制で医科学研究を推進しています。 本ゼミナールでは、グループ学習を通して、まず(1)我々の健康を脅かす感染症とはどのようなものかについての理 解を深めるとともに、(2) その原因を解明し対処法を構築する上で必要不可欠である動物モデルの樹立方法について 学んでもらいます。さらに、(3)得られた基礎医学情報を如何にして応用に結びつけていくかについてワクチン開発 を題材として皆さんと考察していきます。その過程で、医科学研究の持つ自然科学的な側面にとどまらず、ヒトゲノム 編集は許されるのか?動物のヒト化はどこまで許容されるか?といった倫理的問題、および医療の安全性と危険性はど のようにバランスを取ればよいのか?反ワクチン運動はなぜ起こるのか?といった社会的な側面からも医科学研究の 現状について議論を深めていく予定です。 開催場所 通常は駒場キャンバスで実施します。個別授業に移る前の4月後半、あるいは5月前半の一コマ(医科学研究所の施設 の都合上、授業が予定されている日時とは異なる場合があります)を医科学研究所の施設見学(スパコン、実験施設等) とします。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 問題発見・解決型、医科学、感染症、ゲノム編集、動物モデル、ワクチン開発 授業のキーワード 教科書は使用しない。 / Will not use textbook 教科書 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト 書名 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

地震による地盤災害から社会を護る 清田 隆 生產技術研究所 31544 火 3 シラバス参照 授業の目標・概要 私たちの生活に深刻なダメージを与える自然災害発生メカニズムを紐解くと、その多くが地盤の挙動と密接な関係があ る。東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震などの近年の地震を振り返ってみても、造成地の崩壊や液状化によ る構造物やインフラの深刻な被害が数多く発生している。本ゼミナールでは、これら地盤災害の発生メカニズム、およ び地盤災害から社会を護る手段を、グループディスカッションを通じて理解を深めます。 (授業の目的) そもそも地盤とは何なのか、地震時に地盤はどのように振る舞うか、地盤の強度はどのように発現されるかなど、基本 的な議論や過去の地震被害の取りまとめや発表、学生が自ら作成する地盤模型を用いた実験を通じて、地盤防災研究を 体験します。 (開講場所) 駒場リサーチキャンパス (駒場 II) 生産技術研究所 総合研究実験棟 As 棟 中セミナー室 (As301・302) アクセス・キャンパスマップ http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/access/ 初年次ゼミナール理科の評価方法によって行われます。 成績評価方法 授業のキーワード 問題発見・解決型、地盤工学/土質力学、地盤材料の強度・変形特性、模型実験 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 先端科学技術研究 火 3 先端科学技術の現場を「体験」する 石北 央 K501 31548 センター 授業の目標・概要 この授業では、皆さんが今いる駒場キャンパスと先端科学技術研究センター(先端研)が位置する駒場リサーチキャン パスを舞台に、世界と競い合う最高水準の先端科学技術を体験してもらいます。最先端研究が、キャンパスの殻の中に 閉じこもる旧来型の研究ではなく、学術の進展や社会の変化に機動的に挑戦して人間と社会に向かっていることを、こ の授業で実感できるはずです。先端研の根幹の研究領域(環境・エネルギー、情報、材料、生物医科学、バリアフリー 社会科学)の中から、今年の講義では、基礎的な概論とともに3つの話題を紹介します。基礎から最新のトピックまで ざっくりと体験できるはずです。 1)「概論」(石北 央): 先端研の最先端研究の概略を紹介するとともに、光エネルギー、光合成、蛋白質、量子化学、理 論計算の接点をテーマに先端科学技術の一端をちょっとだけ覗いてみます。 2) 先端研「量子情報物理工学」分野(×3回)不破麻里亜 3) 先端研「身体情報学分野」分野(×3回) 瓜生 大輔 4) 先端研「グローバルセキュリティ・宗教」分野(×3回) 小泉 悠 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、量子コンピューター、超伝導量子ビット、バーチャルリアリティ、ウェアラブル技術、ロシアの軍 事・安全保障政策、蛋白質、理論化学 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 途上国開発に学ぶプロジェクト 木 3 高橋 佑弥 工学部 31476 K303 マネジメントとコンクリート工学 授業の目標・概要 途上国開発をはじめとした国際建設プロジェクトにおいては、調査・計画・契約・施工などそれぞれの段階で、技術者 が工学的判断を行うことが必要である。様々な制限や制約条件下で複数の要因のトレードオフの中、技術者の主体的判 断のもと問題を解決することが求められるが、時として、異なる関係主体に関する理解が不十分なことによりプロジェクトの成功が危ぶまれることもある。例えば、橋の建設において、工事手順への配慮に欠いた造形を重視した設計が施 工会社の工事失敗リスクを増大させてしまうような事例も生じている。援助国・被援助国政府、住民、設計会社、コン サルタント,施工会社といった異なる主体間の連携と相互理解のもと,それぞれが適した判断を行うことが大切である。 本ゼミナールでは、上記の観点から、途上国のインフラ開発を題材として、国際建設プロジェクトの運営を擬似体験す る。案件形成・計画からプロジェクト遂行・建設までを異なる立場で体感することで、問題の発見・解決の姿勢や多角 的視点を身に着けると共に、建設プロジェクトに関わる工学分野(建設マネジメント、コンクリート工学)の基礎を学 ぶことを目標とする。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 問題発見・解決+ものつくり型、工学/建設マネジメント・建設材料、海外建設プロジェクト、途上国開発、プロジェク トマネジメント、コンクリート プリントを配布する。/Will distribute handouts 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス

化学を使って生命や分子の謎を解く: 木 3 山東 信介 工学部 31477 K401 「がんの早期診断・治療法を考える| 生命」は化学物質の変換を巧みに行い自律的に活動する複雑なシステムです。また「分子」はそれら化学物質の基本 授業の目標・概要 的な構成単位であり、その活動や機能の発現において中心的な役割を担っています。 生命や分子を「化学」の視点から眺め理解することは、我々自身やまわりの現象を深く知る上で欠かすことができませ ん。わたしたちは「化学」の力を使って、 自らの創造力を「分子」をデザインすることにより具現化することができま す。それによって生命現象の理解や病気の治療法を考案したり、自然界にはない新たな機能を持つ分子や素材を生みだ すことが可能となります。まさにこの分野は、21世紀の人類社会が抱える多くの諸問題を解決する糸口を提供します。 本ゼミナールでは、生命現象を司る分子の働きに焦点を当て、化学や分子の視点からどのようにアプローチし、どのよ うにアイデアを具現化するかについて、文献調査やディスカッションを通じて主体的に考え、オリジナリティの高い提 案を行うことを目標に進めていきます。具体的には、がんの早期診断・治療法の開発に役立つ機能性分子のデザインに 挑戦します。はじめに、分子設計のストラテジーを実際に活躍する機能性分子の例から学習します。その後、実際に現 代社会で問題となっている疾病を対象として自ら課題設定し、がんの早期診断・治療に向けた有用な新規分子の提案を 行ないます。 授業の目標: ・解決すべき問題に対して自ら課題を設定し、解決法を提案する主体性を育成する。 ・グループによる課題設定、進捗状況の共有、プレゼンテーションの実施、質疑応答といった共同作業のスキル、また グループワークにおける主体的な関わり方を身に付ける。 ・自然科学の研究技法を通じた論理的思考法・批判的思考法、建設的な議論の組み立て方を身に付ける 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、化学/生命科学、グループディスカッション 授業中に指示をする。/Will specify at class time 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 31502 木 3 材料をつくり出す化学 長谷川 哲也 理学部 120 教室 化学がつくり出す様々な先端材料 (超伝導体や磁性体、太陽電池、光触媒など) について、なぜそのような性質を示すのか、またどのような応用あるかについて調べ発表を行うとともに、簡単なデモンストレーションや実験を通して材料 授業の目標・概要 を体験する。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、化学/材料化学、先端材料、物性化学、デバイス 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 薬の開発にどのように化学が関わって 31522 木 3 平野 圭一 薬学部 K302 いるか 本講義では、有機化学の基本的な考え方を学びつつ、最新のトピックスを交えながら様々なアプローチで薬への理解を 授業の目標・概要 深めることを目標とします。 各授業では、簡単なガイダンスの後にグループディスカッションを行い、その結果をプレゼンテーションする形をとり ます。 サイエンティフィックなテーマに関してグループ内で意見のコンセンサスをとり、資料を作成し、論理的にプレゼンテ ーションする能力の獲得を目指します。 成績評価方法 出席 有機化学、くすり、グループディスカッション、プレゼンテーション 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス

授業のキーワード

教科書

ガイダンス

生命現象のモデル化と実験検証 若本 祐一 物理部会 118 教室 31525 木 3 授業の目標・概要 (授業の概要と目的) 生物学の歴史を振り返ると、メンデルの遺伝の法則に代表されるように、現象を担う「もの」の実体が理解されるより 前に生命現象自体の「こと」としての定量的関係や法則性がまず理解され、その背景原理の解明につながった事例が多 くみられます。近年になり、計測技術の進展も相まって、生命科学の研究では、定性的な実験データだけでなく、定量 的なデータが多く得られるようになってきています。その結果、これまで物理学で主に行われてきたような、理論モデ ルの予言と実験結果の厳格な定量比較により、モデルや仮説の妥当性を厳しく検証し「こと」としての生命現象の本質 に迫る研究が実現しつつあります。 そこで本授業では、グループワークや文献紹介、モデル構築や実験を通して、生命現象にみられる定量関係、定量法則 について理解を深めるとともに、自ら新たな仮説をモデルとして表現し、その妥当性を評価したり、自ら仮説を検証す る実行可能な実験を立案・実行できる能力を養うことを目指します。 この授業の具体的な目標は以下のとおりです。 (授業の目標) ・様々な生命現象にみられる定量関係、定量法則について理解を深める。 ・実験により明らかにされた生命現象に対し、その背景原理について自ら仮説やモデルを立てられるようになる。 ・自分の仮説を検証するための適切な検証実験を立案できるようになる。 ・自分のモデルをもとに、理論解析や数値シミュレーションなどにより、自ら結論や新たな予言を導くことができるよ うになる。 ・生命現象を「もの」の観点から知るだけでなく、「こと」として捉える観点を身につける。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、物理/定量生物学、モデル化、実験、仮説検証、グループワーク 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 著者 (訳者) 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 生物部会 31534 木 3 哺乳類の受精・卵割の特性 大杉 美穂 K201 授業の目標・概要 <概要> 受精・卵割による新たな生命の誕生は、異形配偶子形成を行う生物に普遍的な生命現象である一方、生物種によって驚 くほどの多様性も示します。 本ゼミナールでは、まず受精に関連するキーワードを含む一般のニュース記事(過去1年分)の中から興味をもったも のを選び、内容について科学的に説明するためのグループごとの調査・発表を通して受精についての普遍的な知識を得 ます。 その後、その記事の元となった学術論文について調査・発表を繰り返す過程で、受精過程が多様であることにどのよう な意義や利点があるのか(あるいはないのか)、私たちヒトを含む哺乳動物の受精・発生にはどのような特性があるか について議論を進め、理解を深めます。 <目標> ・教科書的な知識を丸覚えするのではなく、それがどのような観察結果や実験結果から導かれたものであるかを理解す る。 ・「まだわかっていないことは何か」を意識しながら学び、科学的課題の設定や仮説の立て方とその検証方法について 知る。 ・人にわかってもらうためのプレゼンテーション技術の基礎を身につける。 成績評価方法 初年時ゼミナール理科の評価方法によって評価します

生命科学、受精、繁殖、哺乳類、生殖医療・再生医療

第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

教科書は使用しない。/Will not use textbook

79

デザイン・エンジニアリング・ワーク ショップ ~ 機能的で美しいものを 山中 俊治 シラバス参照 木 3 31545 生產技術研究所 作るための観察、コンセプトワーク、 スケッチ、プロトタイピング 授業の目標・概要 ※開講場所:生産技術研究所(駒場第二キャンパス) S 棟 2 階 ギャラリーS-2 会議室 デザインという言葉は、かつては装飾的な「意匠」の意味で使われていましたが、今日では人々の生活を豊かにするた めの幅広い価値創出の技術として、様々な分野で活用されるようになりました。本授業ではデザインについて、次のよ うな新しい定義を採用します。 「デザイン:人工物あるいは人工環境と人との間で起こるほぼ全てのことを計画し、幸福な体験を実現すること | 便利で使いやすく美しい人工物をデザインするには、基本機能を設計するための幅広い自然科学と、人のふるまいを理 解するための人文科学の知識、自然物や抽象形態に対する繊細な美的感覚と表現力が必要です。いずれも習得に時間が かかる巨大な体系ですが、最も重要なのはそれぞれの方法論の違いを理解し、常に多視点、多重思考で考えることです。 【目的】 ・科学知識と美的感覚、論理思考と手作業、概念操作とプロトタイピングなど、相反する創造プロセスを同時に扱うた めの「振り子」思考を身につける ・アイデア創出の方法を学ぶ ・アイデアを具現化し、人に伝えるためのプロトタイピング手法を学ぶ ・スケッチや立体物製作のための基本となる物の見方、身体の使い方を学ぶ 【概要】 後述の3つの課題に挑戦してもらいます。 制作は、しばしばホームワークであり、かなりハードワークになります。 【参考】 教員のひととなりを知りたい場合は、下記のブログや Twitter を参考にしてください。 ・ブログ「デザインの骨格」 http://lleedd.com/blog/ 2014年から更新されていませんが、デザインの基礎となるものの見方や考え方をエッセイ風に記録したものです。 · twitter @Yam-eye https://twitter.com/Yam eye Instagram https://www.instagram.com/yam_sketch/ 山中のスケッチ置き場です。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 問題発見解決型演習、デザイン・エンジニアリング、スケッチ、プロトタイピング、アイデアの作り方、ユーザビリテ 授業のキーワード 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 気になるモノを描いて楽しむ。観察スケッチ 書名 著者(訳者) 檜垣万里子 出版社 ホビージャパン 978-4798619187 **ISBN** ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 身近な CO2・PM2.5 濃度の変動を 今須 良一 大気海洋研究所 31551 木 3 K501 捕らえる 授業の目標・概要 (授業の概要) 地球温暖化は温室効果ガスの大量放出により引き起こされます。その中で最も重要で身近なものは二酸化炭素(CO2)で す。一方、健康に深刻な影響を及ぼす大気汚染物質の一つとして PM2.5 が問題となっています。本ゼミナールでは、簡 易測定装置を用いて身近な環境における CO2 や PM2.5 の濃度変動を測定し、そのデータの解析、結果の考察を通じて、 科学的なものの考え方や論理の展開の仕方を身につけます。また、関心がある場合には、赤外線強度の測定装置(サーモグラフィー)も用いた実験も行えます。これらは、グループ単位での測定実験、解析、発表、および、全員での質疑応答の形式で行います。これと併せ、あるテーマについて講義形式で話題提供し、グループ討議や全体討論を通じて、 科学的なものの見方の幅を広げていくことを目指します。 (授業の目標) ・自分たちで行った測定結果を題材に、論文や口頭発表の構成要素である、序論・手法・結果・議論の展開ができるよ うになる。 ・実験の立案、実施、まとめの過程で、個人の考えを出し合い、議論を通してグループとしての考えや提案をまとめる 能力を身につける。 ・研究発表に対して質問する能力を向上させる。また、発表者は質問や批判に対しての対応力を強化する。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 期末試験は行わず、毎回の作業への取り組みや、発言頻度・内容により評価を行います。 授業のキーワード 問題発見・解決型、地球科学/気象、気候変動・地球環境、発想力、調整能力、観察力 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

グループ 4	1年 및	里一(23,26,28-29,33,36-37)理二三(12,16,24	L)		
		グループ4 1年 理一(23,26	5,28-29,33,36-37)理二三(1	2,16,24)	
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室
31478	火 4	知能ロボット入門	鳴海 拓志	工学部	K401
授業の目標・概要 ロボットは、人間・機械・情報を結ぶ知的なシステムです。ロボットは、コンピッ り、ものを動かしたりすることができます。生物の仕組み、特に脳神経系の働きにります。一方、人間以上の速度やパワー、インターネット上の知識の利用など、生この授業では、知能ロボットを構成する基本要素や、知的な振る舞いの作り方を全を利用して実際にロボットを作ってもらいます。ただし、LEGO はあくまで入門ののロボット研究の 成果にも触れてもらい、知能とはなにか、現代社会で必要とさ議論してもらいます。また、グループワークを通じた、工学的な思考方法の習得ですく伝える技術の学習も狙いです。初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。問題発見・解決型、工学/知能機械・ロボティクス、グループワーク、ものづくり教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。				の働きは、知的なロボットなど、生物を超え得る潜在り方を学ぶため、最新版ので入門の道具であって、打要とされるロボット・シの習得や、問題解決のアク	トを作るヒントにな 力を持っています。 ウ LEGO Mindstorms 受業の中では、最新 ステムとは何かを、
31479	火 4	体験的ものづくり学 -3D プリンタに よるコマづくりー	三村 秀和	工学部	K201
授業の目標・概要 成績評価方法 授業のキーワード 教科書 ガイダンス		(授業の概要) 日本は、「ものづくり」が重要と言われていたますと言われています。こうは、こうは、こうなどの標準を表現のでは、ガラスチックなど目標のにない。素とされたり、ものでは、一連のでは、一点では、これでは、いって、でのは、一点では、いって、は、いって、は、いって、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、は、いっで、いっで、は、いっで、いっで、は、いっで、いっで、いっで、いっで、いっで、いっで、いっで、いっで、いっで、いっで	はに加えて、ライト、センス出すことも、「ものづくり」能があり、それを満たす設計なり立っています。「ものづくりの一連の設定もできません。なりの一連の流れを体験とういます。そして、タで作製といます。そのブリンタを勉強し、「世界ので、カアリンタを勉強し、「世界で、カープリンタを勉強し、「世界でが、カープリンタを勉強し、「世界がある。カープリンタを勉強し、「世界がある。カープリンタを勉強し、「世界がある。カープリンタを勉強し、「世界がある。カーブリンタを勉強し、「世界がある。カーブリンタを勉強し、「世界がある。カーブリンタを勉強し、「世界がある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージーがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャンがある。カージャングルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグルグル	サー、タイヤ、レンズなっです。 です。 やを行い、その設計に基づり」は、お互いが関連してもらいます。「コマ」はにいったものでしょう?その理的な理解をベースに各当してもらいます。3Dプリテムというではあるというではます。 は、特度などの特徴を受け、特別を受けます。 は、特別では、対しています。3Dプリテムというでは、対し、特別であるというでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	どの部品や、鋼、ウいて実際に作製し、 におり、作製方法を はもが知って脚体はないましたが知っる。 が知っ間体はないまして がループが、自由なながいとの発 リンタは、設計にフ 理解して、設計にフ
31480 授業の目標 成績評価方		化学のブレークスルーに学ぶ(2) (有機化学・分析化学編) 有機化学・分析化学におけるブレークスルーと や文献読解により学ぶとともに、世界最先端の けた上で、それを基に研究がどのように展開さ 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価)研究現場やその舞台裏に触; ;れ応用技術や新しい概念に;	れる。研究の基礎となる氏	理論や手法を身につ
成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 応用化学、有機化学、分析化学 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。					

原子力エネルギー・放射線医療と社会/ 上坂 充 工学部 E25 教室 31481 火 4 Nuclear Energy / Radiation Medicine and Society 授業の目標・概要 原子力エネルギーと放射線医療の原理を理解し、それらの社会受容性を討論する。原子力エネルギーにつき、他のエネ ルギー源との比較、地球環境、国際関係、放射線がん医療につき、放射線人体影響、放射線安全、他の治療法との比較、 社会受容性につき、リスクコミュニケーションを学習し、討論する。複雑な問題の中から課題とその解決方法の発見を 試みる。最後は討論内容をプレゼンテーションし、発表技術も向上させる。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価する。 成績評価方法 授業のキーワード 問題発見・解決型、工学/システム創成、原子力発電、放射線がん治療、社会受容性 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 解析学の基礎 31503 火 4 下村 明洋 理学部 108 教室 授業の目標・概要 大学での標準的な数理科学の立場から観ると、高等学校までの数学於いて極限と連続性や微分積分の取り扱いはやや直 観に頼ったものであり、大学での学問としての数理科学ではこの分野は厳密な理論が展開される.「数理科学の立場か らに厳密に記述された微分積分学(解析学の初歩)の文献の実数、極限、連続性等に関する部分」を受講生が輪読する 事により,この分野に関する理解を深める事を目標とする.この科目は,受講生による発表形式(黒板を使用)で行う ので、受講生が能動的に学習し発表内容を他の人に説明する能力を身に付ける事も目標とする. この分野の能動的な 学習を通して,数理科学的な思考力を養う事も目標である. 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します. 成績評価方法 文献輪講型、数理科学/解析学、実数,極限,連続性 授業のキーワード 教科書 授業中に指示をする。/Will specify at class time ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31504 火 4 宇宙・惑星・地球物理学の進め方 笠原 慧 理学部 E41 教室 授業の目標・概要 地球惑星科学が対象とする分野は地球の内部から太陽系外の宇宙空間まで、多岐に渡ります。なかでも気候変動や宇宙・ 惑星のトピックはニュース・テレビ番組や科学雑誌でしばしば取り上げられるため,中高生でも科学好きであれば「現 象論的な知識」を得る機会は多いでしょう。ところが、報道内容のような結論がどのような「観測根拠」と「推論過程」 で導かれたのかについては、理解されていないことがほとんどです。これら観測根拠や推論過程は、発見の事実に比べ たら地味で小難しい内容であることが大抵ですが、これらこそが科学を科学たらしめている本質です。惑星探査プロジ ェクトのような 100 億円超の大型予算を要する研究計画も、こうした理学的議論に立脚して形成されていきます. 本ゼミでは、こうした観測データと物理の基本法則に基づいた科学的議論を体験します。前半は気候変動に関するデー タ解析、後半は、宇宙・惑星探査の計画立案を扱います。 (1) 気候変動 エルニーニョ現象は、東太平洋赤道域の海面水温が、平年よりも暖かくなる気候変動現象である。この現象が発生す ると、世界各地に異常気象を引き起こすことから、活発に研究が行われている。本ゼミでは、いくつかのグループに分かれて、エルニーニョ現象に関するデータ解析を実際に行い、得られた結果に関する考察を行う。 【テーマ例1】温暖化に伴い、エルニーニョ現象は、どのように変化するのだろうか?気候変動に関する政府間パネル (IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change)」が利用した大気海洋結合モデルによる温暖化実験の結果の解析を 行うことにより調べる。 【テーマ例2】エルニーニョ現象は太平洋熱帯域で発生するが、同様の現象が、インド洋や大西洋でも発生するのだろ うか?インド洋や大西洋の海面水温データ等を解析することにより、他の現象について調べる。 得られた結果は、レポートにまとめる。また、他のグループの学生が執筆したレポートのピアレビューを行う。 (2) 宇宙・惑星探査 複数のチームを作り、それぞれ過去の宇宙・惑星探査の調査、および将来探査の提案プレゼンテーションを実施する。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 講義・輪講・理論実習、気候変動・エルニーニョ現象、宇宙・惑星探査、探査ミッション、観測、データ解析 教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 私たちの身近にあるワンパクな 火 4 新井 博之 農学部 31518 K302 タンパク質を科学する 授業の目標・概要 生体内で起こるほとんどすべての生命現象はタンパク質を必要としています。タンパク質はアミノ酸が連結した高分 子ですが、その配列によって機能が異なります。例えば、物質輸送にかかわるタンパク質、貯蔵にかかわるタンパク質、運動に必要なタンパク質、生体構造を維持するタンパク質、生体防御にかかわるタンパク質、情報を伝えるタンパク質 などが存在します。我々は、これらのタンパク質を取り出し、食べることによって栄養素として、あるいはいろいろな 産業応用をして、実生活に役立てています。そこで本講義では、私たちの身近にある興味あるタンパク質を選び、性質 やその利用法を考えると同時に、その重要性を体験し、この経験をもとに、他の人達に、そのタンパク質の重要性を納 得してもらうツールを作ることを目標とします。 【授業の目標】 ・グループワークを通じて、集団での問題設定、情報共有、討論、役割分担などコミニュケーションスキルを身につけ ます。 ・自分たちの知りたい科学情報を検索する手法を習得します。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 (この講義での個別評価基準) 自分で考え、自分で課題を見つけ出す。 授業のキーワード 問題発見・解決型、生物/タンパク質、グループワーク 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第 1 回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス

13 1 70 = 17	7. (11)				
31538	火 4	人間行動のメカニズムを科学的に探る	植田 一博	情報・図形部会	K301
		―創造性と意思決定を例にして―	横山 ゆりか		
授業の目標	· 概要	人間行動のメカニズムに関する科学的関心が、学的研究の両者を結ぶ研究テーマを企画するこ第 I 部では創造性の向上が現代社会の様々な象にして研究テーマを考える。実際に企業・研究その背景にある研究を探索する。探索を通しての手法を参考にして実証研究を企画することをまた第 II 部では、日常における判断と意思決定の実験を体験し、実験に不可欠な続作成する。前半より踏み込んだかたちで、実際	とを試みる。 場面で課題となっているこの 究所で行われている創造性向 最終的には自分の実証したい 目標とする。 定を対象にして研究テーマを で計について学んだあと、統語	とを学び、創造性を高める 上のためのオフィス環境 い新しい研究テーマを見っ を考える。認知科学分野で 計処理を念頭に入れた自分	る環境デザインを対 改善の事例を見て、 つけ、探索した研究 で行われている判断
成績評価方 授業のキー 教科書 ガイダンス	ワード	初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価(この講義での個別の評価基準) 日常的な出来事から研究のテーマを見つけ出し 論文読解・問題発見・研究企画、認知科学、環 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	、科学的検討のプロセスに 環境心理学、心理学実験・フ		ψ̈́γ
31539	火 4	月を見よう	小河 正基	宇宙地球部会	E35 教室
授業の目標 成績評価方 授業のキー 教科書 ガイダンス	法 ワード	近年、再び人工衛星による月の探査が計画され 究所の KADIAS というホームページで公開さ の分布データを見て、月とはどのようなところ にはどのように見えるかを論ずることを希望す 班ごとにレポートを提出することが前提。その 月、リモートセンシングデータ、地形、化学組 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	れている、リモートセンシンのお考察する。ネットで得られている。作業は 4-5 人程度の班は 2-5 人程度の班は 2-1 大きない。 対象で、出席して実際に作業を 対象では、重力、磁場	ングで得られた地形や地え れる情報に振り回されるこ こ別れて行ってもらう。	表面の化学組成など ことなく、自分の目
31458	金 1	麻酔の科学:意識・痛み・生体情報 管理を考える	伊藤 伸子	医学部	K501
授業の目標では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	法 ワード	概要: 外科手術を安全に行うために麻酔は不可欠でありもの言えぬ患者の手術を安全に遂行し再び目電子制御された医療機器が駆使されている。しは未だ未解明なことが多い。私たちの身近にあを探りながら、科学的思考の習得を目指す。目標: 学術的知見から科学的思考プロセスを学ぶ未解決の問題を発見し研究計画を立てるグループワークを通じて、情報共有、討論、役初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価対策解・問題発見・解決型、麻酔、痛み、教科書は使用しない。/Will not use textbook第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	目を覚まし感覚を蘇らせるたっかし意識と痛みの本質・薬剤のる痛みへの対処法や麻酔をと は割分担など、コミュニケー 所します。 神経科学、発達、リスク管理	めに、麻酔科医は様々など 割による意識への作用・病めぐる問題について、歴5 シップスキルを身につけ	生体情報を監視し、 痛みへの作用の全容 史や現在までの結論
31482	金 1	東京の街を歩き、その空間について 考える	廣井 悠	工学部	114 教室
授業の目標 成績評価方 授教科者 ガイダンス	法・ワード	本授業は、フィールド体験型ゼミナールとして 握しながら魅力と課題を発見し、それらを表現 街とも言える駒場キャンパス及びその周辺をフ した情報に基づく空間の特徴の把握、魅力や誤 いった一連の作業を7名程度の少人数グルーフ その魅力について発表を行います。そして、小 出席点、平常点(授業における貢献度)、個人課 キャンパス、街、資料収集・分析、現地踏査、 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	計る力を養うことを目的と フィールドに、現地踏査と情報 関連に関する討議と整理、整理 プで行います。次に、個人で、 人数グループで「東京の魅 題・グループ作業の成果物 発表、グループ作業	しています。授業では、3 報収集(写真撮影、寸法浪 理した内容の表現・発表 東京の街を歩き、魅力的	まず、1 つの小さな 定、観察等)、収集 (大判ポスター) と な街を3ヶ所選び、
31483	金 1	ロケット工学から見た深宇宙探査	小泉 宏之	工学部	K301
授業の目標成績評価方授業のキー教科書	法 ワード	実際にやること: 1.目的地を知る(文献調査) 2.行く方法の設計(打上げロケット選定,文推進剤質量の計算,ペイロード最大化)初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価解決型(深宇宙ミッション立案)、宇宙工学、次の教科書を使用する。/Will use the following 書名 宇宙はどこまで行けるか 書名 (訳者) 小泉宏之 出版社 中央公論新社 ISBN 4121025075	fiします。 深宇宙探査、軌道 g textbook	- 昇析計算,軌道の数値計算	、エンジンの選定,
ガイダンス		- 男工町授業目に付り。カオタンス数至について	は杨小似寺で貴知する		

初年次ゼミナール理科 社会シミュレーション入門 工学部 和泉 潔 31484 K201 金 1 ※後半の数回分(グループワーク)を6月土曜日の午後に本郷キャンパスで行う予定です。 授業の目標・概要 履修希望者は上記日程の都合が合うことを確認して下さい。 ●社会現象のモデリング&シミュレーションにより「答えのない問題を解く力」を身につける •「研究の基礎的な流れ」を学ぶ (授業の概要) 現実社会では正解がない問題、答えがひとつとは限らない問題、解法の指針がわからない問題が数多く存在します。実 際に社会に出た時、そういった問題に向き合うためには、自ら考え仮説を立て検証する「仮説検証能力」が必要となり ます。 本授業では、仮説検証能力向上のアプローチとして、社会現象を対象としたモデリング&シミュレーションの技術を学 びます。特に、現実社会では実験が難しい事象について、コンピュータを用いて検証を行う技術を身につけます。 エージェントと呼ばれる社会の中での個人のような働きをするプログラムが多数集まって社会現象を再現するエージ ェントシミュレーションという技術を学びます。 また仮説検証能力は、学術研究分野において重要な基礎であり、モデリング&シミュレーションの考え方は、今後研究 活動を始めるにあたり効果的な事前学習となります。 (授業の目標) - プログラミング言語の習得だけではなく、現象をモデリングするスキルを身につける。 - 実際の研究・開発の流れを学ぶ。 - 社会経済現象に関するデータを解析しモデルを構築する工学的手法を学ぶ。 - モデルを用いた計算機シミュレーションから、予測・制御・設計を行う手法を学習する。 - シミュレーション言語を用いた、社会現象のマルチエージェントモデルの作成を行う。 - グループワークを通して自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することでプロジェクト実施時におけるコミュ ニケーション能力を養う。 成績評価方法 出席と通常講義での課題・発表及び最終レポートで評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、システム科学、社会シミュレーション、モデリング 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 金 1 高エネルギー宇宙物理学の幕開け 馬場 彩 理学部 516 教室 31505 宇宙物理学は、人類が空を見上げた時に始まった最初の学問の一つである。それ以来数千年、人類は「宇宙は冷たくからっぽで静かな世界」だと考えてきた。しかし 20 世紀に入り、膨張宇宙の発見とともに人類の世界観を変えたのが、 授業の目標・概要 天体からの X 線やニュートリノの発見であった。これらは天体が超高温・高エネルギーでなければ発することができ ず、宇宙には高エネルギー現象が満ち溢れていることがわかってきた。 本講義では、最初に「X線宇宙物理学」に焦点をあて、どのような経緯でこの分野が始まり新しい知見を得たか、検出技術や天体物理を交えながら理解を進める。その後、グループごとにサブテーマを決め、正確に、かつ分かりやすく説 明する。 グループごとの議論とその発表をもとに行う 成績評価方法 授業のキーワード 高エネルギー宇宙物理学、X線宇宙物理学、素粒子物理学 プリントを配布する。/Will distribute handouts 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 分子の世界への招待 理学部 31506 金 1 磯部 寛之 E39 教室 授業の目標・概要 Central Science とも称される「化学」の成り立ちについて学ぶ。データベース検索などを活用し、知識が形成される過 程を、学術論文を中心として学生自身が主体的に学び取る。また、学んだことをグループ学習によるプレゼンテーショ ンにより他者にわかりやすく伝える体験を通して、プレゼンテーションに関わる技能を学ぶ。化学の分野を題材にしな がら、科学一般の基礎となる学術的スキルを実践的に習得することを目標とする。また、1 コマは本郷の研究室にて有 機化学の最前線の研究現場を見学し、関連する化学実験を体験する。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 論文読解・演習型、化学/有機化学、少人数ゼミ、化学、情報検索、プレゼンテーション 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 書名 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31523 金 1 薬学を支える基盤技術の役割と貢献 前田 和哉 薬学部 K401 授業の目標・概要 授業の目標、概要:新薬を開発するためには、少なくとも十数年に及ぶ研究期間と莫大な研究開発費を要します。創薬 研究のプロセスは、探索研究、開発研究、臨床研究に大きく分類され、それぞれの研究段階において多くの研究分野が 創薬を支えています。本授業においては、分子の細胞内動態・機能を明らかにする蛍光イメージング法、薬のターゲットであるタンパク質の立体構造を明らかにする X 線結晶構造解析や核磁気共鳴法、薬物が投与された後の体内での薬物の挙動を明らかにする薬物動態を取り上げ、これらの技術が創薬においてどのような役割を果たしているのかを論文 読解やグループワークを通して理解します。授業で取り上げる技術をはじめとする様々な創薬基盤技術の今後の可能性 をグループで調査・議論し、プレゼンテーションを行います。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 情報収集・問題解決型、物理系薬学、蛍光イメージング、X線結晶構造解析、核磁気共鳴法、薬物動態 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

31540	金 1	フューチャー・オブ・マインド	坂口 菊恵	教養教育高度化機構	K302
授業の目標		脳機能や身体運動のイメージング技術の普及とことにより機器を操作したり、思考をデータ化今後の急速な発展が見込まれている。また、気どこにあるのか、膨大になる情報のヒトによcomputer(machine) interface やニューロフィード本授業の前半では、近年の情報処理技術の進展変えつつあるかリサーチして発表する。後半では、簡易的なウェアラブル脳波計を用いスにアップロードし、分析結果を図示したり、	して他者に送ったりといっ 同的作業の多くを AI により る処理能力を上げるにはと ババックがひとつの解として 長がどのように社会実装され 、コンピュータからセンサ	たSFのような技術の基礎)代替できるようになったり ごうすべきかへの関心が高 に提示されている。 れ、神経科学や教育、社会 ナーデータにアクセスして	は既にできており、 場合、教育の価値は まっており、Brain- ンステムのあり方を クラウドデータベー
成績評価方	法	ることをめざす。 習得しうるデータや現時点で各自が利用できか、発想を重視する。 問題発見解決・データ解析型、心理学/情報、			
教科書 ガイダンス		ータ、IoT 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室について		A TO THE PROPERTY OF THE PROPE	

/ ルー / 5	1 年 5	里一(21,25,27,30-32)理二三(1-3,5,11,13,21)							
グループ 5 1年 理一(21,25,27,30-32)理二三(1-3,5,11,13,21)									
時間割コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室				
31456	水 2	スキンケア研究を通して健康科学 研究手法を学ぶ	春名 めぐみ	医学部	E39 教室				
授業の目標 成績評価方 授業のキー 教科書	法	本講義では、実際に研究計画の立案・研究調査学の研究とはどのようなものなのかを学びますこの講義を通して、研究とはどのようなものな悪い」「効果がある・効果がない」とはどのよう考えることで、どのように情報と向き合えば良標とします。初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価問題発見・解決型、調査、研究、スキンケア、次の教科書を使用する。/ Will use the following	。 のかを身近に感じてもらうこ に検証していくのか、また いのかを理解し、研究方法記 します。 看護科学、健康 g textbook	ことはもちろん、世の中に 則定を通して測定誤差の原 倫についての基礎的な理解	ある「健康に良い 原因や対処について				
ガイダンス		書名科学の技法:アクティブラーニ著者(訳者)/ Author(Translator)東京大学教出版社東京大学出版会第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	校養教育高度化機構初年次教		恵編				
31485	水 2	工学×デザイン~ワークショップで 学ぶ理系のためのデザイン	村上 存	工学部	K501				
改善変価方		 ● 授業の目標 ・異なるテーマのワークショップを通して、も・グループワークによる問題設定、分析、アイ・デザインに必要な基礎的な工学的知識を身に ● 授業の概要 良いデザイン(設計)とは何でしょうか。それくなるような人にとって思いやりのある設計をる巧妙な設計を意味することもあるかもしれま本ゼミでは、グループワークによるワークショ要な方法を理解します。前半では、身の回りから、危険、非効率、分かの本質を議論します。そして、それらを「よい後半では、軽くて安全な構造物をデザインを体験しまいて議論します。初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価 	デア発想、プレゼンテーショウけます。 は、単に見た目が美しいだい指すかもしれません。あるいせん。この様に、ものづくりいっぱを通して、ものづくりいいにくい、使いにくいなど、リデザインに変えるアイデスとを目的に、パスタで橋す。最終回は、グループごと	ョンのプロセスを身につり けでなく、安全で、使いいは、シンプルな構造でし りにおける「デザイン」 こおける多様なデザインの の「困った」デザインを アを提案、プレゼンテー でを作るパスタブリッジコ	やすく、使うと嬉し 優れた性能を発揮する意味は多様です。 の観点と、それにより 関査・発掘し、問題 ションします。 ンテストを通じて				
授業のキーワード 問題発見 教科書 次の教科 書名 著者(訳者 出版社		問題発見・解決型、機械工学/設計、デザイン 次の教科書を使用する。/Will use the following 書名 科学の技法:アクティブラーニ 著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初	、力学、理論+実践、発想 stextbook -ングで学ぶ初年次ゼミナー。]年次教育部門・増田建・坂	ル理科					
31486 授業の目標 成績評価方		数学・物理をプログラミングで考えるより詳しくは以下のURLを参照http://pmp.eidos.ic.i.u-tokyo.ac.jp/コンピュータ(プログラミング)を使って、数解く方法を学びます。そうすることを通してブの動機・意欲が高まることを期待します。実際の問題をいくつか、例・テンプレートとして議論します。それと並行して、プログラミン発表しあう、発表会を行います。途中でも、グを行います。KOMCEEでグループごとに机を分出欠、授業への参加意欲など	プログラミング,数学,物理を て提示し,グループに別れて グの基本について,演習しま ループの間でのアイデア交換	を学ぶとともに,それらの て解法や,問題の発展形を ます.最後に,お互いが角 奥や進捗状況の共有のたる	の分野に対する勉強 ア一般化などについ ないた問題について か、適宜ミニ発表会				
授業のキー 教科書 ガイダンス	ワード	プログラミング、Python、物理シミュレーショ プリントを配布する。 / Will distribute handouts 第1回授業日に行う。ガイダンス教室について							

材料科学の最前線 南部 将一 工学部 31487 水 2 K402 『とても堅くて、どんな鋭い矛(ほこ)でも突き通せない楯』— そんな不可能を可能にする学問について考えてみましょう。実際,社会から科学技術への期待や要求の中には,不可能とさえ思えるほどの無理難題が多くあります。一般に 授業の目標・概要 は、強固な物質はしなやかな変形ができません。電気抵抗の小さな材料は電流をよく通しますが、高い電圧をかけられません。これらの全く異なる要求を両立させることはとても困難に見えるかもしれません。しかし、もし2つの相反す る要求(トレードオフ)を満たす物質が作り出せるとしたら・・・材料科学には、そんな一見すると不可能にみえる要 求を実現するという重要な使命があります。例えば、強くてタフな材料、低抵抗になったり高抵抗になったりする材料。 社会が求める機能を発揮させるように生み出された新しい材料(マテリアル)が、現代の技術革新(ブレークスルー) には重要な役割を果たしています。 本講義は、そんな最先端の材料科学について基礎を学びます。材料技術の進展によって、原子レベルに至る微細構造 を制御することが可能になりつつあり、所望の特性を持つ材料を自由に設計して創り出せる時代は、すぐそこまで来て います。この授業では、高強度材料や電子デバイス材料、医療用材料などの技術についての解説文を題材としながら、 いかにして相反する要求(トレードオフ)を克服する技術を生み出すことができるのか、その基礎を学びます。これら の実例を通じ、社会に貢献するための科学技術とは何かを体感してください。 【題材の例】 1) 超高強度材料を目指せ: 持続可能な社会を可能にするためには輸送機器の軽量化と安全性の両立が不可欠であり, 今までにない強くて伸びる新材料の開発が求められています。これを実現可能とするための、最先端の材料研究を調査 します。 2) 電流のオン/オフを変えられる材料とその仕組み:情報機器の頭脳となる集積回路では微細加工されたトランジスタ が何億個も並び、それぞれの材料中の電流がオン・オフと切り替わって動作します。どのようにこのスイッチを実現す るのか、最先端電子デバイスの材料と構造を調査します。 3) ハイドロゲルの医用応用:ハイドロゲルは、90%程度の水と 10%程度の網目状高分子から出来ています。その組成 は、生体軟組織と極めて近く、医用材料として注目を集めています。医用応用を行う上で、どのような材料設計が重要 になるのか、最先端の医用材料について調査します。 【 授業の目標 】 学術論文の構成を知り、学術研究を行ううえでの基礎を身につけます。調査・研究とグループ討議や研究発表を通じ、 学術的なコミュニケーション能力を身につけます。材料科学を題材にしながら基礎研究と最先端技術との関連について の実例を学び、科学技術が社会にどのように関わり、貢献することができるのかを議論し、理解を深めます。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 論文読解型、材料工学、構造材料、電子デバイス材料、高分子ゲル 授業のキーワード プリントを配布する。 / Will distribute handouts 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 初年次ゼミ 食糧生産の持続可能性を 高橋 一生 31519 水 2 農学部 E35 教室 考える 授業の目標・概要 地球上の全ての生物は資源を消費することによって生命を維持しているが、その資源は有限であるにも拘らず、多様な 生物と環境の調和によって形成される生命維持システムの働きで生物は今日まで生存してきた。しかし、その機能して いた生命維持システムは崩れ始めている。 現在、地球規模で人口爆発と砂漠化が同時進行しており、食料不足は極めて深刻である。一方、豊かな生活を求めて人類が作り出した物質が引き起こした環境汚染は陸圏、水圏、大気圏に及び、 他方で資源エネルギーを大幅に消耗した。このままの状況が続けば、人類社会の維持・発展は極めて困難になる。 本ゼミナールでは、人類生存にとって不可欠な食料生産について、その背景にある問題点を整理し、持続可能な食糧 生産について討論することで考えを深める。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します 成績評価方法 授業のキーワード 「問題発見・解決型」、「人口爆発」、「気候変動、「環境負荷」、「農業生産」、「水産資源管理」 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 教科書 ガイダンス 名黒 功 薬学部 水 2 薬学を支える生物学の役割と貢献 31524 K303 授業の目標・概要 薬学部では、生命現象の理解を究めつつ、最終的なアウトプットとして創薬を視野に入れた研究を行っています。生命 現象を深く理解するためには、生物を構成する最小単位である細胞のことを詳しく知る必要があります。そして細胞の ことを詳しく知る方法として正常な細胞と正常でない細胞を比較し、その違いがどこから生じているのか調べることは とても有効な手段です。数多ある病気の原因は各々ですが、究極的には特定の細胞の機能異常が病気を引き起こしてい るとみなすことができます。これはすなわち病気の原因を探ることが正常な細胞の本来あるべき姿を知る手がかりにも なることを意味します このゼミナールでは創薬の対象となりうる各種の病気やその発症原因について学習しながら、正常な細胞の姿の一端 を知ることを目的とします。さらにそれらの疾患を治療するためにはどのような戦略を取り、どのような創薬ストラタ ジーがあるかということをグループで考え、プレゼンテーションも行います。これらの作業を通じて文献やデータベー スの探索方法、グループディスカッションの仕方、わかりやすいスライドの作成・発表方法などの習得も目指します。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 論文読解型・問題解決型、生物学/薬学、細胞生物学、分子生物学、創薬、グループワーク 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

科学者を評価する・化学と生命科学の 31531 水 2 吉本 敬太郎 化学部会 KALS 境界を知る 授業の目標・概要 【はじめに】 皆さんの「化学」のイメージは、周期表や反応式、化合物名や成経路の暗記、さらにモル収支の計算など、覚えること ばかりで計算が面倒、泥臭い実験、汚い白衣のイメージ、、、 なんて方が多いでしょうか。一方、「生命科学」のイメージは、オートファジー、iPS 細胞、難病治療薬、遺伝子編集などのトピックスが最近メディアでも華々しく報道され、 非常に輝いて見えるのかもしれません。しかし、「化学」と「生命科学」はとても深くて密接な関係にあります。化学の 発展無しには生命科学の発展はありえません。 本授業は、「生命科学」の研究分野において「化学」が極めて重要な要素・学問であることを学び、皆さんに「今まで 知らなかった"生命化学"」に出会ってもらうことを大きな目的としています。さらに、研究者という職業について深く 知ること、また昨今話題となっている研究者のモラルについても考えたいと思います。研究者を公平に評価する"物差 し"を皆さんとディスカッションしながら考えていきたいと思っています。 研究者を評価する物差しや化学と生命の融合領域について考えるなかで、アイディアの出し方、グループディスカッ ションの経験を積んでいただくことを大きな目的としています。 【授業の概要】 以下の2テーマについて、グループワークを行います。 1) 研究者を評価する物差しや化学と生命の融合領域について考える 2)「分子認識化学」「材料化学」「生命科学」をキーワードとする境界領域研究について考える グループディスカッション後、発表・討論することを最終的な目標として設定しています。このための事前準備(議論、 提案、プレゼンなどの訓練)は、基本的には本講義内で行います。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 化学(材料化学・バイオマテリアル)、生命科学、メカノバイオロジー、幹細胞、学者・研究者、グループディスカッシ ョン 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 バイオミメティック・エンジニアリング シラバス参照 31546 水 2 砂田 祐輔 生產技術研究所 授業の目標・概要 生物の優れた仕組みに着想を得たモノづくりの新奇な企画提案を行う。 そのために, (1)生物の優れた機能を解明した研究,またはバイオミメティック・バイオインスパイアドというキーワードに基づ いて行われたモノづくり研究の過去の例を学ぶ(文献検索と読解、発表を通じた情報共有)。 (2) 小グループに分かれて、(1) で得られた情報などを参考に議論し、柔軟な発想で、生物の優れた仕組みに着想を 得たモノづくりの企画を考える (課題解決のためのグループワーク)。 これらを通じて, ・コミュニケーション能力を伸ばす。 ・プロジェクトを推進する時に、何が分かっていて、何が分かっていないのか、何が問題で、どうやったら解決できる のか、自分の頭で考える能力を身につける。 ・試行錯誤やプロジェクト推進の難しさと、計画性の重要性などを学ぶ。 ・自分の考えを、分かりやすく他人に伝え、情報を共有することで、新たなアイディアや知見を得るためのコミュニケ ーション能力の基礎を身につける。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 プロジェクト提案/企画提案、バイオインスパイアド、バイオミメティック 成績評価方法 授業のキーワード 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科|テキスト 書名 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 環境科学のウソ・ホント 工学部 31488 金 3 片山 浩之 516 教室 授業の目標・概要 気候変動懐疑論をはじめとして、環境問題は生活に身近であることや健康との結びつきも強いことから、疑似科学(似 非科学、トンデモ科学)の対象にもなってきている。これまでにも多くの疑似科学的説明が世間で広く流布しているが、 それらのいくつかを取り上げ、説明としてどこに問題があるといえるか、どこは信用できるのか、班に分かれてのディ ベートなどを通して理解を深める。また、疑似科学の問題点を説明する論理力を身につけることは理系の学士の素養と して重要であり、科学的知見の発信作法の背後にある意味についても理解できよう。また、未知の分野を批判的に理解する道具をここで身につけ、科学的興味を広げることにつながることを期待している。 個人課題や発表の成果物に基づいて行う。討議等における積極性を考慮する。 成績評価方法 授業のキーワード 問題発見・解決型、環境問題、疑似科学、気候変動懐疑論、マイナスイオン、温泉 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

荒井 俊人 工学部 31489 物理のための数学ゼミ 全 3 K401 授業の目標・概要 大学で物理学を勉強するに当たり必要と思われる数学的知識をゼミ形式の演習と発表を通して理解を深めます。物理学 習得のための数学の初歩を学び、数学が実際にどのように使われているかを自ら調べ、調べた内容を他の受講者の前で 発表します。力学、電磁気学など、身近な物質の性質を研究対象としている物性物理学を中心的な題材としますが、そ れ以外の興味ある物理学のトピックに着目しても構いません。受講者を4,5名から成る グループに分け、各グループで 興味ある物理学のテーマを設定し、そこに使われている数学について解説したり、自分で関連した問題を作成して解法 を解説する形式で進めます。受講者間の討議や文献検索を通して内容をまとめ、それをプレゼンテーションによって他 人に分かりやすく伝える事を学びます。 成績評価方法 出席・演習の理解度・発表を総合して行う。 問題発見・解決型、物理学/物性物理学、物理数学、グループワーク、サイエンスコミュニケーション 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス やってみよう!化学を使った社会設計 工学部 31490 金 3 杉山 弘和 K501 本ゼミでは、化学の知識を活かして、身近な社会課題に解決策を提案するための手法を学びます。まず基礎知識を取得 授業の目標・概要 するために、以下のような演習課題を解きます。 ・エアコンの効率が100%にならないのはなぜか? (熱力学の応用) ・スイカを冷やすまでにどれくらいの時間が必要か? (微分方程式の応用) ・PET ボトルのリサイクルは環境に良いのか? (プロセス工学の応用) これを土台に、グループワークで以下のようなテーマに取り組みます。テーマ設定は自由です。 医療・医薬の問題 ・環境問題 ・エネルギー問題 本ゼミの狙いは、化学や関連分野の基礎知識をネットワーク化・システム化し、実際の課題解決に活用できるツールと して身に着けることです。教員やディーチングアシスタントの大学院生と密にやり取りするゼミを目指します。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 問題発見・解決型、化学・システム工学、演習・グループワーク、情報学、工学、モデル化・シミュレーション・最適 授業のキーワード 化. 教科書 次の教科書を使用する。 /Will use the following textbook 書名 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31491 金 3 データ分析を通じた将来予測 合田 隆 工学部 E25 教室 授業の目標・概要 データ分析とは現時点で入手可能なデータから(個別のデータにはあまり意味を持たない場合でも)重要な情報を抽出 することが目標であり、取り扱うデータの種類、性質、どのような情報を抽出したいのか、などに応じて適切な分析手 法を選択する必要があります。特に将来予測、すなわち現時点までの推移データから将来起こりうる推移を「外挿」す ることを目的とする場合、分析結果の少しの違いが予測幅に大きな変化をもたらします。 本ゼミナールでは、(あまり深く立ち入りませんが) 種々の統計的分析手法について文献調査・学習をし、その差異を理 解した上で、(興味のある事象についての) データ収集、適切な分析手法の選定と適用、結果の解釈とまとめ、という一 連の流れを体験してもらいます。データ分析への関心が高まることを期待しています。 成績評価方法 グループワークへの取り組みによって評価します。 問題発見・解決型、データ分析、数理統計 授業のキーワード 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 物理部会 31526 金 3 池上 高志 K302 From AI to ALIFE 昨今の人工知能ブームの根底にあるのはプログラミングである。レクチャーでは、複雑系や ALIFE(人工生命:細胞や DNA ではなく、情報としての、あるいはプログラムとしての生命)の研究を学ぶことで、昨今のプログラミングにベー 授業の目標・概要 スを置く構成論的な科学を習得する。そのひとつの表現としてのメディアアートを実践する。特に、サウンド・アート に重きを置いたプログラミングの技法を学ぶ。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 プログラムを通して考える科学とアート、」メディア・アート、アート、複雑系、プログラム、AI 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

植物の気孔はどのように動くのか? 31535 金 3 和田 元 生物部会 515 教室 気孔の動きから光合成を考える 植物や藻類が行う光合成は、光エネルギーを利用して水を酸化するとともに空気中の二酸化炭素を固定してでんぷんなどの有機化合物を合成するプロセスであり、地球上のほとんどの生物のエネルギーの源はこの光合成に由来している。この授業では、植物がどこで、どのように光合成を行っているのか、光合成のしくみについて講義を通してまず理解 授業の目標・概要 し、その上で、光合成の原料である二酸化炭素の取り入れ口である植物の気孔がどのように開いたり、閉じたりできる のか、その開閉の仕組みを、最新の研究論文の読解やグループワーク、プレゼンテーションを通して理解する。また、 理解したことを他人にわかりやすく伝え、お互いに情報共有することで、新たなアイデアや知見を得るためのコミュニ ケーション能力の基礎も身につける。さらに、気孔開閉の研究において、何がまだわかっていないのか、その未解明の問題を解くためにはどのようなアプローチがあるのか、具体的なアイデアを出して、今後の可能性について議論する。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価する。 授業のキーワード 論文読解、生物/植物、光合成、気孔、食糧問題/エネルギー問題、グループワーク 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 書名 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 歩行や走行など移動(locomotion)の スポーツ・身体 柳原 大 31536 金 3 K301 神経機構 運動部会 授業の目標・概要 【授業の概要と目標】 私たちの生命活動及び行動において、様々な身体運動のなかでもとりわけ歩行や走行(locomotion)はその基盤となりま す。本ゼミナールでは、歩行や走行が脳を含めた生体のどのような仕組みにより発現し、調節されているのか、また、 外部環境とどのように相互作用し、協調しているのかについて、実際の実験と観察を交えながら学習していく。グルー プ内で討議を行い、「参考資料及び文献の収集」、「問いあるいは仮説の設定」、「研究方法の設定」、「論述の組み立て」な どのアカデミックスキルを学ぶ。それらの内容はゼミナール時間中にプレゼンテーションします。これらを通して、仮 説から結論に至るまでの科学的な思考における基礎的な能力の習得を目指します。 【学術分野】神経生理学、運動生理学、計算論的神経科学、バイオメカニクス 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します 成績評価方法 身体運動、歩行、神経科学、脳、筋骨格、問題発見・解決型 授業のキーワード 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 教科書 書名 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 災害対策原論(情報技術、計測機器、 シミュレーション等を用いた次世代の シラバス参照 31547 金 3 沼田 宗純 生產技術研究所 災害対策を体験し研究する) 授業の目標・概要 開講場所:東京大学生産技術研究所 Be504 号室、フィールド演習 授業の目標、概要: 首都直下地震や南海トラフの巨大地震をはじめ現在発生が危惧されている大規模災害は、多くの人命や家屋に甚大な被 害をもたらし、我が国の経済や産業のみならず、人々の暮らしや価値観、社会の在り様まで、大きく変化させると考えられます。自然災害が頻発する我が国において、人命を守り、被害を軽減する防災は、国力を左右する重要な施策です。 しかし、現在の少子高齢化による人口減少や財政的な制約を考えれば、「公助」の拡充は望むべくもなく、国として「自 助」と「共助」を進め、災害対策を担える優秀な人材を社会の様々なセクターに配置することが必要です。 我が国では、これまでも一般の国民から政府まで、災害に対する様々な訓練や対策を行ってきました。しかし、2016年の熊本地震でも、自治体から住民までが、「混乱」や「機能不全」に陥り、十分に対応できない状況が各所で発生しました。これは、都道府県や政府、中央省庁においても同様であり、未だ改善の余地が大きいと言えます。このような状況を踏まえ、市町村、都道府県、国の行政職員をはじめ、国民各層の災害対応能力を高めるため、2018年 10 月、「災害対策トレーニングセンター」を開設いたしました。「災害対策トレーニングセンター、DMTC: Disaster Management Training Center」は、体系的かつ実践的な教育訓練を主眼に置き、東京大学生産技術研究所及び東京大学大 学院 情報学環を中心に、関係機関や学部、研究室及び一般財団法人生産技術研究奨励会の研究会に所属する企業各社 が協働し、我が国に適した具体的な災害対応訓練及び教育システムの標準化を研究、開発、提供するものです。同時に、 災害対応に関わる最新の知見、技術を集積し、効率的な災害対応としてトレーニングに反映させ、国内外に提示します。 将来的には、防災の優秀かつ実践的な人材の国際的な養成機関として、持続的な発展を遂げられるものとするととも に、人類を待ち受ける未来の様々な災害、困難な事象に対し、乗り越える知恵と技術を生み出せる人材を養成、輩出し、 社会に貢献します。 本授業では、DMTC が進めている災害対策の基本から情報技術、観測技術を活用した災害対策をマスターする。 これにより各種技術の取得だけではなく、災害対策のプロフェッショナルな知識が身に付く。 DMTC の WEB サイト: http://tdmtc.tokyo/ 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のタイプ:問題解決、課題解決、体験、学術分野(大分類/小分類)を記載:リスク、災害対策、情報技術、観測技 授業のキーワード 術、フィールド演習 次の教科書を使用する。 教科書 /Will use the following textbook 書名 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

グループ6 1年 理一(22.24.34-35.38)理二三(17-18.22-23)

グループ 6 1年 理一(22,24,34-35,38)理二三(17-18,22-23) グループ 6 1年 理一(22,24,34-35,38)理二三(17-18,22-23)								
時間割				,				
コード	曜限	講義題目	担当教員	所属	教室			
31492	水 3	未来医療工学	牛田 多加志	工学部	K401			
授業の目標 成績評価方 授業科書 ガイダンス	法 ワード	医療の発展はめざましいものがあるが、それはらなる将来の医療の発展を目指して様々な医療医療機器デザインの視点から、それぞれの基礎ループワークを進める。 出席、学習姿勢およびプレゼンテーション評価再生医療、組織再生、医療機器、デザイン、人教科書は使用しない。/Will not use textbook第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	養工学が現在,研究されてい。 禁知識,文献検索,医療工学打 情 、工知能	る. 本ゼミでは, その中:	から再生医療工学,			
31493	水 3	データ解析により予測する 2050 年の 世界の鉄鋼産業	井上 純哉	工学部	E25 教室			
授業の目標 成績評価方 授業の書 対イダンス	法 ワード	授業のキーワード「鉄」は3000年に渡り、私た多くの製品には鋼材が使われています。世界最材により作られています。これから先も、鋼材により作られています。これから先も、鋼材日本および世界の過去(1950-2015年)の様々な製品の寿命など)を解析し、鋼材消費量がどのら得た知見を基に、2050年までの世界の鉄鋼に初年次できナール理科の評価方法によって評価データ解析、マテリアル工学・産業エコロジー次の教科書を使用する。/Will use the following 書名 料学の技法:アクティブラーニ著者(訳者) 東京大学教養教育高度化機構初出版社 東京大学出版会第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	長の吊り橋の明石海峡大橋、 けが私たちの社会の基盤材料 なデータ(人口、経済発展(Cook ような因子と相関があるから 需要の予測を行います。 同します。 一、将来需要推計、環境制約 g textbook ニングで学ぶ初年次ゼミナー。 月年次教育部門・増田建・坂	東京スカイツリーなどのであることは間違いないであることは間違いない。GDP/人)、粗鋼生産量、鋼データ解析を行います。そ	Dランドマークも鋼 です。本授業では、 材の用途別消費量、			
31494	水 3	化学で健康長寿社会に貢献するには?		工学部	K201			
授業の目標では、大人では、大人では、大人では、大人では、大人では、大人では、大人では、大人	法ワード	健康長寿社会の実現は、世界の中でも高齢化がるには、医学研究者による病気の予防、診断、な先進医療を行うにはそれを支える医療を剥きない。これを遺伝子を扱う分子生物学の可欠となります。必要とされる性質や機能をもった「化学する製品を支え、健康的な生活をサポートする製品を支え、健康的な生活をサポートする製品を表していて、機能性分プローチーのでは、大きな性がである。オリジナリティの高分さい、場合には、は、ないのでである。大きな性がである方法を提案します。のでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでも、ないのでは、ないのでも、ないいのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでは、ないのでは、ないのでも、ないのでも、ないのでは、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでも、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのではないのではないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのではないのではないのではないのではないのではないいのではないいので	治療などの医療開発だけでん の開発が同時に求められるかれる を生みらな状況にするとなる。 を生みだすことが可社会となる。 を生みだすことが再社会になる。 を生みだすことを目標にするとなる。 を生かでするとをはないないない。 とないる人工血管にずるいないない。 世界でまだ誰も考えていない。 は、ナノ構造 にはます。 集合体、ナノ構造 をといるが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	は十分ではありません。7 らです。従って者は、「代けです。従っで不者は、「化学の研究者は、「化学をおす。とがです。といまる様々な、、「他学が、「他学が、」といいまる、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	なぜなら、このよう にでする。 にでする。 でおのみなのでです。 でおりでは、のででです。 では、このよう にでするです。 にいいいでするです。 にいいいでするです。 にいいいでするです。 はいいでするです。 にいいでするでは、 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいでするです。 にいいではいいです。 にいいでするでは、 にいいでするでは、 にいいでするでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、 にいいでは、			
31507	水 3	植物の多様性	川北 篤	理学部	K212			
授業の目標 成績評価 が授業科書 がイダンス	法 ワード	【授業の概要】 植物は芽生えたその地にとどまり一生を終えるません。それゆえ、環境、特に動物との相互作な植物においても、棘を発達させて物理的に被できますが、植物とそれを取り巻く動物との相本ゼミナールでは、野外で植物を直接観察す互作用に関する理解を深めます。前半では主に察を行い、観察の中で生じた疑問に対しアプロ【授業の目標】・植物の生態に関する観察方法を習得する・野外での観察から新たな問題を発見するアロスイールド体験及び問題発見・解決の複合型、プリントを配布する。/Will distribute handouts第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	用は植物の進化に重要な影響を防衛を免れる、種子や花料百年用には未知のことが多ることにより、植物の種や肝種や形態の多様性をテーマは、一チしていく方法を習得してなる経験する「します。 生物学/植物、野外観察、多	響を及ぼしてきたと考えらかを動物に運搬させるなる く残されています。 く残されています。 ら態の多様性、また植物を こ、後半では動物との相互 ます。	られています。身近 ど多様な適応が観察 と取り巻く生物間相			

理学部 生命を分子・情報から読み解く 飯野 雄一 E39 教室 31508 水 3 授業の目標・概要 2008 年のノーベル化学賞の対象となったのは下村脩博士らによる緑色蛍光蛋白質 (GFP) の発見とその応用であった。 緑色蛍光蛋白質は生物学や医学の研究を塗り替え、いろいろな生命現象を目の当たりに見ることができるようになっ た。本ゼミナールでは緑色蛍光蛋白質がどう見つかりどう使われているか、実際の観察を交えながら学習し、今後どう いう可能性があるかについて各グループで調べながら考察する。さらに、生命現象を支える分子についての理解をふまえ、ゲノミクス、バイオインフォマティクス、システム生物学などそれらの全体像を捉える生物情報科学分野の近年の 進展とその社会との接点(合成生物学、個人ゲノム解析、遺伝子検査など)に関して考察する 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 問題発見・解決型、生物学/分子生物学、生物学/生物情報科学、生命現象のしくみ、蛍光蛋白質(GFP) 授業のキーワード 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 書名 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 「食の問題」を科学者目線で考えよう 農学部 E35 教室 31520 **水 3** 中嶋 正敏 都市生活者の我々とって、農産活動を身近な存在として意識することは少なく、食料(食品)を消費する者としての立場で極めて間接的に農業と接しています。現在の我が国の食料消費においては、肥満や廃棄ロスなど過度な食の摂取にまつわる問題と、拒食や「こども食堂」など食の摂取不足にまつわる問題とが併存しています。世界的にも飢餓と飽食 授業の目標・概要 が発生しており、食料供給体制のアンバランスを招いている状態となっています。他方、農産活動のための様々な技術 的革新は、こうした食料問題や資源環境問題を考える上で重要であり、私たちの日常生活にも少なからぬ影響を及ぼし ています。この授業では比較的身近な情報を用いて、自分たちの日常生活で発生している様々な視点から「食の問題」 に目を向け、その解決に向けた方向性や具体的対策を自主的に学ぶことを目指しています。 成績評価方法 基本的には発表および質疑応答の出来映えにより行います。なお、毎回の授業出席を前提とした班としての行動を求め ていますので、班内での作業進行に遅延が生じるほど頻度の高い欠席は評価を下げます。また、途中回において小課題 を設定した場合は、それも評価に含めます。 問題発見・解決型、生物/主に植物 (動物なども含む)、食料生産、人口増大、飢餓・飽食、気候変動 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 数式の可視化・直感的理解・訴求力 物理部会 E38 教室 31527 水 3 齋藤 晴雄 目標1 数式を含む定理、法則について可視化を用いた説明の能力を身に着けること 授業の目標・概要 目標2 定理、法則の意味を他者に分かるように伝える能力を身に着けること 目標3 授業で取り扱わなかった定理、法則については、自分の理解のレベルが自分で判断できるようになること。 高度情報化社会の中で、我々に求められる「知」の形が変化しつつあるということがしばしば語られています。一方、 理系学問の骨組みであり、主要言語でもあるところの「数式」については、社会の中での受け取られ方にまったく変化 が見られません。 高度情報化以前も以後も、一般社会の中での「数式」は、まったく意味不明なものであり、敬遠すべきものの代表格と されています。一方、その意味を理解するものにとっては、「数式」には深い意味があり、物理では世界観の一部をなし ています。しかし「数式」の意味を理解していると自負している「専門家」はともすれば、本来の意味を超えて使って しまいがちで、それが再び一般社会での敬遠傾向を強め不信を招いているようです。 このように、「数式」をとりまく状況は、社会の高度情報化の影響を今のところまったく受けていないように見えます。 したがって、もし1年生の皆さんが、数式の意味を正確に他人に伝達する能力を 身に着けたとすれば、それは今後の皆さんの人生にとって、大きな武器となる可能性があります。言い換えれば、AI では代替できない仕事が出来るようになる、ということです。 この授業では、数学の定理や物理法則をテーマとして選び、それを他人に分かるように説明する方法を皆さんに考え てもらいます。その際「可視化」が重要な方法となりますので、多少のプログラミングが必要になります。もちろん「可 視化」以外の視点も必要になるでしょう。 遅刻、欠席は厳禁です。 複数回の「達成度アンケート」を行いますが、これはテストでは 成績評価方法 ありませんので、回答内容が成績に影響することはありません。 授業の性格上、学力的な達成度でなく、努力の度合いを評価します。 原理解明・伝達型、「数学」「物理学」、定理、物理法則、可視化、プログラミング 授業のキーワード 教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 31528 水 3 相対論について考える 酒井 邦嘉 物理部会 K302 授業の目標・概要 (授業の目標) ・サイエンスにおける問題発見と解決方法の基礎を学び、結論だけでなく科学者の思考過程そのものを理解できるよう ・「科学発表の3原則」である、「正しく、分かりやすく、短く」を心がけて実践に生かせるようになる。 ・自ら問題に取り組みながら科学研究に必要な「論理的な思考力」を磨くことで、学問の進め方の基礎を身につける。 (授業の概要) 物理学の発展の歴史に相対論を位置付け、アインシュタインの仕事を通して発見の軌跡を自分たちで追体験します。ま た、科学研究の成果をいかに正確に、そして分かりやすく伝えるかを重視して、議論や発表の基本を学びます。小グル - プ分けによる協調学習を通して、論理的な思考力を深めることを目指します。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、物理学/物理一般、アインシュタイン、相対論、科学の基礎 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 『高校数学でわかるアインシュタイン』 書名 著者 (訳者) 酒井邦嘉著 出版社 東京大学出版会 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス

初年次ゼミナール理科 化学部会 分子の形を知り、物質をデザインする 真船 文隆 水 3 31532 K501 授業の目標・概要 (授業の概要) 水分子が、1個の酸素原子と2個の水素原子からなり、折れ曲がった二等辺三角形のかたちをとることはよく知られて います。このように非常に小さな分子の構造はどのようにして決定されたのでしょうか。本初年次ゼミでは,この疑問 から出発し、分子の形がどうすればわかるのかを調べ、なぜわかるのかを考えてもらいます。具体的にどのような測定 データにもとづき分子の構造が決まるのかを、様々な文献やデータベースにもとづいて調べます。そのあと、それぞれ 1個の元素を選び、その元素のもつ特徴を明らかにしながら、どういう物質を構成しうるのかを考えます。授業の進行 は、4、5人のグループで行い、グループ毎にテーマを設定してもらいます。グループ中で様々なアイデアを出しても らい、また議論してもらい、最終的にグループ毎にまとめた結果を発表してもらいます。 (授業の目標) 1. 分子のかたちはそうすればわかるかという素朴な問いから、この疑問を解き明かすというアカデミック体験をして もらいます。 2. グループごとに1つの元素を選択し、その元素からどのような物質ができそうかを考えます。 3. 問題を解決するにあたって、グループワークをしてもらい、お互い疑問点を出し、議論し、分からない部分は教え 合いコミュニケーション能力を身につけます。 4. 最終的に自ら設定した課題について、その結果を発表してもらい、プレゼンテーションの能力を身につけます。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価する。 成績評価方法 授業のキーワード 化学、原子・分子、構造、分光学、スペクトル 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 ガイダンス 移植医療と国際診療~臨床医療の 医学部 田村 純人 31459 金 4 K303 グローバル化について考える 「グローバル化」はこれからの日本を担う若者にとって避けて通れないキーワードである。戦後復興の象徴としてオリ 授業の目標・概要 ンピック・万博が開催された時代から、半世紀が経過レグローバル化は情報技術の発達と市民社会への浸透も相まって、 あらゆる面で大きく進み、その影響は広範に及んでいる。 国民皆保険制度による日本の医療もまた、この変化とは無縁ではない。国境に制約される医療制度と、グローバル化に よる人の移動の拡大の影響の、いわば、せめぎあいが「医療のグローバル化」の姿である。国民皆保険制度が極めて発 達し強固に守られてきたところに、新たな社会発展の基盤として国境を越えた人の往来の活性化が政策となり、医療も その発展の一翼を担うことを期待され、政府主導による対応が急速に進められているところに今の日本の特徴がある。 「日本の医療は素晴らしい」、イメージだけをもとに、「医療のグローバル化」の中で躊躇なく訪日を選択すると期待 する向きもあるかもしれない。しかしながら、そう簡単ではない。日本の医療の強みは有機的な医療システム全体にあ り、ジャパンブランドのみで医療を分かりやすく国外に発信するのは意外に難しい。 移植医療を例にとってみてみると、技術的にも臨床成績の上でも、世界に冠たるものがあり、臓器移植に必須の免疫抑 制剤の開発をはじめとする研究業績もすぐれている。一方で、移植医療は患者個人で完結するものではなく、ドナーの 存在が不可欠であり、成立には通常の医療資源とは異なるレベルでの社会的合意が必要である。マーケットフォースに よるグローバル化が今後も情け容赦なくすすむ中で、倫理観と戦略のバランスを図り、発展の途を探ることが求められ る。 オリンピック前に開講される本プログラムを通して、移植医療を題材に、臨床医療をグローバル化というキーワード で捉えたときにあらわれる課題を共に考える過程を通じて、次の万博が開催される頃には社会に巣立っているであろう 学生に、各々の分野の現場で「グローバル化」を咀嚼するスキルをみつけて頂きたい。 成績評価方法 評価については、点数化はせず合否のみ 移植医療、臓器移植、組織移植、国際診療、臨床医療、グローバル化 授業のキーワード

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

工学部 31495 金 4 社会のためのロボティクス 山下 淳 K201 授業の目標・概要 (授業の概要) 医療・福祉・生産から極限環境調査や災害対応まで、さまざまな現場でロボット技術(Robot Technology)が活用され ています。 本授業では、ロボットについて初めて学ぶ学生のために、世界の第一線で活躍中のロボット研究のトップランナーた ちが、社会とロボットの関わり、社会のための最先端ロボット技術について解説します。また、文献調査、グループ討論、プレゼンテーション実習などを行い、社会のためのロボット技術に関する理解を深め、ロボットの役割について考 えます。ロボット実習では、実際のロボット技術に触れ、最新のロボットについて学習します。更に、これらの体験を 通じて学習した内容に関してプレゼンテーションやグループ討論を行い、科学技術に関するコミュニケーション能力の 向上を図ります。 ロボティクスは、精密工学、情報科学、機構学、運動学、制御工学、計測工学、人工知能などの幅広い内容を含む総合 的な学問です。 授業を通じてロボットに関する基礎知識を身に付け、ロボット研究の奥深さや面白さを感じとって下さい。また、社 会とロボットの関わりについて、考えてみて下さい。 本授業はきっかけを与える入口です。自分から積極的に情報収集をすることにより、ロボットに対する理解と興味が 更に深まることでしょう。 (授業の目的) ・社会のためのロボット技術に関する理解を深め、最先端ロボット技術に関する知識を身につけます。 ・ロボット実習の結果を解析し、そこから導かれる結論を論理的かつ客観的に考察する力を身につけます。 ・自分の考えを他人に分かりやすく伝える科学技術プレゼンテーション能力と、他人とディスカッションを行うコミュ ニケーション能力の基礎を身につけます。 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 問題発見・解決・実験データ解析型、工学・情報科学/ロボティクス、ロボット技術、ロボットと社会・人間、ロボッ 授業のキーワード トと医療・福祉、ロボットとサービス 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 書名 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 出版社 東京大学出版会 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 工学部 数学・物理をプログラミングで考える 31496 山崎 俊彦 K401 金 4 授業の目標・概要 昨年までの講義の様子は以下の URL を参照 http://www.eidos.ic.i.u-tokyo.ac.jp/~tau/lecture/programming_math_physics/ コンピュータ(プログラミング)を使って、数学や物理の問題、実世界の問題を数学や物理の言葉で定式化した問題を 解く方法を学びます. そうすることを通してプログラミング, 数学, 物理を学ぶとともに, それらの分野に対する勉強 の動機・意欲が高まることを期待します. 実際の問題をいくつか、例・テンプレートとして提示し、グループに別れて解法や、問題の発展形や一般化などについ て議論します.それと並行して、プログラミングの基本について、演習します.最後に、お互いが解いた問題について 発表しあう、発表会を行います、途中でも、グループの間でのアイデア交換や進捗状況の共有のため、適宜ミニ発表会 を行います. 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード プログラミング、Python、微分方程式、シミュレーション 教科書は使用しない。/Will not use textbook 教科書 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

電子回路で学ぶモデリング手法 三田 吉郎 工学部 31497 金 4 E38 教室 授業の目標・概要 本ゼミでは、凡そ理科を志す者にとって必須のスキルとなる「未知の現象を正確に観察、定量化し、 モデルを立てて振 舞いを理解する」作業を、具体的な電子回路を例にとってわかりやすく学習し、身に付けることを目的とする。 本講義では、学生の理解の進捗を注意深く観察し、講義・演習の長短を含め柔軟に対応する。 学習する回路の例: (0)実験設備製作体験 (1)線型な回路、非線形な回路(スケールの議論) (2)振動する現象 I(定常状態) (3)振動する現象 II(過渡的応答) (4)能動素子の考え方 (5)增幅回路 (6)発振回路 (7)変調復調回路(AM 送受信機) (8)その他の素子(MEMS 等) 身に付けらるスキルの例: (あ)現象を数式で表現して理解する手法 (い)スケール(ログ、リニア)を変えた特性の評価 (う)周波数領域での事象の理解 (え)時間領域での事象の理解と周波数との関連性 (お)線形化による見通しのよい特性理解 (か)電気系で使用する様々な器具に触れる(テスタ、オシロスコープなど) 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 講義と演習、工学/実験による現象理解、電子回路、線形回路、非線形回路、線形化 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 科学の技法:アクティブラーニングで学ぶ初年次ゼミナール理科 書名 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 理学部 31509 金 4 地球環境と生命 板井 啓明 E39 教室 授業の目標・概要 この授業では、地球の表層における物質の循環プロセスと、その生物との関わりについて学習します。地球表層は、大 気・海洋・土壌など性質の異なるシステムから構成され、物質循環の解析法はシステムごとに特徴があります。これら 環境中の化学および微生物生態に関するとトピックとして、環境汚染物質・放射性物質、生物多様性保全などを題材に グループワークを実施し、環境動態・生体毒性・環境浄化などに対する異なる視点を共有します。その後、文献調査・ データ解析を通して問題解決法について洞察します。授業を通じ、以下の目標を達成します。 ・地球環境における物質循環要素を理解できるようになる。 ・環境・生態系を対象にした基礎的なデータ解析ができるようになる。 ・環境汚染に対する理学・工学的視点を身につける 成績評価方法 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 授業のキーワード 問題発見・解決型、物質循環/微生物、グループワーク、微量元素、放射性物質、生物多様性 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 書名 著者 (訳者) 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。 「農と食と環境にまつわる社会調査 31521 金 4 八木 洋憲 農学部 K501 メソッドを学ぶ」 授業の目標・概要 このゼミでは、農業、食生活、環境といったテーマに関する社会調査メソッドを実践を通じて学びます。具体的には、 人々が農業や環境に対して感じるイメージ、農業政策に対する考え方、スマート農業や食料生産に対する考え方といっ た「意識」はいかなるものか、農業体験や農業支援、食生活、環境配慮といった「行動」や、これからの「意向」はど のようなものか、といった社会的な問いに対して、どのようにアプローチすればよいのか、いかにしてバイアスを排除 できるのか、あるいは、どのように関係性を導けるのか、といったことを学びます。ゼミの初盤には、農業、食生活、 環境に対する「社会的問い」について議論を通じて整理していきます。この際に、これまでの関連する研究について、可能な範囲で読んでもらいます。ゼミの中盤では、問いを明らかにするための調査設計を行い、実際に対象を決めて調 査を行います(なお,対象はゼミ生が実行可能な範囲とします。) 最後に,その結果をとりまとめて,プレゼンを行い, 議論を行います。以上を通じて、農、食、環境に関する実態を再認識するとともに、社会調査メソッドの意義や課題を 知り、その導入について経験することをねらいとします。 初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。 成績評価方法 授業のキーワード 実際の調査体験を通じて実践的に学びます、食料・農業・農村経済学、農業・食料・農村・環境・ITC、社会調査、プレ ゼンテーション 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 教科書 書名 科学の技法:東京大学「初年次ゼミナール理科」テキスト 著者 (訳者) 東京大学教養教育高度化機構初年次教育部門・増田建・坂口菊恵編 東京大学出版会 出版社 ガイダンス 第1回授業日に行う。ガイダンス教室については掲示板等で告知する。

31537	金 4	健康増進&スポーツパフォーマンス 向上のための食事学	寺田 新	スポーツ・身体運動部会	K301
授業の目標 成績評価キー 教科書 ガイダンス	法ワード	健康を維持・増進させたり、スポーツ選手のバる。書店では、そうした目的を達成する、 な情報が氾濫している。これらの情報のうち、に世の中に溢れている食事に関する情報とこれる。これらの情報を身につけることが必要とされてどのようなで構築されてきたのか?それらはとを目指す。これを表して食事法に関する新たな科学的理論を構築のような経過である。といて学ぶことを目標とする。初年次ゼミナール理科の評価方法によって学ぶことを目標とする。初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価文読解型/データ解析型、栄養学・スポーツ等次の教科書を使用する。/Will use the following 科学の技法:アクティブラーに著者(訳者)東京大学教養教育高度化機構を東京大学出版会第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	ための食事法に関す どれを信じをれる合いで、 で、それ、まずの 学的根ではない。 学的根ではない。 で、ないではない。 で、ないではない。 は、ないではない。 は、ないではない。 は、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	る書籍が数多く販売されており、かわからなくなったことはない。に考え、自分に当てはまる情報を中に広まっている食事に関するといるのか?ということについて自分でような実験を行ったらよいのか。ということについて考え、ポーツ科学で、ナール理科には、ボーツ科学は、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール理科には、サール・サール・サール・サール・サール・サール・サール・サール・サール・サール・	たいます。 はいます。 はいます。 を取きのではいます。 を取りではいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまする。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいま。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいま。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はいまな。 はな。 はな。 はな。 はな。
31541	金 4	身近な物理でサイエンス	松本 悠	教養教育高度化機構	K302
授業の目標	・概要	簡単な測定や実験データ整理・解析、ものづく性などを学んでもらいます。限られた材料・Jなどを自分たちで考案してもらいます。小グルを伸ばしてもらいます。 ・何かを研究する時に、何が分かっていて何か頭で考えることができるようになる・実験データの簡単な解析方法と、そこから導・自分の考えを、分かりやすく他人に伝え、情ミュニケーション能力の基礎を身につける	具・時間の中で、自 シーブに分かれ、議論 が分かっていないのか。 なかれる結論を論理的	由な発想をもって、問題発見と解による協調学習を通して、コミス 、何が問題でどうやったら解決なかつ客観的に論じる力を身につ	解決方法・実験方法ュニケーション能力できるのか、自分のける
成績評価方 授業のキー 教科書 ガイダンス	ワード	初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価(この講義での個別の評価基準)より良いデータ取得を目指して、独自性のある問題発見・解決型、データ解析型、物理、小実教科書は使用しない。/Will not use textbook第1回授業日に行う。ガイダンス教室について	、コストパフォーマ E験、サイエンスコミ	ュニケーション	良ができたか

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30554	S	法 I	西村 弓	法・政治	火 5	1331 教室	1年 文二 2年 文二

講義題目

法学入門―国際的視点から

授業の目標概要

この授業では法学を学んでいくにあたっての基礎的な思考方法を修得することを目指します。条文・判決文・学説等の法 学的テクストを厳密に読み、解釈する力を養うことがその目標の1つとなります。

具体的な素材は授業中に示しますが、現代においては国内社会と国際社会が相互に大きく影響しあっていることから、法

規律の国際的側面を中心に取り上げ、さまざまに生じている具体的な事案に即して検討を進める予定です。

評価方法 期末試験

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 特に行わない。/Will not conduct guidance

時間害コート	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30598	S	法I	白石 忠志	法・政治	水 1	900 教室	1年 文一 2年 文一

講義題目

法学入門

授業の目標概要

文科一類の学生が現代において法を学ぶための見晴らしを得るきっかけを、できるだけ幅広い範囲から提供することを 目標とします。立法・行政・司法などのいずれかに偏ることなく広やかに、漠然とした知識だけでなく実際に具体的な文 書等に接する経験も積み、また、外国との比較・交流・発信などの状況も紹介します。

授業開始時までにさらに授業計画を具体化し個人ウェブサイトに掲げる予定です。「関連ホームページ」に掲げたもので

すが、「白石忠志」を検索すれば見つかるでしょう。

1 冊だけの教科書に頼ることはなく、随時、参考となる書籍やネット上の資料等に言及し、その一部を配布するなどし

て皆で読みます。

評価方法

基本的には期末試験によって評価します。このほかに ITC-LMS 等で短文によるフィードバック等を求める場合がありま

すが、それらを成績に加味するか否かは、その都度、明瞭かつ公正に、教室や ITC-LMS 等で伝えます。

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 特に行わない。/Will not conduct guidance

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30599	S	法 I	弥永 真生	法・政治	水 1	1313 教室	1年 文三 2年 文三

講義題目

社会における法の役割

授業の目標概要

主として社会・ビジネスにおいて、法がどのような役割を果たしているのかについて、ニュース記事などを題材にして、 解説を加える。そのプロセスにおいて、法律学〔主として、私人間の関係を規律する私法〕の基本的知識を併せて理解し ていただくことを目的とする。

評価方法

グループ・レポート(1 グループ 5 人以内。ただし、1 人で提出することも認める)40 点、期末試験 60 点の割合で評価す る。ただし、授業中に発言を求めた際の的確な発言に対しては、当該学生に与えられたグループ・レポートの評価に、合

計の得点が40点を超えない範囲で、加点を行う。 教科書は使用しない。/Will not use textbook

教科書 ガイダンス 特に行わない。/Will not conduct guidance

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30148	S	政治 I	鹿毛 利枝子	法・政治	月 3	1313 教室	1年 文二 文三 2年 文二 文三

講義題目

比較政治学入門

授業の目標概要

政治学の基本的な概念や考え方を紹介する。詳細は初回の授業時に説明する。

評価方法 期末試験。

教科書

教科書は使用しない。/Will not use textbook ガイダンス 第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

	時間割	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
	コード	川川明	1X未行口石	担当教員	/刀/禹	唯欧	秋王	人 打到C
I	30149	S	政治 I	上神 貴佳	法・政治	月 3	743 教室	1年 文一 2年 文一

講義題目 政治学の基礎概念

授業の目標概要 本講義は政治学における基礎的な概念を紹介し、受講生が政治現象を理解するための一助となることを目標とする。とく

に、現代の政治を構成する中心的な原理としてのデモクラシーについて考察する。

評価方法 期末試験で評価する。

教科書 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook

書名現代政治理論 [新版]著者(訳者)川崎修・杉田敦編出版社有斐閣アルマISBN978-4-641-12454-7

ガイダンス 第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30150	S	経済 I	岡地 迪尚	経済・統計	月 3	1106 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目 経済学基礎

授業の目標概要 経済学の基礎として学ぶべき事項はミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学に大別される。本講義では、3つの分野の

エッセンスを広く浅く講義する。

評価方法期末試験。

教科書教科書は使用しない。 / Will not use textbookガイダンス特に行わない。 / Will not conduct guidance

時間	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
3055	5 S	経済 I	中西 徹	経済・統計	火 5	1323 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目 経済 I : 発展途上国における経済と社会

授業の目標概要 発展途上国の社会経済を対象として経済学の分析が有する意義と限界について検討します。

開発政策の原理とその歴史,および貧困層の経済行動を検討することによって,発展途上国の社会変動についての理解

を深めると同時に、これを補完ないしは代替する地域研究の役割について理解することを目標とします。

評価方法 原則として期末試験(レポート課題を課す場合にはレポートを含める)による。

講義初回に説明する。

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス 第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30151	S	社会 I	山本 理奈	社会・社会思想史	月 3	1225 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目 社会学入門――現代社会を考える

授業の目標概要 本講義の目標は、社会学の基礎概念および基礎理論を学ぶことを通して、「社会学的なものの見方」を身につけることに

あります。

まず講義の前半では、「社会とはなにか」という問いをめぐり、これまで提示されてきた社会学の古典的な基礎概念、および隣接学問領域の重要概念を学びます。つぎに講義の後半では、現代社会の基礎理論を学ぶことを通して、私たちの生きる現代日本社会とはどのような社会であるのかを考察します。

評価方法 定期試験を中心として評価を行います。

教科書 授業中に指示をする。/Will specify at class time

ガイダンス 第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30556	S	社会 I	小山 裕	社会・社会思想史	火 5	743 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目 社会学入門

授業の目標概要 現代社会の諸問題を念頭におきつつ、社会学の基礎概念と基礎理論を学習する。

評価方法 学期末試験を中心におこなう。

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス 第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

Н	時間割	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
3	コード	用册	1X未行口石	担当狄貝	/기/街	唯欧	秋王	≯13 €
	30557	S	数学 I	新井 敏康	数学	火 5	721 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目 数学 I

授業の目標概要 文科生向けに一変数関数の微分法と積分法に関する基礎的内容を扱う科目である. 社会科学に関連する題材を織り交ぜ、

数学的な概念を把握することに重点をおいて講義する. 講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが, 担

当教員によって順序は異なることがある.

評価方法 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある.

教科書 次の教科書を使用する。 / Will use the following textbook

書名微分積分読本著者(訳者)小林昭七出版社裳華房ISBN4-7853-1521-0

ガイダンス 特に行わない。/Will not conduct guidance

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30600	S	数学 I	辻 雄	数学	水 1	743 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目 数学 I

授業の目標概要 文科生向けに一変数関数の微分法と積分法に関する基礎的内容を扱う科目である. 社会科学に関連する題材を織り交ぜ,

数学的な概念を把握することに重点をおいて講義する.講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが,担

当教員によって順序は異なることがある.

評価方法 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある.

教科書 授業中に指示をする。 / Will specify at class time ガイダンス 特に行わない。 / Will not conduct guidance

時間割	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
コード	州冊	1人来行自有	担当教員	/71/禹	唯欧	狄王	\13K
30601	S	数学 I	逆井 卓也	数学	水 1	761 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目 数学]

授業の目標概要 文科生向けに一変数関数の微分法と積分法に関する基礎的内容を扱う科目である. 社会科学に関連する題材を織り交ぜ,

数学的な概念を把握することに重点をおいて講義する.講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが,担

当教員によって順序は異なることがある.

評価方法 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある.

教科書 授業中に指示をする。 / Will specify at class time ガイダンス 特に行わない。 / Will not conduct guidance

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30558	S	数学Ⅱ	三竹 大寿	数学	火 5	533 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

数学Ⅱ

授業の目標概要 文科生向けの、ベクトルと行列に関する基礎的な内容や、計算手法を理解するための科目である。講義内容はおおむね授

業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある.この科目を履修した後に、より進ん

だ内容を総合科目 「数理科学概論 II」で学ぶことができる.

評価方法 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある.

教科書 授業中に指示をする。 / Will specify at class time ガイダンス 特に行わない。 / Will not conduct guidance

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30602	S	数学Ⅱ	古田 幹雄	数学	水 1	1331 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

数学Ⅱ

授業の目標概要 文科生向けの、ベクトルと行列に関する基礎的な内容や、計算手法を理解するための科目である。講義内容はおおむね授

業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある. この科目を履修した後に、より進ん

だ内容を総合科目 「数理科学概論 II」で学ぶことができる.

評価方法 主として定期試験によるが、担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する場合がある。

教科書 授業中に指示をする。/Will specify at class time ガイダンス 特に行わない。/Will not conduct guidance

基礎科目 人文科学

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30152	S	哲学 I	古荘 真敬	哲学・科学史	月 3	1331 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

哲学の根本的問い

授業の目標概要

わたしたちの誰もが一度は向き合わざるをえないであろう「哲学の根本的問い」の幾つかについての考察を展開していきながら、関連する哲学史上の古典的テクストを紹介し、受講生の皆さんの今後の哲学的思索の厚みが増すようにお手伝いしたい。

考察の出発点は、わたしたちの日常生活である。まずは、各々の「わたし」が、生活の現場において遭遇するさまざまな問題に対処しながら生きる日常の基本構造を振り返ってみよう。そのうえで、「知の根拠」「行為と自由」「人格と倫理」「真理と価値」「生の意味」といった事柄をめぐる哲学の基本的な問いを、具体的に展開していきたい。

実のところ、「哲学」とは、何ら特別なものではない。わたしたちは、さまざまな問題に忙しく対処しながら生きる日常のなか、ふと立ち止まり、「いったい自分たちは何をやっているのだろう? こうしたことはいったい何を意味しているだろう?」と問い直さざるをえなくなることがあるのではないか。わたしたちは、走ってばかりはいられない。走るにしても、走ることの意味を問わざるをえない。その問いとともに始まるのが、急ぎ足で前進することとは異質な「哲学」の時間なのである。この営みには、人間の歴史と同じくらい古い歴史がある。人間は、人間であるかぎり哲学する。

さあ、君も立ち止まって考えよう。

評価方法

期末試験の成績で評価する。

教科書

プリントを配布する。/Will distribute handouts

ガイダンス 第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

_	時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
-	30603	S	哲学 I	鈴木 貴之	哲学・科学史	水 1	K212	1年 文科 2年 文科

講義題目

哲学の根本問題から哲学とは何かを考える

授業の目標概要

哲学の根本問題の多くは、古代ギリシア時代から論じ続けられているものです。しかし、哲学という学問には、その時代から大きな進歩がないようにも見えます。このことは、哲学の問いは無意味な問いであることや、それらは別の方法で探究した方がよいことを示唆しているのでしょうか。そうではないかもしれません。哲学の根本問題は、われわれが当然成り立つと考えている一連の事柄がじつは両立不可能だということや、一見説明できてあたりまえの事柄にじつはきちんとした説明を与えることができないことを明らかにするものだからです。哲学の根本問題は、われわれの常識的なものの見方には重大な問題が潜んでいることを示しているのかもしれないのです。

この授業では、哲学の根本問題のいくつかを題材として、哲学とはどのような学問なのか、哲学の問題は他の学問が扱う問題とどのように異なるのか、哲学の問題に正解はあるのか、といったことについて考えていきます。

評価方法

学期末の筆記試験(70%)と小レポート(30%)の内容によって評価します。

教科書

教科書は使用しない。/Will not use textbook

ガイダンス

第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30559	S	倫理 I	阿部 善彦	哲学・科学史	火 5	1102 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

人間探求 自己探求としての倫理、そして、他者とともにこの世界で生きるための倫理の探求

授業の目標概要

さまざまなテキストを手がかりにしながら、人間が生きるための根本問題を探求する。それは一方では、わたしがいかに 生きるべきか、わたしが生きる意味は何か、という人間探求、自己探求という形をとり、そこから幸福や自由が課題とし て浮かび上がる。他方、わたしが生きるのは、いまここにおいて、であり、それは過去から未来とのつながり、また、そ こにとも生きる人々とのつながりから切り離し得ない以上、他者とともにともにこの世界で生きるとはいかなることか、 という探求も必要となる。そこから、他者、自然、生命、世界、正義、愛、人間の尊厳という課題が浮かび上がる。そう した探求の手がかりとなるテキストをともに読み、対話によって互いの理解を共有しながら、自らの考えと言葉を深めて ゆく。そのために思考停止せずに考え続けることが重視される。

評価方法

学期末試験のほか、教員の指示する提出物、グループディスカッションをはじめとする授業内での活動の精度による。

教科書

授業中に指示をする。 / Will specify at class time

ガイダンス

第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30153	S	歴史 I	杉山 清彦	歴史学	月 3	525 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

ユーラシアのなかの「中国|史

授業の目標概要

現在われわれの眼前には、「中国」と呼ばれ、また自らもそう称する国家が存在しており、その領域で生起してきたできごとは「中国史」と称される。しかし、現在の中国の領域の半分以上は、漢字文化を共有しない人びとが歴史的に住まい、活動してきた地域であり、他方、「中国」というまとまりを与えてきた漢字文化は、現在の中国の領域を超えて、朝鮮半島・日本列島・インドシナ半島東北部に広がっている。このようにみるならば、「中国」というまとまりや「中国史」という語りは決して自明のものではなく、長い時間の中で絶えず変化しながら形づくられ、また特定の時期に明確な事情から創出されたものであったとさえいえよう。

本講義では、漢人(漢民族)を自明の存在とみるのではなく、彼らをも歴史的に形成され変遷してゆく存在と捉え、かつあくまでも数ある人間集団の一つ(ずば抜けて巨大ではあるが)にすぎないものとして扱い、東部ユーラシアの諸社会との対比を意識しながら、その特質と歴史の展開を概観する。

評価方法

主に期末の論述試験によって評価する。場合により、講義中に随時課す小テスト・小レポートなどの評価を加味して判断

する。

教科書

プリントを配布する。/Will distribute handouts

ガイダンス

第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30154	S	歴史 I	渡辺 美季	歴史学	月 3	K011	1年 文科 2年 文科

講義題目

東アジア世界のなかの琉球

授業の目標概要

琉球は、12世紀前後に王国形成を開始し、その後「沖縄県」として日本に組み込まれる 1879 年まで、東アジア世界の歴史的展開と密接に連動しつつ、その一王国として存続してきた。王国の対外関係の主軸となったのは 14世紀後半に開始された中国(明・清)との君臣関係(冊封・朝貢関係)である。いっぽうで 1609 年、琉球は薩摩の大名・島津氏の軍事侵攻に敗れ、以後は徳川幕府の支配をも受けるようになった。すなわち 1609 年(薩摩の侵攻)から 1879 年(王国の消滅)までの 270 年間、琉球は中国・日本に二重に臣従する「王国」であった。

現代とは異なる、このような国際関係および王国の形態は、いかにして形成・維持されたのだろうか。本講義では、東アジア世界がどのような歴史的展開を共有し、その中で琉球がいかなる役割を果たしたのかという観点から、琉球王国の歴史を時間軸に沿ってひも解いていく。

これにより現在の諸地域や国家を相対化する視点を養い、また長いタイム・スパンで事象を捉える姿勢を身に付けることを目指したい。

評価方法

学期末の試験を主とし、授業中の課題などを加味して総合的に判断する。

*ただし受講人数によっては試験をレポートに変更する可能性がある。

教科書

プリントを配布する。/Will distribute handouts

ガイダンス 第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30560	S	歴史 I	井坂 理穂	歴史学	火 5	525 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

歴史学を知る

授業の目標概要

「歴史を学んで何になるんだろう」――年号や人名の暗記に苦しんだ受験勉強の最中に、そんな風に思ったことはないだろうか。しかし歴史学とはもちろん暗記ではない。「史料に基づき過去の人間生活の事象を研究する学問」である。それは専門的な学問領域であると同時に、"歴史学的にみる・考える"という普遍的な思考力を身に付けるためのトレーニングでもある。物事を長いタイムスパンで捉える力、経験不可能な物事に対するリアルな推測力、「現在」を相対的に視るカー―歴史学によって必然的に養われるこれらの力は、過去を振り返るときだけでなく、今を生き、未来を踏み誤らないためにも必要不可欠のものだろう。

この授業では、受講生が歴史学の基礎を学びながら、"歴史学的にみる・考える"力を養うことを目的に、教養学部の 6名の歴史学教員がリレー形式で講義する。歴史学の研究とは、どのような発想と手法によって進められ、その結果どのような歴史像が描き出されるのか。歴史学を専門的に学びたい学生ばかりでなく、"歴史学的にみる・考える"力を身に付けない。

たいと考えるすべての文科生に受講してほしい。

学期末の試験を主とし、授業中の課題などを加味して総合的に判断する。

評価方法 教科書

授業中に指示をする。/Will specify at class time

ガイダンス

第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

	時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
Ī	30604	S	歴史Ⅱ	外村 大	歴史学	水 1	159 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

東アジアの中の日本戦後史

授業の目標概要

1945年の敗戦とそれにつづく連合国軍の占領によって、日本は大きな変革を迫られた。そして、実際に諸改革が実行され、国際社会との関係も新たなものとなった。そして1950年半ばころには相対的に安定した制度や社会の仕組み、人々の意識や関係の結び方が生まれたといえよう。これは、その後の日本のあり方を規定し現在にも影響を及ぼしている。この授業ではまず、それがどのようなものでありなぜいかなる経緯で成立したかを確認していく。

それを踏まえて、さらに戦後日本の枠組みがどのように変化していったかやそもそもそれがどのような問題点、限界をもつものであったのかを考えていくことをこの授業のもう一つの課題としたい。

その際、東アジアの近隣諸国、特に旧植民地との関係や、戦後日本の多数派と異なる体験をした人々・地域に着目し、通常の「戦後史」では語られてこなかった事実を重視し、その視点からこれまで一般的に語られてきた戦後史の再検討を試みたい。

評価方法

受講態度、学期末に提出するレポートなどから総合的に判断する。

教科書教科書は使用しない。/Will not use textbookガイダンス特に行わない。/Will not conduct guidance

	時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
3	30605	S	ことばと文学 I	坪井 栄治郎	英語	水 1	511 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

言語の構造とその動態

授業の目標概要

この講義では、最初に簡単に言語学という学問分野の概観をした後に、いくつかの言語現象を見ることを通して、人間の言語の規則性・体系性・普遍性を知るとともに、自己完結的に閉じた規則の体系として人間の言語を見ることを難しくさせる、言語の柔軟性・相対性に対する理解を得ることを目的とします。初回授業時にガイダンスを行い、どんな言語現象をどんな観点から取り上げるのか説明しますので、関心のある方は初回授業に出てみてください。言語学ってどんな学問分野なんだろう、という関心のある方を歓迎します。

評価方法

ミニレポートと期末試験による。

教科書 ガイダンス プリントを配布する。/Will distribute handouts

第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time 2020 年 04 月 08 日 1 限/1st Period 通常授業と同じ教室

時間割	- ド 開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
コード	1713 111-3	以来 们 自	造司教具	/ / 1 / [本]	唯政	7人王	\13\
30606	S	ことばと文学 I	小野 秀樹	中国語	水 1	532 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

「ことば」から見る中国人の思考と感覚

授業の目標概要

本授業では、現代中国語でのコミュニケーションにおける、日常ありふれた「ことば(の使用)」の実態を明らかにし、そのことによって、中国語という言語の特徴を詳らかに示すとともに、中国人の思考や認識、感覚などを分析することを目指す。

言語学のサピア=ウォーフの仮説(言語相対性仮説)は「言語の違いは、思考や世界の認識に対して影響を及ぼす」と主張するものであるが、確かに、個別の言語はそれを母語とする人々の思考や認知との間に深い関係を有している。換言すれば、「言語」は少なくとも「人」を造っている重要な要素の一つであり、各言語に見られる種々の様相は、それを用いる人々の思惟や感覚、思想などの反映された所産だと言って良いだろう。

授業では、中国語の特徴を考察する基準として、日本語(と英語)の実態との比較を行ない、対照的に考察することにより、日中(英)語の相違点についても考える。たとえば、日常用いる挨拶ひとつを取り上げてみても、日本語の「こんにちは」に対して、中国語では"你好!"、英語では"Hello/Good afternoon"など、一見同じような意味の挨拶語は存在するものの、細かく観察すれば、これらの挨拶語の使用実態と意味がまったく同一ではないことが理解できる。その相違点は、それぞれの母語話者が有している思考と感覚の違いに基づくものである。

本授業では、こういった、いずれの言語にも存在する、似て異なる「ことば」の実態を取り上げつつ、中国語の特徴について考えてみたい。

評価方法

以下の2つに基づき成績を評価する。

1)毎回の授業で提出してもらうリアクションペーパー

2) 期末レポート

プリントを配布する。/Will distribute handouts

教科書 ガイダンス

第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

基礎科目 人文科学

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30561	S	ことばと文学Ⅱ	品田 悦一	国文・漢文学	火 5	109 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

『万葉集』東歌を読む

授業の目標概要

東歌は『万葉集』巻十四所載の短歌 230 余首の総称。前半の 90 余首は国別に分類されているが、それらをも含めすべて 作者不明。全巻中の異彩ともいうべき歌々であり、性愛の歓喜をほがらかに歌い上げたものや、誇張された表現で笑いを

誘うものが多い。

東歌は過去百年あまり、防人歌とともに『万葉集』の庶民全階級的布陣の例証と見なされ、国民歌集としての万葉像を

支えてきた。読みの更新を通じて認識を抜本的に変更する。

評価方法

定期試験を行なう。ただし、全問題の約半分の配点を占める設問は、授業中に予告しておく。また、授業の進行次第では、

リアクション・ペーパーを書かせる回があるかもしれない。 次の教科書を使用する。 / Will use the following textbook

教科書 書名

万葉集本文篇 著者(訳者) 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之

出版社 塙書房 **ISBN** 4-8273-0081-X

ガイダンス 特に行わない。/Will not conduct guidance

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30155	S	ことばと文学Ⅲ	矢田 勉	国文・漢文学	月 3	761 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

日本語研究の歴史

授業の目標概要

日本人は、近代西洋言語学の移入以前から、独自の自言語研究の枠組みを有していた。「国語学」は近代の諸学問領域の 中で、西洋合理主義科学とは異なる基盤を有する数少ない分野の一つである。そこに「国語学」が内包する方法的限界も ある一方で、日本発信の研究方法論を導きうる可能性も有している。

本講義では、中世歌学・連歌論から近世国学にいたる流れの中で行われてきた伝統的国語研究は、いかなる思想的基盤を 有し、それが何を明らかにし、何を明らかにし得なかったのかを論ずる。また、研究への対象化のなされ方から、日本語

という言語の特質についても逆照射を行いたい。

評価方法

授業中への取り組み(30%程度)と期末試験(70%程度)により総合的に判定する。

教科書

プリントを配布する。/Will distribute handouts

第一回授業日に行う。 / Will conduct guidance at first time ガイダンス

時間割コート	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30157	S	心理 I	四本 裕子	心理・教育学	月 3	900 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

心理学概論

授業の目標概要

ヒトや動物の心や行動を対象とする心理学は、その科学的測定の特殊さゆえ、誤った理解や理論が社会に広がることも多 い。心理学は、人間の心と行動の理解を目指す歴史ある学問であるが、心理学における研究手法は、科学技術の発達とと もに常に変容しつづけている。本講義では、これまでの心理学実験の例やそこから導きだされた理論を学ぶことにより、 心理学の基礎を学術的に理解することを目標とする。

評価方法

持ち込み禁止の期末試験。

教科書

ガイダンス

教科書は使用しない。/Will not use textbook 第一回授業日に行う。/Will conduct guidance at first time

基礎科目 人文科学

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
30562	S	心理 I	田谷 修一郎	心理・教育学	火 5	1313 教室	1年 文科 2年 文科

講義題目

心理学概論

授業の目標概要

誰しも「心とはこういうものだ」という素朴な信念を持っているだろう。しかしそうした内省が、我々のものの見方の持 つバイアス (歪み) の影響を逃れることは難しい。心理学とは科学的な手続きによってこのバイアスを回避し「心」の仕 組みについて普遍性のある説明を与えることを目指す学問である。本講義ではまず「心理学の成り立ち」について触れ 「心」を測定することの難しさと、その困難を先人たちがどのように乗り越えようとしてきたかを学ぶ。その上で、過去 の研究から導かれる「人の心の基本的な仕組み及び働き」についてデモンストレーションや模擬実験を交えながら解説し ていく。単に現象や理論について知るだけなく、研究の手続きについても学ぶことで、心理学の可能性と現時点における

限界の双方について考えることのできる講義を目指す。

評価方法 教科書

試験を中心に評価する。コメントシートの内容など、授業への積極的貢献を評価する可能性がある。

教科書は使用しない。 / Will not use textbook ガイダンス 特に行わない。/Will not conduct guidance

基礎実験Ⅲ·基礎実験Ⅳ

	基礎実験Ⅲ・基礎実験Ⅳ	開講区分	S
授業の目標・概要	自然科学の学習に不可欠な基本的な知識・技能を習得する 1)将来の自然科学の発展に対応できるように、自然科学 する。		既念を理解できるように
授業の方法	2) 基礎講義の内容を、基礎実験によってよりよく理解で 3) 未知の自然現象の解明を目的とする科学実験に必要な 欠な基本的技法を習得できるようにする。 自然科学の学習に不可欠な基本的な知識・技能を習得する	観察力・姿勢を養い、自ら実験	倹を計画する場合に不可
仅未の万仏	1) 将来の自然科学の発展に対応できるように、自然科学する。	諸分野の基礎的な実験方法と概	既念を理解できるように
	2)基礎講義の内容を、基礎実験によってよりよく理解で3)未知の自然現象の解明を目的とする科学実験に必要な欠な基本的技法を習得できるようにする。	観察力・姿勢を養い、自ら実験	
成績評価方法	◆基礎実験(物理学)では出席、試問、及び実験ノート(◆基礎実験(化学)では出席、予習、実験ノート、試問、 後1時)で成績を評価する。		
教科書	次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 基礎実験(物理学)の教科書は学術図書: 書は東京化学同人の『基礎化学実験』で その他 教科書は駒場生協で入手可能である。		基礎実験(化学)の教科
履修上の注意	◆第1回授業日に行うガイダンスには必ず出席すること。 ◆過去ノートの持ち込みはカンニングとみなす。 ◆実験中は携帯電話の電源を切っておくこと。実験中の携	帯電話の使用はカンニング行為	為とみなされる場合があ
	る。 ◆実験室及び実験室のある建物内は禁煙である。また、実 【基礎実験 IV の履修】	験室は飲食厳禁である。	
	◆S2 に開講される基礎実験 IV は、履修者数の状況によっ	ては開講曜日の変更が行われる	る。その際には再度希望

日の選択が可能である。

◆履修登録方法などの詳細は、基礎実験 III の初回に実施されるガイダンスで周知する。

※講義の詳細については、UTASを参照すること

時間割コード	開講	曜限	科目名	対象クラス
30096	S 1	月 3, 月 4	基礎実験Ⅲ(物理学)	2年 理一(1-5,7,9,13-14,18)
30437	S 1	火 3, 火 4	基礎実験Ⅲ(物理学)	2年 理一(23-25,29,33,36,39)
30739	S 1	水 3, 水 4	基礎実験Ⅲ(物理学)	2年 理一(6,12,20-21,31,34-35)
30957	S 1	木 3, 木 4	基礎実験Ⅲ(物理学)	2年 理一(8,10-11,15-17,19)
31183	S 1	金 3, 金 4	基礎実験Ⅲ(物理学)	2年 理一(22,26-28,30,32,37-38)
30097	S 1	月 3, 月 4	基礎実験Ⅲ(化学)	2年 理一(1-5,7,9,13-14,18)
30438	S 1	火 3, 火 4	基礎実験Ⅲ(化学)	2年 理一(23-25,29,33,36,39)
30740	S 1	水 3, 水 4	基礎実験Ⅲ(化学)	2年 理一(6,12,20-21,31,34-35)
30958	S 1	木 3, 木 4	基礎実験Ⅲ(化学)	2年 理一(8,10-11,15-17,19)
31184	S 1	金 3, 金 4	基礎実験Ⅲ(化学)	2年 理一(22,26-28,30,32,37-38)
40014	S 2	月 3, 月 4	基礎実験IV(物理学)	2年 理一
40044	S 2	火 3, 火 4	基礎実験IV(物理学)	2年 理一
40109	S 2	水 3, 水 4	基礎実験IV(物理学)	2年 理一
40119	S 2	木 3, 木 4	基礎実験IV(物理学)	2年 理一
40134	S 2	金 3, 金 4	基礎実験IV(物理学)	2年 理一
40015	S 2	月 3, 月 4	基礎実験IV(化学)	2年 理一
40045	S 2	火 3, 火 4	基礎実験IV(化学)	2年 理一
40110	S 2	水 3, 水 4	基礎実験IV(化学)	2年 理一
40120	S 2	木 3, 木 4	基礎実験IV(化学)	2年 理一
40135	S 2	金 3, 金 4	基礎実験IV(化学)	2年理一

40121

S 2

木 3, 木 4

基礎生命科学実験・生命科学実験

基礎生命科学実験・生命科学実験				開講区分	S	
授業の目標・概要 生命科学研究に必要な知識・技能を習得する。 1) 基礎的な実験方法の原理を理解し、その技法を習得する。 2) 本実験を通して、基礎講義の内容を深く理解する。 3) 未知の自然現象の解明に必要な観察力・姿勢を養う。						
授業の方法						
成績評価方法 成績は、出席、レポート、後片付け、その他で評価する。 教科書 次の教科書を使用する。 / Will use the following textbook 書名 基礎生命科学実験 第 2 版 著者(訳者) 東京大学教養学部・基礎生命科学実験編集委員会 編 出版社 東京大学出版会 ISBN 978-4-13-062218-9						
履修上の注意 ・S1「基礎生命科学実験」の履修を希望する文科生は初回実験が開催される日(4/6~4/10 のうち、履修を希望する曜日)に必ず出席して受講希望の旨を教職員に申し出、履修希望カードを提出すること。これに加え、受講に際しては教務課に履修認定カードを提出する必要がある。下記 HP 参照のこと。 ・S2「生命科学実験」履修希望者は火、水、木から希望する受講曜日を選択すること。2回目の訂正期間に履修を変更する者は、6月9日の S2 ターム開始前までに教職員に必ず連絡すること。 ・S2「生命科学実験」履修者は、S1「基礎生命科学実験」を履修していることが望ましい。 「実験補遺」の PDF(http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cbioexp/hoi.pdf)を印刷して持参すること。						
教科書を読み、添付の DVD を見て、予習してくること。 ※講義の詳細については、UTAS を参照すること						
時間割コード	開講	曜限	科目名	対象クラ	ラス	
30141	S 1	月 3, 月 4	基礎生命科学実験	2年 理二三(4,6,9,11)	
30447	S 1	火 3, 火 4	基礎生命科学実験	2年 理二三(10),16,21,24)	
30751	S 1	水 3, 水 4	基礎生命科学実験	2 年 理二三(14	-15,17-18)	
30965	S 1	木 3, 木 4	基礎生命科学実験	2年 理二三(5,8	3,19-20,22)	
31190	S 1	金 3, 金 4	基礎生命科学実験	2年 理二三(1-3	,7,12-13,23)	
40046	S 2	火 3, 火 4	生命科学実験	2年 理	科	
40111	S 2	水 3, 水 4	生命科学実験	2年理]科	

生命科学実験

2年 理科

数理科学基礎

月 4,木 3

火 4,金 3

30961

31177

31828

31829

31830

31831

数理科学基礎 開講区分 S 1 授業の目標・概要 科学・技術の礎となる数理科学の基礎的内容を学び,高等学校で学んだ数学から大学で学ぶ数学への橋渡しと する. 講義は微分積分と線型代数の二つのテーマからなり,それぞれ通しの授業として開講される.本科目の講義内 容は S2 タームから始まる「微分積分学」「線型代数学」に接続する. 成績評価方法 主として S1 ターム末に行われる定期試験によるが, 担当教員によっては小テストやレポートを含めて評価する 場合がある. 教科書 授業中に指示をする。 / Will specify at class time 関連ホームページ https://www.ms.u-tokyo.ac.jp/sugaku/ms s1.html ※講義の詳細については、UTASを参照すること 時間割 曜限 担当教員 教室 対象クラス コード 辻 雄、植野 義明 1年 理二三(11-13) 月 2, 水 1 524 教室 30078 30079 月 2, 水 1 1年 理二三(14-17) 金井 雅彦、村上 順 724 教室 30595 月 2, 水 1 田中 公、山浦 義彦 741 教室 1年 理二三(18-20) 月 2, 水 1 河澄 響矢、岡崎 龍太郎 723 教室 1年 理二三(1-7) 31825 31826 月 2, 水 1 緒方 芳子、小林 正典 523 教室 1年 理二三(8-10) 白石 潤一、岩木 耕平 31827 月 2, 水 1 721 教室 1年 理二三(21-24) 1年 理一(20-23) 30211 月 4,木 3 高山 茂晴、飯田 正敏 724 教室 月 4.木 3 30213 WILLOX RALPH、山﨑 満 523 教室 1年 理一(28-31) 月 4,木 3 吉野 太郎、梶原 健 30214 741 教室 1年 理一(32-35) 月 4,木 3 斎藤 毅、下川 航也 721 教室 1年 理一(36-39) 30215

723 教室

724 教室

523 教室

524 教室

723 教室

531 教室

1年 理一(24-27)

1年 理一(2,4-5,8)
1年 理一(1,17-19)

1年 理一(3,11-13)

1年 理一(6-7,9-10)

1年 理一(14-16)

寺田 至、松田 茂樹

関口 英子、大場 清

入江 慶、大坪 紀之

緒方 芳子、戸瀬 信之

松井 千尋、津田 照久

竹内 知哉、斉藤 義久

微分積分学①

微分積分学① 開講区分 S 2

授業の目標・概要

代数学,幾何学とともに,数学の根幹をなす解析学について,その基本的な考え方や方法を学ぶ.力学における運 動方程式などに代表されるように、自然界の多くの現象が、微分積分学を用いて記述される。微分積分学は、あらゆる科学技術の基礎となっている。微分積分学は17世紀末に、ニュートンやライプニッツらによって創成された。ニュートンは量の変化の記述に注目し、速度、加速度などの物理量を表現するために微分の概念を導入した。「微 分積分学の基本定理」により、区分求積法によって定義される積分は、微分の逆操作であることが、明確に認識さ れるようになった.

微分積分学では,極限をとること,無限和をとることなどの操作が重要な役割を果たす.このような微分積分学の 基礎となる極限の厳密な定義は,19 世紀後半から整えられていった.この授業では,「数理科学基礎」で学んだ極 限の扱いに基づき、微分積分学の基礎と応用を学ぶ. 具体的な項目は以下の通りである. S2 タームの「微分積分 学①」で項目 1,2 を扱い,A セメスターの「微分積分学②」で項目 3~6 を扱うことを目安とするが,担当教員によ って、順序や内容に一部変更が加えられる場合がある.

- 1. 一変数関数の微分 (微分の基本性質, テーラーの定理, テーラー展開) 2. 多変数関数の微分 (偏微分と全微分, 合成関数の微分の連鎖律)
- 3. 多変数関数の微分 (続き) (高階偏微分, 多変数のテーラーの定理とその応用)
- 4. 一変数関数の積分 (区分求積法、微分積分学の基本定理)
- 5. 多変数関数の積分 (多重積分と累次積分,多重積分の変数変換公式)
- 6. 無限級数と広義積分 (関数列の収束, 広義積分)

実数の連続性に基づく微分積分学の基礎の厳密な展開は、2年次8セメスターの総合科目「解析学基礎」で学ぶこ とができる.将来,本格的に数学を使う分野に進学しようという場合は「解析学基礎」によって微分積分学の理論 的基礎を修得することをすすめる。なお、「解析学基礎」は1年次Sセメスターでも履修することができる。また、2年次Sセメスターの総合科目として、「微分積分学」の直接的な続きにあたる「微分積分学続論」、および「微分積分学」で学んだ事項の応用にあたる「常微分方程式」、「ベクトル解析」が開講される。

成績評価方法 教科書

関連ホームページ

主として定期試験によるが、担当教員によって小テストやレポートを含めて評価する場合がある.

授業中に指示をする。 / Will specify at class time https://www.ms.u-tokyo.ac.jp/sugaku/calculus.html

※講美の詳細については IITAC も弁昭士ファレ

	- 和 (C ・ フ (・ C (は、UTAS を参照すること		
時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
40002	月 2	岡崎 龍太郎	723 教室	1年 理二三(1-7)
40003	月 2	緒方 芳子	523 教室	1年 理二三(8-10)
40004	月 2	辻 雄	524 教室	1年 理二三(11-13)
40005	月 2	金井 雅彦	724 教室	1年 理二三(14-17)
40006	月 2	山浦 義彦	741 教室	1年 理二三(18-20)
40007	月 2	岩木 耕平	721 教室	1年 理二三(21-24)
40016	月 4	高山 茂晴	724 教室	1年 理一(20-23)
40017	月 4	松田 茂樹	723 教室	1年 理一(24-27)
40018	月 4	WILLOX RALPH	523 教室	1年 理一(28-31)
40019	月 4	吉野 太郎	741 教室	1年 理一(32-35)
40020	月 4	斎藤 毅	721 教室	1年 理一(36-39)
40062	火 4	大坪 紀之	523 教室	1年 理一(1,17-19)
40063	火 4	大場 清	724 教室	1年 理一(2,4-5,8)
40064	火 4	緒方 芳子	524 教室	1年 理一(3,11-13)
40065	火 4	津田 照久	723 教室	1年 理一(6-7,9-10)
40066	火 4	斉藤 義久	531 教室	1年 理一(14-16)

線型代数学①

線型代数学① 開講区分 S 2

授業の目標・概要

線型代数学の萌芽である行列は多変数の連立一次方程式を効率的,統一的に扱う手法として発明された.また,行列式は方程式の解がただ一つ存在するための条件として発見された.ベクトルの概念の起こりは古典力学にあり,その意味で線型代数学の歴史は古い.しかし行列の本質である線型性概念の真の威力が認識され,数学の一分野として線型代数学が確立したのは新しく,20世紀にはいってのことであった.

自然界や社会科学における現象は一般には複雑で一次方程式で表せることはまれだが、一次近似によりその本質的な部分をとらえることは常套手段であり、線型代数学の考え方は非常に有効である。また、量子力学や、フーリエ解析などに現れる無限次元のベクトル空間を扱うための基礎ともなっており、線型代数学の応用については枚挙にいとまがない。このように、線型代数学の考え方は現代数学や理論物理学においてはもちろんのこと、工学、農学、医学、経済学などにおいても基本的な考え方として浸透しており、応用範囲も広い。線型代数学は理論的には単純で明快であるが、その反面、抽象的な概念操作にある程度慣れないと理解しにくい面もある。線型代数学を身につけるには、演習などのさまざまな問題にあたり、理解を深めることが必要である。「数理科学基礎」において学んだ線型代数に関する知識を前提とする。

S2 タームの「線型代数学①」で以下の項目 1,2 を扱い,A セメスターの「線形代数学②」で項目 $3\sim6$ を扱うことを目安とするが,担当教員によって,順序や内容に一部変更が加えられる場合がある.

- 1. ベクトル空間, 線型写像
- 2. 生成系, 一次独立性, 基底
- 3. 内積
- 4. 行列式
- 5. 固有値, 固有ベクトル
- 6. 対称行列の対角化と二次形式

成績評価方法

主として定期試験によるが、担当教員によって小テストやレポートを含めて評価する場合がある.

教科書 関連ホームページ 授業中に指示をする。/Will specify at class time https://www.ms.u-tokyo.ac.jp/sugaku/linear algebra.html

※講義の詳細については、UTASを参照すること

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
40072	水 1	河澄 響矢	723 教室	1年 理二三(1-7)
40073	水 1	小林 正典	523 教室	1年 理二三(8-10)
40074	水 1	植野 義明	524 教室	1年 理二三(11-13)
40075	水 1	村上 順	724 教室	1年 理二三(14-17)
40076	水 1	權業 善範	741 教室	1年 理二三(18-20)
40077	水 1	白石 潤一	721 教室	1年 理二三(21-24)
40114	木 3	飯田 正敏	724 教室	1年 理一(20-23)
40115	木 3	寺田 至	723 教室	1年 理一(24-27)
40116	木 3	山﨑 満	523 教室	1年 理一(28-31)
40117	木 3	梶原 健	741 教室	1年 理一(32-35)
40118	木 3	下川 航也	721 教室	1年 理一(36-39)
40129	金 3	入江 慶	523 教室	1年 理一(1,17-19)
40130	金 3	関口 英子	724 教室	1年 理一(2,4-5,8)
40131	金 3	戸瀬 信之	524 教室	1年 理一(3,11-13)
40132	金 3	松井 千尋	723 教室	1年 理一(6-7,9-10)
40133	金 3	竹内 知哉	531 教室	1年 理一(14-16)

数理科学基礎演習・数学基礎理論演習

数理科学基礎演習·数学基礎理論演習

授業の目標・概要 数学は講義を聴いただけでは意味を理解することが難しく、自分の手を動かして計算や証明をやって みる必要がある.S1 タームの「数理科学基礎演習」は「数理科学基礎」の講義と,S2 タームの「数学

基礎理論演習」は「微分積分学①」・「線型代数学①」の講義と一体であり、練習問題を解くことによって講義に対する理解を助け、応用力を養う. 講義内容に即した応用問題の他に、講義の理解を深めるための証明問題や、講義で触れられなかった内容に関する補足問題を適宜付け加えることもある. S1 タームの「数理科学基礎演習」の成績評価は、「数理科学基礎」の成績に演習の平常点などを加味して行う. S2 タームの「数学基礎理論演習」の成績評価は、「微分積分学①」「線型代数学①」の成績 に演

習の平常点などを加味して行う.

成績評価方法 「数理科学基礎」および「微分積分学①」・「線型代数学①」の成績に演習の平常点などを加味して行

う.

教科書 授業中に指示をする。/Will specify at class time

関連ホームページ https://www.ms.u-tokyo.ac.jp/sugaku/

※講義の詳細については IJTAS も参昭すること

※講義の詳細につ	いては、	UTAS &	参照すること			
時間割コード	開講	曜限	科目名	担当教員	教室	対象クラス
30143	S 1	月 3	数理科学基礎演習	辻 雄、田中 雄一郎	524 教室	1年 理二三(11-13)
40010	S 2	月 3	数学基礎理論演習	辻 雄、田中 雄一郎	524 教室	1年 理二三(11-13)
30144	S 1	月 3	数理科学基礎演習	金井 雅彦、鮑 園園	724 教室	1年 理二三(14-17)
40011	S 2	月 3	数学基礎理論演習	金井 雅彦、鮑 園園	724 教室	1年 理二三(14-17)
30140	S 1	月 3	数理科学基礎演習	牛腸 徹、河澄 響矢	723 教室	1年 理二三(1-7)
40008	S 2	月 3	数学基礎理論演習	牛腸 徹、河澄 響矢	723 教室	1年 理二三(1-7)
30145	S 1	月 3	数理科学基礎演習	鮑 園園、田中 公	741 教室	1年 理二三(18-20)
40012	S 2	月 3	数学基礎理論演習	鮑 園園、權業 善範	741 教室	1年 理二三(18-20)
30146	S 1	月 3	数理科学基礎演習	山本 宏子	721 教室	1年 理二三(21-24)
40013	S 2	月 3	数学基礎理論演習	山本 宏子	721 教室	1年 理二三(21-24)
30142	S 1	月 3	数理科学基礎演習	緒方 芳子、牛腸 徹	523 教室	1年 理二三(8-10)
40009	S 2	月 3	数学基礎理論演習	緒方 芳子、牛腸 徹	523 教室	1年 理二三(8-10)
30536	S 1	火 5	数理科学基礎演習	牛腸 徹	523 教室	1年 理一(1,17-19)
40067	S 2	火 5	数学基礎理論演習	牛腸 徹	523 教室	1年 理一(1,17-19)
30540	S 1	火 5	数理科学基礎演習	斉藤 義久、竹内 知哉	531 教室	1年 理一(14-16)
40071	S 2	火 5	数学基礎理論演習	斉藤 義久、竹内 知哉	531 教室	1年 理一(14-16)
30537	S 1	火 5	数理科学基礎演習	清野 和彦	724 教室	1年 理一(2,4-5,8)
40068	S 2	火 5	数学基礎理論演習	清野 和彦	724 教室	1年 理一(2,4-5,8)
30538	S 1	火 5	数理科学基礎演習	緒方 芳子、中村 勇哉	524 教室	1年 理一(3,11-13)
40069	S 2	火 5	数学基礎理論演習	緒方 芳子、中村 勇哉	524 教室	1年 理一(3,11-13)
30539	S 1	火 5	数理科学基礎演習	津田 照久、松井 千尋	723 教室	1年 理一(6-7,9-10)
40070	S 2	火 5	数学基礎理論演習	津田 照久、松井 千尋	723 教室	1年 理一(6-7,9-10)
31004	S 1	木 4	数理科学基礎演習	中村 勇哉	724 教室	1年 理一(20-23)
40122	S 2	木 4	数学基礎理論演習	中村 勇哉	724 教室	1年 理一(20-23)
31005	S 1	木 4	数理科学基礎演習	山本 宏子、寺田 至	723 教室	1年 理一(24-27)
40123	S 2	木 4	数学基礎理論演習	山本 宏子、寺田 至	723 教室	1年 理一(24-27)
31006	S 1	木 4	数理科学基礎演習	WILLOX RALPH、山﨑 満	523 教室	1年 理一(28-31)
40124	S 2	木 4	数学基礎理論演習	WILLOX RALPH、山﨑 満	523 教室	1年 理一(28-31)
31007	S 1	木 4	数理科学基礎演習	吉野 太郎、梶原 健	741 教室	1年 理一(32-35)
40125	S 2	木 4	数学基礎理論演習	吉野 太郎、梶原 健	741 教室	1年 理一(32-35)

数理科学基礎演習・数学基礎理論演習

31008	S 1	木 4	数理科学基礎演習	清野 和彦	721 教室	1年 理一(36-39)
40126	S 2	木 4	数学基礎理論演習	清野 和彦	721 教室	1年 理一(36-39)

力学A

	力学A	開講区分	S
授業の目標・概要	古典力学の基本法則とその具体的応用を微積分や解析幾何等の数学的・体系的理解への基礎を学ぶ。高校での物理学を履修したという通りだが、実際の内容や順序は教員によって多少の違いがあり、特1. 序論:物理学の世界	前提に立って講義する。	具体的な項目は以下の

- 2. 運動の記述
 - ・デカルト座標
 - ・ベクトルとその演算(内積、外積など)・極座標(2次元、*3次元)

 - ・次元と単位系
- 3. 運動の法則
 - ・ニュートンの三法則
 - ・質量と力
 - ・簡単な運動の例(自由落下など)
 - 力積と運動量
 - ・仕事とエネルギー (線積分)
 - ・保存力とポテンシャル (グラディエント)
- 4. 運動の解析
 - ・ 落体の運動 (速度に依存する抵抗がある場合を含む)
 - ・慣性質量と重力質量
 - ・単振り子・調和振動
 - ・減衰振動
 - *強制振動(共鳴)
 - 力のモーメント
 - ・中心力と角運動量
- ・万有引力とケプラーの法則 5. 運動の相対性と慣性力
- - ・慣性系とガリレイ変換
 - ・並進加速度系と慣性力
 - ・回転系 (遠心力とコリオリカ)
- 6. 多粒子系
 - ・内力と外力
 - 重心運動と相対運動
 - *対称性と保存則
- ・二体系(換算質量、衝突など) *7. 剛体の運動
- *剛体の自由度と運動方程式
- * 慣性能率
- *対称性と保存則
- *剛体の平面運動
- *8.力学の原理
- *仮想仕事、ダランベールの原理
- *ハミルトンの原理(最小作用)
- *対称性と保存則

成績評価方法

*ラグランジュの運動方程式 主として定期試験によるが、担当教員のUTAS シラバスを参照すること

教科書 教科書は使用しない。/Will not use textbook ※講義の詳細については、UTAS を参照すること

時間割 コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
30776	水 4	井上 純一	533 教室	1年 理一(20-22)
30778	水 4	大井 万紀人	723 教室	1年 理一(23-25)
30779	水 4	※塩見 雄毅	523 教室	1年 理一(26-29)
30780	水 4	※簑口 友紀	761 教室	1年 理一(30-33)
30781	水 4	※鈴木 康夫	1323 教室	1年 理一(34-36)
30782	水 4	※堀田 知佐	531 教室	1年 理一(37-39)
30785	水 4	米谷 玲皇	721 教室	1年 理二三(16-18)
30786	水 4	澁谷 憲悟	724 教室	1年 理二三(19-21)
30787	水 4	下村 裕	741 教室	1年 理二三(22-24)
31230	金 4	大谷 宗久	524 教室	1年 理一(1-6)
31232	金 4	酒井 一博	531 教室	1年 理一(7-9)
31233	金 4	※藤井 宏次	532 教室	1年 理一(10-12)

31234	金 4	※松田 恭幸	523 教室	1年 理一(13-16)
31235	金 4	溝口 俊弥	1225 教室	1年 理一(17-19)
31248	金 4	※大泉 匡史	721 教室	1年 理二三(1-6)
31249	金 4	※木本 哲也	741 教室	1年 理二三(7-9)
31250	金 4	庄田 耕一郎	1108 教室	1 年 理二三(10-12)
31251	金 4	矢向 謙太郎	761 教室	1年 理二三(13-15)

【注意】基礎科目「力学 A」を他クラス聴講する場合、または文科生が要求科目として履修(履修許可科目)する場合は、 ※の教員の授業を選択し履修すること。なお、同じクラスに登録希望者が集中する場合には、人数を制限することがある。

力学B

	力学B		開講区分	S
成績評価方法教科書	人試で特別を表する。 高度な問題や詳すのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	語題を多用することに 。。 。。 。順序は教員に 場合を含む)	£ 9 、	
	は、UTAS を参照すること			
時間割曜限	担当教員	教室	対象ク	

※講義の詳細については、UTAS を参照すること					
時間割	曜限	担当教員	教室	対象クラス	
コード					
30777	水 4	新井 宗仁	524 教室	1年 理一(20-39)理二三(16-24)	
31231	金 4	鳥井 寿夫	511 教室	1年 理一(1-19)理二三(1-15)	

熱力学

熱力学 開講区分 S 授業の目標・概要 熱力学は,膨大な数の原子・分子等のミクロ(微視的)な粒子の集団から成るマクロ(巨視的)な物質の状態を、 温度、圧力、体積などのマクロな物理量を用いて記述し、いくつかの基本原理をもとに、マクロな観点から物質の 状態がいかに変化するかを考察する学問体系である。熱力学は、力学、電磁気学とともに古典物理学の基礎を構成している。ここで学ぶ内部エネルギー、エントロピーなどの概念は理科生にとって必須の基礎概念である。

以下に標準的な講義内容を示すが、担当教員によって項目の順序や内容は若干異なる。講義では、高校までに習っ た初等数学以外に、偏微分等の数学的手法を用いることがあるが、その場合は、そのつど必要に応じて講義で解説 される。

0.序論

熱力学とは何か?ミクロな系とマクロな系、力学や電磁気学との対比

1.熱平衡状態

温度,圧力,状態量,示強変数と示量変数,状態方程式

2.熱力学第一法則 熱量と仕事,熱の仕事当量,内部エネルギー,定積熱容量(定積比熱)と定圧熱容量(定圧比熱)

3.熱力学第二法則

第二法則の諸表現(Thomson の原理, Clausius の原理), 可逆循環過程 , Carnot サイクル, 不可逆過程, 準静的過 程, 熱機関の効率, 熱力学的絶対温度, Clausius の不等式, エントロピー

4.自由エネルギー Helmholz の自由エネルギー、Gibbs の自由エネルギー、Maxwell の関係式

その他、オプションとして取り上げられるトピックス

混合のエントロピー, エンタルピー, Joule-Thomson 過程, Legendre 変換, 熱力学第三法則, 相平衡, 相律, Clapeyron-Clausius の式, Le Chatelier の原理, 化学ポテンシャル, Gibbs-Duhem の関係式, Maxwell の等面積則

主として定期試験によるが、担当教員の UTAS シラバスを参照すること

成績評価方法 教科書

教科書は使用しない。/Will not use textbook

※講義の詳細については、UTASを参照すること

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
30052	月 2	※池田 昌司	1101 教室	1年理一(1-3,12,14-15)
30066	月 2	関野 恭弘	1102 教室	1年 理一(22-23,27)
30071	月 2	桃井 勉	761 教室	1年 理一(28,31,33,39)
30666	水 2	藤山 茂樹	531 教室	1年 理一(4,6,9)
30673	水 2	※加藤 岳生	525 教室	1年 理一(20,34-35)
30741	水 3	※森松 治	525 教室	1年 理一(7,11,32)
30895	木 2	下村 裕	721 教室	1年理一(8,10)
30896	木 2	岸根 順一郎	741 教室	1年 理一(13,16,18)
30899	木 2	※風間 洋一	1102 教室	1年 理一(19,29,38)
31070	金 1	※尾関 之康	721 教室	1年 理一(5,17,21)
31073	金 1	上田 正仁	741 教室	1年 理一(24-25,30)
31186	金 3	※菊川 芳夫	721 教室	1年 理一(26,36-37)

【注意】基礎科目「熱力学」を他クラス聴講する場合、または文科生が要求科目として履修(履修許可科目)する場合は、 ※の教員の授業を選択し履修すること。なお、同じクラスに登録希望者が集中する場合には、人数を制限することがある。

化学熱力学

化学熱力学 開講区分 S

授業の目標・概要 熱力学では、多数の原子分子の集団から成る物質の状態を圧力、体積、温度などの巨視的な量を用いて指定し、いくつかの基本原理をもとに、巨視的な観点から物質がいかに変化するかを考察していく。これらは、化学平衡や化学反応を理解する上での基礎的な概念を与える。本講義では、化学への応用をめざして熱力学を学ぶ。以下に標準的な講義項目を示すが、教員によって実際の順序や内容は若干異なる。

- 1. 序論 熱平衡状態、温度と熱、状態量 (示強性、示量性)、状態方程式 (理想気体、ファン・デル・ワールス気体)
- 2. 熱力学第一法則 熱と仕事、内部エネルギー、準静的過程、定積過程と定圧過程、エンタルピー、熱容量(比熱)、ヘスの法則
- 3. 熱力学第二法則 熱機関とカルノーサイクル、第二法則の諸表現(トムソンの原理、クラウジウスの原理)、不可逆過程、クラウジウスの不等式、エントロピー
- 4. 自由エネルギー ヘルムホルツエネルギー、ギブスエネルギー、マックスウェルの関係式、ギブスエネルギーの圧力・温度依存性
- 5. 化学ポテンシャルと化学平衡 相平衡と相律、クラペイロン・クラウジウスの式、化学ポテンシャル、化学平衡、質量作用の法則、ル・シャトリエの原理

成績評価方法 教科書 担当教員の UTAS シラバスを参照の事。

その他。/Other

3X/17 E	次付百 COIE。 / Oulci						
※講義の詳	※講義の詳細については、UTAS を参照すること						
時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス			
30443	火 3	藤田 雅弘	741 教室	1年 理一 理二三(4,16,18,20,22)			
30445	火 3	細野 暢彦	721 教室	1年 理一 理二三(6,8,11,15)			
30911	木 2	小倉 賢	1101 教室	1年 理一 理二三(1-3,5,7,9-10)			
30912	木 2	瀬川 浩司	761 教室	1年 理一 理二三(12-13,17,19)			
30913	木 2	若杉 桂輔	1331 教室	1年 理一 理二三(14,21,23-24)			

物性化学

S 1 物性化学 開講区分

授業の目標・概要 物質の多様な構造、性質および反応を理解するための、基礎的な化学の概念、理論を具体的な化合物を例にし て学ぶ。以下の項目とその関連事項を内容とするが、教員により順序や重点の置き方に少し違いがある場合も

ある。 1. 多原子分子の構造

ルイス構造と分子構造、共有結合の方向性、混成軌道

2. パイ結合の化合物

共役二重結合、共鳴、ベンゼン、芳香族化合物

3. パイ電子と分子軌道

パイ電子近似、LCAOMO、変分法、HOMO と LUMO

4. 配位結合の化合物

Lewis 酸・塩基、金属錯体と配位結合、遷移金属錯体と d 軌道、結晶場 分裂

5. 分子間相互作用と凝集系、生体高分子化学

van der Waals 力、水素結合

6. 結晶の構造と結合

最密充填、単純格子、イオン半径と結晶構造、金属と半導体

7. イオン結晶

格子エネルギー、Madelung 定数、Born-Haber サイクル

成績評価方法

担当教員の UTAS シラバスを参照の事。

教科書

その他。/Other

関連ホームページ

http://www.iis.u-tokyo/~houjou/hjlab_wiki/

※講義の詳細については、UTAS を参照すること				
時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
30053	月 2, 木 2	北條 博彦	525 教室	2 年 理一(4,18,39)理二三(12)
30068	月 2, 木 2	横田 泰之	1225 教室	2年 理一(25-26)理二三(13)
30070	月 2, 木 2	廣瀬 靖	531 教室	2年 理一(27-28)理二三(10-11)
30133	月 3, 木 3	内田 さやか	1101 教室	2年 理一(22-24,29)
30137	月 3, 木 3	吉本 敬太郎	1102 教室	2年 理一(30,36-38)
30073	月 2, 木 2	西川 昌輝	532 教室	2年 理一(32-33)理二三(14-15)
30080	月 2, 木 2	青木 優	533 教室	2年 理二三(16-17,19,24)
30131	月 3, 木 3	竹中 康将	531 教室	2年 理一(20)理二三(1-3,7,21,23)
30430	火 3, 金 3	佐藤 守俊	533 教室	2年 理一(1-3,5,8,11)
30435	火 3, 金 3	豊田 太郎	1101 教室	2年 理一(15,17,35)理二三(4)
30432	火 3, 金 3	寺尾 潤	1102 教室	2年 理一(12-14)理二三(22)
30442	火 3, 金 3	宮島 謙	1108 教室	2年 理二三(5-6,9,20)
30513	火 4, 金 4	片山 正士	1102 教室	2年 理一(6,10,16)理二三(18)
30515	火 4, 金 4	溝口 照康	533 教室	2年 理一(7,9,31,34)
30517	火 4, 金 4	豊田 太郎	1101 教室	2年 理一(19,21)理二三(8)

生命科学

教科書

生命科学 開講区分 S 授業の目標・概要 本講義は理科1類の学生に特化し,生命現象の中でも数式で表しやすい内容を計算演習とコンピュータの活用によ り学ぶ。数理ダイナミクスの観点から生命現象の謎に迫るおもしろさを実感してもらうことを期待する。具体的に は、以下のような内容を予定している。 1. 生命科学の基礎

2. 生体物質:細胞を作り上げる物質群

3. 細胞の構造と増殖

4. 5. 生命の駆動力:代謝と自由エネルギー

遺伝情報

生命のシステム的理解 6.

7. 生命のダイナミクスとパターン形成

8. マクロなダイナミクス 9. 生命科学の数理的展開

毎回行う練習問題と試験 成績評価方法

次の教科書を使用する。 / Will use the following textbook 書名 演習で学ぶ生命科学 書名

東京大学生命科学教科書編集委員会 編 著者 (訳者)

出版社 羊土社

※講義の詳細については、UTAS を参照すること				
時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
30198	月 4	矢島 潤一郎	524 教室	2年 理一(6,11,16,22)
30209	月 4	佐藤 健	531 教室	2年 理一(17,23-24,32)
30664	水 2	黒田 大祐	524 教室	2年 理一(1-2,27-30,33)
30665	水 2	寺田 透	533 教室	2年 理一(3,26,35,39)
30667	水 2	長谷川 禎彦	523 教室	2年 理一(5,15,18,21)
30894	木 2	飯野 雄一	524 教室	2年 理一(8,12-14)
30907	木 2	山口 哲志	1108 教室	2年 理一(34,36-38)
31179	金 3	杉山 宗隆	532 教室	2年 理一(4,7,9,19)
31181	金 3	舘野 正樹	1225 教室	2年理一(10,20,25,31)

生命科学 |

金 3

31191

生命科学 I 開講区分 S 生命科学の基本概念と遺伝・膜構造・代謝を中心とした生命現象のしくみについて、分子から細胞までの構成原理 授業の目標・概要 を概観する。 1. 生物の多様性と斉一性 2. タンパク質の構造と機能 3. 遺伝子と遺伝情報 4. 細胞の構造 5. 代謝と光合成 成績評価方法 定期試験 次の教科書を使用する。/Will use the following textbook 書名 理系総合のための生命科学 第 5 版 教科書 東京大学教養学部理工系生命科学教科書編集委員会 編 著者 (訳者) 出版社 (株) 羊土社 ISBN 9784758121026 **ISBN** ※講義の詳細については、UTASを参照すること 時間割 曜限 担当教員 教室 対象クラス コード 月 4 美川 務 532 教室 1年 理二三(5,9,12-14) 30216 月 4 豊島 陽子、教員未定 533 教室 1年 理二三(17-18,21-22,24) 30218 矢島 潤一郎 1年 理二三(1-3,7-8,20,23) 31075 金 1 1106 教室 31082 金 1 池内 昌彦 532 教室 1年 理二三(10-11,15,19)

1331 教室

渡邊 雄一郎

1年 理二三(4,6,16)